



# 教会学校教案誌

2006.1.2.3月号

日本キリスト改革派教会  
中部中会教育委員会

No.20

## 2006年1～3月カリキュラム (第20号)

— 『子どもカテキズム』に基づく二年サイクル第2年—

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単 元 の 目 標			
1月1日 新年	一年の感謝と始まり	—	—
		詩編100	詩編100:2
<p>昨年<small>の</small>歩み<small>を</small>感謝し、主<small>を</small>ほめたたえて新しい一年<small>の</small>歩み<small>を</small>始めよう</p>			
8日	祈りとは何か (一)	間76	ハイデ116, 117、ウ小教理98
		サムエル上3:1-14	サムエル上3:10b
<p>祈りは御言葉に耳を傾けることから始まる。主の呼びかけに耳を傾けよう</p>			
15日	祈りとは何か (二)	間76	ハイデ116, 117、ウ小教理98
		ヨハネー5:13-15	ヨハネー5:14
<p>祈りは主なる神に信頼する信仰のあらわれである。どんなことでも素直に祈ろう</p>			
22日	祈りのお手本	間77	ハイデ118, 119、ウ告白14章
		ルカ11:1-4	テサロニケー5:17
<p>主イエスの祈り「主の祈り」をお祈りして、お祈りを学び身に付けよう</p>			
29日	天の父よ	間78	ウ小教理100、ハイデ120-121
		ローマ8:14-16	ローマ8:14
<p>神の子とされた感謝と喜びをもって父の御名を呼ぼう</p>			
2月5日 (信仰の自由)	御名を あがめさせたまえ	間79	ウ小教理101、ハイデ122
		ダニエル6章	ダニエル6:11c
<p>祈りとは、神を神としてあがめることである。御名をほめたたえて祈ろう</p>			
12日	御国を来たせたまえ	間80	ウ小教理102、ハイデ123
		フィリピ3:20	マルコ4:30-32
<p>祈りとは、御国の完成を待ち望んで生きることである。再臨を待望して祈ろう</p>			
19日	御心の天になるごとく	間81	ウ小教理103、ハイデ124
		マタイ26:36-46	ヨハネー3:16
<p>主イエスの祈りに学び、神の御心を喜び受け入れることができるよう祈ろう</p>			
26日	日用の糧を与えたまえ	間82	ウ小教理104、ハイデ125
		マタイ6:25-46	マタイ6:33
<p>主は私たちの必要をすべてご存じである。私たちの必要のすべてを求めて祈ろう</p>			
3月5日 レント	我らの罪を赦したまえ	間83	ウ小教理105、ハイデ126
		ルカ23:32-38	ルカ23:34a
<p>十字架の主イエスの祈り。十字架のキリストを仰いで、罪の赦しに生きよう</p>			
12日 レント	悪より救い出したまえ	間84	ウ小教理106、ハイデ127
		ヨハネ17:13-19	マタイ26:41
<p>勝利の主イエスが私たちのために祈られた。私たちも誘惑に負けないよう祈ろう</p>			
19日 レント	頌栄	間85	ウ小教理107、ハイデ128
		ヨハネ黙示録5:11-14	ヨハネ黙示録5:13
<p>祈りは神をほめたたえて閉じられる。神に栄光を帰して感謝と喜びをあらわそう</p>			
26日 レント	アーメン	間85	ウ小教理107、ハイデ129
		ヨハネ黙示録3:14	コリント二1:20
<p>祈りはキリストの真実によって支えられている。心から「アーメン」と言おう</p>			

も く じ

2006年1・2・3月カリキュラム

まえがき .....	吉田 隆	4
巻頭説教 .....	村手 淳	5
日曜学校・教会学校訪問		
稲毛海岸教会日曜学校の紹介 .....	三川栄二	8
連載「日曜学校教師会のために」 .....	相馬伸郎	13
自由募金のお願い .....		22

聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例 .....

1月1日 .....	24	
1月8日 .....	31	
1月15日 .....	39	
1月22日 .....	47	
1月29日 .....	55	
2月5日 .....	63	
2月12日 .....	71	
2月19日 .....	79	
2月26日 .....	87	
3月5日 .....	95	
3月12日 .....	103	
3月19日 .....	111	
3月26日 .....	119	
幼稚科「祈りのカギカード」 .....	127	
成人科 .....	木下裕也	128

2006年4・5・6月カリキュラム .....

2006年度 年間カリキュラム .....	132
編集後記・あとがき .....	134

# まえがき

吉田 隆 (仙台教会牧師)

私の教育観に決定的な影響を与えた人に、林竹二という先生がおられます。私が学生の時にはもうすでに退官されお会いすることはついぞなかったのですが、先生のことはほとんど伝説のように語り継がれていました。教育哲学者であると同時に類まれな実践家でもあった先生の「授業」は、当時では珍しく記録映画になったほどです。それまですでに文字や写真で中身はわかっていたのですが、実際に映像を通して目の前に繰り広げられる生の授業は、一つの衝撃でした。

先生は、私共仙台教会の故・角田桂嶽先生から洗礼を受けられ一時は神学を志されたこともあるそうなのです（「創世記」という授業も残っています）が、その後はむしろギリシャ哲学の研究者として知られています。ソクラテスの“産婆術”にならったという子どもたちとの対話による教育実践は、まるでカテキズム教育のお手本のようなものでした。狼に育てられた少年や幕末の開国といった素材を通して、ごく素朴な疑問から始まってやがて子どもたちを「人間とは何か」という問いへと追いつめて行く。そんな授業でした。あどけない無邪気な子どもたちの表情がどんどん変化して行くのがわかるのです。まるで大人のような顔つきになるのです。授業とはたんなる知識の伝授ではないと、この時初めて実感したのでした。

もう一つ、私が深く教えられたエピソードがあります。先生は、東北大学教育学部から教員養成課程を独立させた宮城教育大学の初代学長となられた方ですが、最後まで二つを分けることに反対されたそうです。優れた教育実践は深い教育理論と教材研究に基礎付けられねばならない、というのが先生の特論であったからです。

二つの大学に分かれる以前、大学院に入ってきた学生が保育士を志していることを知り、たいそう喜ばれたということを知りました。相手が小さな子どもであればあるほど、手を抜いてはいけない。教える側も真剣に学ばねばならない、というわけです。

\* \* \*

「よき教師・賢明な教師のなすべきことは、自分が教育の責任を持つ人々の能力に自分を順応させることであろう」とは、ジュネーヴの改革者の言葉です（『コリント前書注解』3:2）。カルヴァンはまた、毎日少しずつ子どもたちがやり遂げられるように配慮することが肝要であり、子どもたちのささやかな意欲や自信を失わせてはいけないとも書いています。教育の業は、子どもたちが自分で学んでこそ意味があるのであって、教師はいわば黒子です。子どもたちが真理を知る喜びを味わい成長するために、そのためだけにひたすら教師たちの研鑽と努力、忍耐と祈りが求められるのですね。

先の林竹二先生は尼崎にある夜学の学生たちにも授業をしたことがあります。ある時、その先生方の前で土下座をして非礼を詫びたそうです。自分はたまさか訪れて高慢にも授業をしていたが、自分の授業が成り立ったのは日夜生徒たちのために心血を注いで授業をしている先生方がおられたからだ、と。

人を育てる業に“王道”などありません。子どもたちに向き合い続け、何とかしてわかってもらおうと四苦八苦する教師たちの姿から、子どもは何かを感じ取るのかもしれませんが。この『教案誌』にギッシリ詰まった神様の真理が、日曜学校で奮闘する先生方を通して、子どもたちの心に届きますように！

## 「ヨセフのお話」

—創世記45章4～8節による説教—

村手 淳（太田伝道所宣教教師）

ヨセフは兄弟たちに言った。

「どうか、もっと近寄ってください。」

兄弟たちがそばへ近づくと、ヨセフはまた言った。

「わたしはあなたたちがエジプトへ売った弟のヨセフです。しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。この二年の間、世界中に飢饉が襲っていますが、まだこれから五年間は、耕すこともなく、収穫もないでしょう。神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。神がわたしをファラオの顧問、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者としてくださったのです。」

（創世記45章4～8節）

私の教会の日曜学校で、「神さまの摂理」を扱うために、このヨセフの一連のお話をとりあげました。夢を解き明かす賜物を与えられたヨセフが思いもしない仕方でエジプトの主となり、父ヤコブをはじめ、ヨセフを売った兄弟たちまでもが神さまの大きな救いを見ることになりました。神さまはこのことをヨセフの夢でしめしておられましたが、そのことの本当の意味を理解するのは、救われた時でした。上記の聖書の箇所は、ヨセフが兄弟たちの前で身を開かした時に言った言葉で、救いの一連のことが神さまの摂理であったことを告白した箇所です。摂理的に導かれる神さまのすばらしさを覚えるお話です。

更にこのお話は、神さまのなさる摂理的な御業がどのようなものなのか、その深い意味を私たちに教えてくれます。それは一方ではヨセフの体験とその解き明かしを通してであり、他方ではヨセフを穴に落とした兄弟たちの側からの

体験を通して学ぶことができます。こうしてヤコブの家全体がそれぞれの立場から「私たちが大いなる救いに至らせるためです。」という神さまの摂理を学び、読者に語ってくれています。

ヨセフが最初に夢を見て、父や兄弟に語ったのが、17歳のときとあります（37：2）。それから「エジプトの王ファラオの前に立ったとき30歳であった。」（41：46）とあります。兄弟たちとの再会は7年の豊作後の飢饉2年目のことですから、39歳となります。族長時代の17歳という年齢が現代でのどのくらいにあたるか正確にはわかりませんが、大人になりつつあるその時に夢を見たヨセフは、その後20年あまりのエジプトでの体験を経て自分とその家族の上にある神さまの導きに大きな神さまの愛を見いだしたのです。私たちも同様に人生を通して、摂理の御業とその神さまのご性格、その御心を理解するのだと思います。

ヨセフはこのことを17歳の時の夢で見えています。時がくだって兄弟たちと最初の再会を果たした時に「かつて兄たちについて見た夢を思い起こした。」(42:9)とありますから、この夢は私たちがよく見る生理的な夢ではなくて、神さまの事前通知であったこと、ことが成就したときに、それが神さまの御業としておこなわれたことを証明するためのものだったわけです。しかし、17歳のヨセフがそのことを最初から理解していたわけではなさそうです。いかにも兄たちが憤慨しそうな内容の夢を兄たちに語ったり、一度嫌な感じを与えた兄たちに再度、それも父にまでも二度目の夢を語るあたりは、ヨセフの純朴の性格と理解してよいのかどうか、疑わしく思えます。見た夢が突拍子もないものだったから話したのか、それとも兄弟の中で一番下のヨセフは兄たちに対してちょっと天狗になっていたのか、創世記はその時のヨセフの思いを記していませんから、どんな感じだったのかまったくわかりません。それでも、ヨセフがこのときその真の意味を理解していなかったことだけは確かなようです。ヨセフは兄弟との再会のときにこの夢を思い起こしたのですから。ヨセフからするとこのあとポティファルの家での体験と更に監獄での体験を通して、その意味をだんだんと理解していくようです。ポティファルの家でも監獄でも「主が共におられ、主が彼のすることをすべてうまく計られる」(39:3)とか「主がヨセフと共におられ、恵みを施し、監守長の目になうように導かれたので」(39:21)とか、主の助けと導きを体験していきます。こうした体験と訓練がその後のヨセフの言動にあらわれてきます。たとえば、監獄で給仕役の夢を解き明かしたとき「ついては、あなたがそのように幸せになられたときには、どうかわたしのことを思い起こしてください。」(40:14)と御願いしたり、ファラオの夢の解き明かしのとき、その内容を聞く前から「神がファラオの幸いについて告げられるのです。」(41:16)

と幸いであることを理解しています。ヨセフにとってポティファルの家でのことや監獄でのことは、神さまから夢を理解していくための訓練であって、ファラオの夢を解き明かしたヨセフは17歳のヨセフから大きく成長しています。兄たちと再会したヨセフは、すぐに自分の身をあかさず、兄たちの様子をうかがいながら、少し試したりもしますが、兄たちの変化に気付き、身を明かしたヨセフは、三度も「わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です。」と告白しています。兄弟たちから憎くまれ、さらにはポティファルの家では主人の妻にはめられ、監獄では助けた人に忘れられ、大変な苦難をなめました。しかしだからこそ、その度に主が共におられることを覚えてでしょうし、その主のご性格もその導きの意味も理解し、見てとることができる信仰をもつことができたのでしよう。

このことはヨセフだけではなく、兄たちについても同様のことが言えるでしょう。兄たちもヨセフと再会することを通して、明らかに昔の様子とは変化しています。

神さまは摂理的な導きによって兄たちをも救いへと至らせてくださいますが、兄たちの弟への罪を見過ごされたわけではありません。むしろ逆に兄たちはヨセフと再会し、ヨセフの試みを受けることによって、このときのことを強く意識するようになりました。「ああ、我々は弟のことで罰を受けているのだ」(42:20)。払ったはずの銀が袋に戻っているのを見て、「みんなの者は驚き、互いに震えながら言った。『これは一体、どういうことだ。神が我々になさったことは』」(42:28)。ヨセフのまえで、またそのやり取りの中で、彼らは罰を受けているのか、恵みをうけているのか、戸惑い、恐れ、揺れ動きます。ヨセフから弟を要求され、兄たちは父ヤコブを説得することでも、更にヨセフの前でも自分を弟の代わりとして差しだそうとします。兄たちは、こうした揺れ動くなかで、以前の自分

たちの罪を思い起こし、だからこそ、その罪の身代わりとなって、自分を差し出すように変わっています。ヨセフが身を明かさずにはいられなくなったのも無理はありません。兄たちは明らかに昔の兄たちではなかったからです。

ヨセフはエジプトの主となったとき、「神が、わたしの苦勞と父の家のことをすべて忘れさせてくださった。」と言って、長男をマナセ（忘れさせる）と名付けましたが（41:51）、兄たちと再会し、夢を思い起こし、更にその兄たちの姿を見て、自分だけでなく、兄たちの上にも神さまの大きな御業を見たのでしょう。そのためにこそ、エジプトの主となっている自分の召しを

確信したにちがいありません。

更に父ヤコブも故郷を離れて、エジプト下りをする時に神さまからの呼びかけと約束を受けますが、亡くなったはずの愛しい息子を取り戻し、約束の地であるふるさとを離れることと、更にそこに連れ戻し下さる神さまの約束とを仰いだことでしょう。こうしてヨセフも兄たちもそして父ヤコブもそれぞれに神さまからの導きを受けました。こうして神さまは御自身のご計画とその意味とをそれぞれに明らかになさったのです。

（太田伝道所日曜学校でのヨセフお話の要約）

## 稲毛海岸教会日曜学校の紹介

三川栄二（稲毛海岸教会牧師）

### 1. 「教会学校」の中に位置づけられた

#### 「日曜学校」

稲毛海岸教会は、千葉県千葉市美浜区という、30年前までは潮干狩りで有名だった「稲毛の浜」の埋立地に位置する教会です。1992年4月に現在の場所に移転し、1997年に稲毛海岸教会と改称しました。東京ディズニーランドから電車で20分の場所にあります。主日朝礼拝には子供を含めて70数名ほどの方々が集っていますが、「子供と共なる礼拝」を目指し、子供も礼拝者として主体的に参加する礼拝を形成することを願ってきました。具体的には、小さい子供が礼拝に出席する中での様々な配慮と工夫、特に礼拝で交読する「使徒信条・主の祈り・十戒」を子供の好きなキャラクターで作成すること、「主の祈り」を子供の速度に合わせて共に祈ること、年に三度の日曜学校との合同礼拝（クリスマス・イースター・ペンテコステ）を実施することなどですが、来年度からはさらに日曜学校教師会の計画立案による合同礼拝や、子供と大人が共に楽しめる午後の様々な集会なども実施できたらと考えています。こうして日曜学校に集う児童たちと教会に集う大人たちが、「一つ」の信仰共同体である稲毛海岸教会として形成されていくことを願っています。

稲毛海岸教会では「日曜学校」として、子供たちに対する教育活動を実施していますが、それは日曜学校とは別に「教会学校」があるからです。教会学校は、青年会・婦人会・男子会という各会の活動を毎月第二主日午後を実施していますが、そこに「ラミー・クラブ」として契約の子を対象とした会を行っていたからでした。

残念ながら、2005年4月からは、それを担当していた牧師が、青年会の指導をしなければならなかったため、第二主日午後の活動は休止しています。しかし、子供たちのほうから自主的に「子供会」を発足させて、会長・副会長・書記といった役員を選び、会則を定めて、婦人会・男子会に出席している親を待っている間、自主的に活動して（遊んで）います。ラミー・クラブの大きな活動は、「毎日の家庭礼拝」にあります。稲毛海岸教会では、毎日1章ずつ読み、3年間で聖書全巻を読み通す通読をしており、そのための聖書日課を牧師が執筆し、毎週発行しています。しかしそれとは別に、子供向けの聖書日課を発行し、それに基づいて毎日、家庭礼拝を実施するようにしています。以前は中高生向けと児童向けの二種類を発行していましたが、現在はそれを統合させた形で発行しています。さらに、日曜学校のお泊まり会とは別に、「ラミーお泊まりキャンプ」を実施して、子供たちはもとより、信仰者としての親同士の交わりと励まし、さらには教会に来ていない親や家族との交わりを造り上げようと努力しています。また、毎月第四土曜日に、『ラミーカテキズム』に基づく「子どもカテキズムクラス」を実施して、契約の子が信仰告白に至るまでの信仰の導きをしています。『ラミーカテキズム』は牧師が自作した、全50問からなるカテキズムで、日曜学校児童礼拝でも交読文として用いられています。2001年、第56回大会において、教育委員会研究レポートとして提出されていますので、それぞれの教会の先生に問い合わせてみてください（2003年、第58回大会提出の教育委員会研究レポート、『キリスト教要説』資料集の中にも掲載されています。



す)。また子育て中の母親のために、信仰継承や礼拝出席での悩みを含めた問題を共に分かち合い、学び、祈り合うために、毎月第三月曜日に「ぶどうの木の家」を実施しています。毎回4～5人の教会員の母親たちがテキストを中心に学びつつ、悩みを分かち合いながら、励まされています。これらの活動の意図は、神から委ねられた子供を養育するというはもちろん、そこにおける信仰継承と礼拝出席という課題を、親だけに背負わせるのではなくて、教会全体の責任とし祈りの課題とするということです。契約の子達を、教会の子供たちとして、教会全体で育てていくような教会となっていくことを目指したのですが、まだすべてその途上にあります。しかしそのような意味でも、教会学校の中に日曜学校が位置づけられているのです。将来的には、教会学校が日曜学校を含めた、稲毛海岸教会の教育活動全体の責任を担い、修養会や交わりのための具体的な集会や活動を企画すると共に、そのための教育カリキュラムを作成したり、子供と共なる合同礼拝での礼拝プログラムを作成していく、より包括的な活動をしていくことを目指しています。

## 2. 日曜学校の様子とカリキュラム

### ①カリキュラム

稲毛海岸教会日曜学校では、教会暦による三年サイクルの独自教案に基づいて教育カリキュラムを組み立てています。教会暦に基づいて一年を「教会の半年」（聖霊降臨節から降誕前節第5主日まで）と「主の半年」（降誕前節第4主日＝待降節から降誕節、受難節、復活節まで）に分け、「教会の半年」では、天地創造から新天新地までの神の民の歴史を三回に分けて学び、「主の半年」では、主イエスの生涯と教えを、1年目はマタイから、2年目はマルコから、3年目はルカから学ぶように組み立てられています。節目となる降誕日、復活日、聖霊降臨日は、「合同礼拝」として、日曜学校生徒が主日朝礼拝に

共に出席し、そこでの礼拝は、説教はもとより、招きの言葉、牧会の祈り、交読文、祝福と派遣の宣言などの礼拝の要素も、児童に配慮した礼拝をささげます。献金の奉仕と祈りも児童がします。そのようにして教会暦を意識しつつ、毎日を生き、季節を巡る、生の営みの全体で、主イエスを覚え、信仰を意識ながら生きていくことを願っています。

### ②児童礼拝

日曜学校は午前9時からですが、その前の10分間、教師たちの祈禱会が持たれ、その日の確認と共に、神の祝福を祈って始められます。現在の教師は、奉仕協力者を含めて9名で、協力者を除く7名の教師が廻り持ちで、児童礼拝での司式と説教を担当しています。奏楽は主に奏楽担当の姉妹が奉仕されますが、献金賛美の奏楽を何人かの児童が奉仕するようになってきています。もっと多くの部分を担当できるように、さらには将来的には「合同礼拝」の時には、児童が奏楽できるようにと訓練に励んでいます。礼拝では毎月一つずつ、暗唱聖句にも励んでいます。一年で12句ですが、何年も続けていったら、それは子供たちにとって大きな心の宝となっていくでしょう。礼拝の後、分級を開始する前に、全員で新約聖書を1章ずつ、輪読しています。はじめはたどたどしくしか読めなかった低学年の子供たちが、すらすらと読めるようになっていく姿に、彼らの成長を覚えて感謝しています。礼拝出席は、保護者を含む大人が12名、児童が18名、合計30名です（2005年9月）。

### ③分級

9時30分頃から各分級に分かれます。現在は、こひつじ科、幼稚科、小学下級科、中級科、上級科、ジュニア科に分かれています。こひつじ科は、いわゆる幼児科で、幼稚園や保育園に入る前の子供たちのクラスです。ジュニア科は、中学生になってからも日曜学校から離れないた

めに、小学6年生から中学生のクラスとなっています。しかし少し人数が多いので、来年度はそれをさらに二つに分けることも検討しています。中高生が教会につながるための努力を、特に担当の教師たちが時間と労力をささげて奉仕してくださっています。そのために、第一主日午後「中高生会」を実施して、主に相互の交わりに重点を置いた会を行っています。冬には、中高生会の生徒たちが、自分たちで作った「肉まん、あんまん」を朝礼拝の後で販売し、それを津波と地震被害にあった方々に献金しました。彼らの活動が、ただ自分たちの楽しみだけではなく、外へと心が向けられていくほど成長した姿に、深い喜びを覚えました。分級の内容は、こひつじ科は適宜、幼稚科は「字のない本」、下級科はマルコ、中級科はマタイから主イエスの生涯を、上級科は使徒言行録から教会の歴史を、ジュニア科は『大人と子供の教理学校』に基づく教理の学びをしています。それぞれに教師たちが工夫して、自作のワークを作り、楽しい分級となるように励んでいます。

### 3. 年間行事

#### ①クリスマス・イースター・ペンテコステ合同礼拝

日曜学校児童も主日朝礼拝に共に出席し、共に礼拝者として参加することにより、契約の子以外の児童が礼拝に出席する体験をすると共に、大人の方々も日曜学校の働きとそこに集う生徒たちを覚えてもらいたいと願っています。プログラムでは、暗唱聖句と特別賛美も組まれて、実際の子供たちの姿を見ることができます。その日だけは、児童礼拝は主日朝礼拝に合流することになるので、賛美練習などをします。クリスマスでは、その前日に「子供クリスマス会」を行い、そこでは恒例のページェントをします。クリスマス礼拝の午後に行われる祝会においても、それが披露されることになっています。イースターでは、恒例の「エッグハント（卵探し）」

をしています。

#### ②誕生会、餅つき大会

第一主日には、その月に生まれた児童を皆で祝福する「誕生会」を実施しています。その日は分級をしないで、全体でゲームをして楽しめます。また1月には、教会の大人の方々に日曜学校を覚えていただき、交わりを持つために、「餅つき大会」を実施しています。2005年は、児童14名、大人17名、合計31名の参加でした。

#### ③子供クッキングクラス、キッズデー、子供クリスマス会

新しい子供を増やしていく試みとして、年に何回か「子供クッキングクラス」を開催しています。また「キッズデー」といって、わたあめ、輪投げ、キャンディ釣り、ポーリング、焼きそば、たこ焼きといった屋台を、教会の方々に協力していただいて、児童が自分の友達を教会に誘う機会を提供しています。「子供クリスマス会」では、児童たちによるページェントの他に賛美や出し物などで、近隣の児童が教会に集うようにはかっています。

#### ④ジュニアキャンプ、一泊お泊り会、遠足

夏には、東関東地区によるジュニアキャンプが開催され、小学4年生以上の児童たちが喜んで参加してきました。残念なことに2006年からは開催されなくなるので、教会独自のキャンプを開催することを検討しています。それとは別に、夏休みの最後の土日に「お泊り会」をして、教会で一泊する夏季学校を開催しています。秋には遠足に行きます。

### 4. 教師会

「教師会」は毎月第三主日午後に行われ、各分級の様子、特に霊的な状態についての報告、次月の奉仕分担（司式・説教）の確認と賛美練習、暗唱聖句の確認、行事の計画と役割分担の確認、

そして教材研究がなされています。現在のカリキュラムは、教案誌のような参考書がない独自カリキュラムのため、それぞれに自分が担当する箇所についての主題や内容などの検討をします。これまでは長い間、牧師が教材研究をしてきましたが、この2年ほどは牧師が多忙のため、教師たち自身でなされてきました。しかし2006年からは再び牧師が教材研究する方向で検討されています。そして時間の許される限り、テキ

ストに基づく研修も実施しています。さらに教師としての資質向上をはかるため、毎年、教会独自で「日曜学校教師研修会」を実施し、児童説教の作り方、児童礼拝のあり方などを学んできました。また日曜学校の働きを、保護者や教会の方々に理解していただくために、「日曜学校ニュース」を毎月発行して、日曜学校の様子を伝えています。

礼拝風景



分級



こひつじ科



下級科



中級科



遠足

## こどもしゅうほう

2005年10月16日発行  
 編集 山崎 茂生  
 発行所 本会

巻くじ	10月号特集
まのつり	19
こぶく文	20
こぶく文	21
せいしよ	22
おいのり	23
おはなし	24
さんび	25
おんげん	26
おんげん	27
おんげん	28
おんげん	29
おんげん	30
おんげん	31

監修 野口 和子

こどもしゅうほう



子どもクッキングクラス

### SS (日曜学校) ニュース

10月号  
 日毛海岸教会日曜学校

台風17号が早々に秋を運んでくれました。汗だくのおの香さがウソのようにすっかり秋がやって来ました。夕暮れも子どもたちの遊ぶ声にかわって虫の鳴き声が響きます。教会のとなりの公園に立っている一本の銀杏の木が日ごとに色づいていくのが楽しみです。

季節の変わり目にも悩みます。神さまからのたくさんのプレゼントを確かに受け取る瞬間を体験するのです。季節だけではなく、日曜日ごとに出来る子どもたちの歌、話す言葉、はしゃぐ声や動作の中に神さまがひとりひとりにふさわしく成長させてくださっていることを知ります。 神さま有難うございます。

**\* 今月の確信宣言:**  
 御言葉を宜く伝えたい。祈りがよくても感謝も感じない。  
 (2テモテ4: 2)

**\* 9月の会計**

収入	8,104円
支出	3,048円
現在残高	117,853円

**\* 9月の出席数**

小男子 (幼・小・中) 平均	7人
小女子 (幼・小・中) 平均	11人
大人・男平均	2人
大人・女平均	10人
<b>平均 30人</b>	

日曜学校ニュース



ジュニアキャンプ



クリスマスページェント

## 第10回 分級と牧会

相馬伸郎（『教会学校教案誌』編集長）

### 子どものための牧師

日曜学校の教師会を指導する務めを担う牧師として、教師にもっとも求めたいことは、子どもたちの牧会者となっていただくことです。言わば、「子どもの牧師」となることです。最初におさらいになりますが、日曜学校教師とは、与えられた子ども達のために、「キリストの代理」として「預言者、祭司、王」としての務めを担うべく、召しだされ、職務につく者です。

主日の、あるときは預言者（説教者）として、子ども達に御言葉を解き明かし、伝えます。また、分級では、準備したカリキュラム（御言葉・教理）を子どもの現実に適応して宣言し、教えます。

また、週日は、各々の家で、担任した子ども達のための「祭司」として個人的に祈り、教会の祈祷会で公的に執り成し祈ります。その祈りの準備があつてこそ、毎主日の日曜学校を真実に担うことができると思います。一週間、執り成しのお祈りをまったく息って、主の日に子ども達と顔を合わせることができのでしょうか。

さらに週日に、「僕としての王」として、とくに休んだ子ども達に、電話をしたり、葉書を書いたりして配慮します。もし事情が分からないまま欠席が三回続いたら、訪問も必要となるでしょう。ある牧師が集会で、「地域の子が続けて休んでいたとき、そのままにしていた。後で、その子が入院していたことを知って、あわてて訪問したが、もはやその子が教会に来ることはなかった」と、鎮痛な面持ちで訴えられたことがあります。

ちなみに、名古屋岩の上伝道所では、「子ども週報」「中高科週報」を毎週、発行しています。

週報があれば、休んだ子に、この週報を子ども達が持って行くことも可能です。そうなれば、子どもどうしの相互牧会にすなるでしょう。この週報には、奉仕者が週報を通して子ども達の心に向き合い、牧会しようとする意識がよく出ています。週報作成においても、牧者としての意識が強く働き、王職、預言者職としての意識も重層的に働いているのです。そのなかでもっとも大切なのは、祭司の心、牧者の精神であると思います。

### 発達に即した分級

日曜学校には、分級が設けられています。たとえば、名古屋岩の上伝道所では、乳児科・幼稚科・小学科下・中・上・中学下級科・中高校科と七つの分級で担われています。それは、発達年齢によって、言葉づかい、教える内容、教え方を変えることが必要であると判断しているからです。「ユダヤ人に対しては、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。～弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。」（コリント一第9章20節以下）と言った使徒パウロの姿勢からこそ学べるはずです。

発達心理という学問はもとより、心理学そのものが20世紀に開拓、展開された若い学問です。しかし、真実の学問は一般恩恵ですから、私どもの実践の助けになることは確かであると思います。ただし、発達心理の分析は、学者の数だけ多様です。つまり、そのまま受け入れる必要はまったくありません。教師方は、発達心理学

を学ばなければ教師となれないなどと考える必要はありません。子どもと深く触れ合うことによって、学びとることができると思います。たとえば、下欄の表は、リロイ・アデン（ルーサー・セオロジカル・セミナーの牧会学教授）の分析で、エリク・エリクソンの理論をもとに年齢に応じた信仰の課題、学ぶべき信仰の深みを整理しています。彼は、信仰にはいろいろな側面があり、その年齢に応じて学ぶべきことは違うのだとしました。一例として、ご紹介しておきます。

発達心理学を学ぶ有益さの一つは、すべての年齢層にある人間は、みな等しく成長の各段階にある存在であるということに気づかされることであると思います。たとえば、大人の目線（はかり）で子どもを見るだけなら、不完全な状態にある人間であるとしか考えられなくなるおそれがあります。しかし、子ども達は、それぞれの段階において「完全・十分」であれば良いのであって、つまり「子どもらしい子ども」で良いという見方が確保されるでしょう。何よりも、子どもから学ぶ視点が確保されます。

### 子どもの共同体形成的牧会

しかしここでこそ、皆様と「教会」の分級の

視点を見失わないで頂きたいと注意を促したいと思います。つまり、分級とは、学校のように、教える内容とレベルを効率よく遂行するためだけになされるものではありません。同年齢の交わりをつくることも、きわめて重要なのです。

「子どもカテキズム」は、ウェストミンスター小教理問答に準拠しております。しかし、ウェストミンスター小教理問答には、教会論が記されていません。（そもそも小教理は、大教理と併用することが求められているわけですが）。これは、日本における教会形成と伝道の現場においては、決定的な弱点となると考えています。

聖書と教会と教理とは、密接に結び合わされています。おおざっぱな言い方になりますが、聖書と教理との間に、教会があります。カテキズムの中に、教会論の「粹」がはっきりしていませんと、教理を体得する場を失って、教理が上滑りする（信仰が抽象化してしまい、生活が伴わないこと）危険性があると思います。

「本誌の基本方針」は、「子どもカテキズム」同様、子どもの礼拝式の充実によって、キリストとの交わりがなされることを強調しています。子どもたちの礼拝共同体の形成を目指しているのです（第8・13・17号参照）。教会における礼拝経験なしに、私どもの伝道、教育は成立しな

発達段階	信仰の課題	聖書の実例	信仰の成長をもたらすもの
乳児 (0～2)	信頼としての信仰	詩編8：2-3、131：2 テモテニ1：5	教会と両親の祈りと愛情
幼児 (2～4)	勇気としての信仰	マタイ19：13	教会と両親の祈りと愛情
幼稚園児 (5～6)	従順としての信仰		教会と両親の祈りと愛情
小学生 (6～12)	承諾としての信仰	サムエル上3：10 テモテニ3：15	聖書
思春期 (13～18)	自己像確立としての信仰	創世記37：2 サムエル上17章	キリスト者の友人
成人前期 (18～35)	献身としての信仰	エレミヤ1：6-7 マルコ1：16-20	先輩のキリスト者・指導者
成人中期 (35～60)	無条件の保護としての信仰	ガラテヤ4：19	苦難
成人後期 (60～)	無条件の受容としての信仰	ヒレモン	祈り

いのであり、それは分級の交わりを育てることとも密接に関わっています。

もともと牧会とは、決して個人の魂の配慮にとどまってはならないのです。教会共同体の形成を目指してなされるのです。子どものための牧会も基本は同じです。教師は、自覚的に、子どもたちに、教会が、主イエス・キリストとの交わり、信仰にとって決定的に大切なことを教えなければなりません。そしてそれを体験できるように、教師は、教師会を形成し、教会の様々な状況を整えるのです。

分級において、子どもたちどうしが、同じイエスさまを信じている信仰の仲間であること、一緒に祈ること、祈りあうことを励ますことが求められます。その意味で、教師自身が積極的に子どもたちに、自分のために祈ってほしいと頼んでください。教師自身のために必要ですし、子どものためにも大切なのです。

たとえば、契約の子たちの現実も、特に男の子たちは教会に来て、輪になってひたすらゲームに集中する姿を見ます。一概に否定するつもりはありませんが、そこにも交わりをつくるのが困難となっている時代の空気を見ることができます。日曜学校が、この空気を打破して信仰の交わりを育てることができたら、地域の子も、契約の子も、教会におけるキリストの臨在の確かさのなかで育てられると信じております(次回も触れます)。

## 地域の子の牧会

どのような牧会が求められるのか、教会がおかれている地域によってもずいぶん、異なってくるかもしれません。しかし、今や都会も田舎も関係なしに、時代のひずみ、罪の力は、無防備な子どもたちをこそ狙い、餌食にしています。

その結果を新聞紙面で見ない日は一日もありません。明らかなことは、子ども達が「心の居場所」、子どもの次元で「まことの慰め」を必要としているのです。道行くひとりひとりの子らの背後に、主イエスの牧会を受けさせてあげなければならない現実が、透けて見えるのではないのでしょうか。「日曜学校において」と誘ってあげなければならないはずです。

## 契約の子の牧会

地域の子たちの声が聞こえないと嘆く教会は、日曜学校の分級において、徹底して契約の子のための信仰・教理教育を施すことができるチャンスが与えられています。地域の子も伝道を後回しにしてよいというのでは決してありませんし、盛んな日曜学校は、契約の子たちにも大きな励みと自信を与えます。しかし、契約の子らが確実に信仰告白に導かれるなら、日本キリスト改革派教会の将来は、なお明るいと言えます。

地域の子らと共に日曜学校を行う場合、契約の子のための特別のプログラムを用意することも必要です。たとえば私どもは、「カテキッズ」という集会を第五主日の午後にかけております。昼食を共にし、牧師が、契約の子たちだけを集めてお話をし、その後、一対一になって祈ります。教師たちも手分けして、同じように祈りのときを持ちます。これは、彼らに、契約の子としての自覚を持たせるための集会です。普段、落着いて向き合うことができない牧師にも、楽しみなどときとなります。長女が信仰告白した際に、「子どもカテキズム」を一対一で学び続けました。牧師や長老によって、一対一の信仰告白を目指した学びがなされることも、必要です。

## 第11回 教師会形成

相馬伸郎（『教会学校教案誌』編集長）

### 福音の本質と教会共同体

日曜学校の営みに決定的な影響を与えるのは、教師の存在です。そこで、教師個人の信仰の資質が決定的に問われてまいります。この点をなおざりにして議論することは、机上の空論になるおそれがあります。この世の学校組織において、教師個人の資質が決定的に重要であることは、お互いに経験済みのことではないでしょうか。

2000年の教会の歴史において突出した個人の信仰者の目を見張るような活躍がありました。しかし同時に、熱心で献身的な無名の信徒たち、婦人の信徒たちの奉仕なしに、歴史を語ることもできません。日曜学校は、教会の業です。それは、常に共同体的なものです。簡単に言えば、チームプレーで担われるものです。

たとえば、まさに突出した個性的な伝道者、使徒パウロの手紙のほとんどが、「パウロとシルワノとテモテから書き送ります」というような、いわば「共著」のような書き方です。しかし、著者は一人パウロなのです。それなら何故、そのような書き方をしたのでしょうか。それは、パウロの伝道はいつでも、共に働く同労者との交わりに支えられてのものであったからです。シルワノとテモテは助手であって、その助手たちへの礼儀として書きとめた、というのではないと思います。

使徒パウロは、キリストの福音を、「わたしの福音」（ローマの信徒への手紙第2章16節）とすら呼びえたほど、キリストの福音を自分のものとしていました。その彼が、何故、教会宛に書き送る手紙の挨拶部分で、常に、「シルワノとテモテ」と書いたのでしょうか。それは、福音と

は、彼らとの具体的な交わりの中で生きられ、体得されたものという意味があると思います。彼らとの交わり、奉仕に生き、祈りあう交わりなしに、キリストの福音の全貌を知ること、その本質を究めることもできなかつたのだと思います。そもそも福音が語られ信じられるところには、必ずキリストの教会が生み出されます。キリストにある交わりを形成させます。また同時に、その交わりのなかで福音は確かめられ、体験させられるのです。それは、たとえば、新約聖書のほとんどが、教会宛、共同体宛に書き送られた性格を持っていることを見るだけでも自明のことなのです。

要するに、キリストの福音は、教会共同体を生み出し、形成させるのです。また、教会の交わりのなかで、福音は真実に証しされるのです。これが、聖書が証しする福音の本質です。スピーカー（本体）が、響かせる箱と常に組み合わせられているときスピーカーであるように、福音も、信仰共同体と不可分なものであり、交わりによって豊かに響き渡るものなのです。

### 子ども達の福音的共同体の中核としての 日曜学校教師会

この真理に基づけば、日曜学校の営みが正しく実るためには、子ども達による、子ども達のための福音的共同体の存在が求められることも自明になるのではないのでしょうか。そして、その中核になるのが、日曜学校教師会に他なりません。子ども達は、最初は福音の言葉のなかにその力を見、これにあずかるよりも、福音を共鳴している教師の存在と教師同士の交わりの中に福音の力を見、そこへと招き入れられるこ



とによって、福音を見る、そして知るようになるのではないのでしょうか。

これはまた、教師自身の体験からも、よく分かるのではないのでしょうか。もしも教師会に出席することが苦痛であれば、よい日曜学校奉仕を望むことはできなくなると思います。逆に、共に祈り、支え、励ましてくれる先輩、後輩の信仰の仲間たちがいれば、説教の準備に苦しみ、分級教案準備に焦って、責任の重さに押しつぶされるようなときでも、新しくやる気がわくと思います。

さらに求めたいことは、分級の生徒との交わりそのものから教師が福音的な慰めを受けることです。第10回でも取り扱いましたが、分級において、単に教える人と教えられる人という区別だけではなく、福音による交わりを育てるという意識をもって、教師が奉仕することが重要です。子どもの信仰と成長から教師が慰められるのです。子どもたちとの福音的な交わりからも教師は育てられるのです。

## 楽しい教師会をめざして

楽しい教師会、あるいは「楽しい奉仕」などという表現は、よろしくないのでしょうか。いえ、日曜学校ほど、楽しい奉仕にしなければならない奉仕も少ないと思います。なぜなら、教師が楽しんでいなければ、子ども達に楽しい日曜学校を味あわせることなどできないからです。

個人的な感想で恐縮ですが、中会会議や大会に出席して、会議そのものから恵みを受け、励まされたという経験は、残念ながらほとんどありません。しかし、各個教会の諸会議は、そうではありません。それは、会議が取り扱う範疇が異なるからです。もしも各個教会の各会（議）が、出席者にただ重荷となるようであれば、その教会や会自体が不健康な状況にあると診断することは的外れではありません。

日曜学校教師会を楽しい会議にするためには、子ども達を生かすために楽しい教師会が不可欠

だという「理解」の共有と、「心がけ」が大切です。その基本は、「兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい」（ローマの信徒への手紙第12章10節）に求められるでしょう。また、交わりを育てるための鍵となる信仰の真理は、「詩編と賛歌と霊的な歌によって語り合い」（エフェソの信徒への手紙第5章19節）という御言葉にあると思います。賛美とは、まさに神に向かうべきものです。人に聴かせるための賛美歌は、芸術でしかないでしょう。しかし、ここでパウロは、歌を歌うその心のままに、お互いに向かって語り合いなさいと勧めるのです。神に感謝し、賛美する思いのままに、兄弟を見るわけです。わたしは、ここに交わりを育てる鍵があると考えています。会議においてこの御言葉を意識することが大切です。

言うまでもなく、これらの本質は、信仰の課題です。これらを、精神論（品性とか性格）で扱うことは大変に危険です。むしろ、「技術」（言い方）の課題であることの方が多くとも指摘しておきたいと思います。

## 教師会で何をするのか

(1) 教師会は、現実には、ごく限られた時間でなされると思います。（ちなみに、名古屋岩の上伝道所では、毎月第三主日の1時30分から4時過ぎまで行われています。中高科は、その後さらに、独自に打ち合わせのときを持ちます。）もし、月に一度の教師会であれば、どれほど少なくとも2時間は必要となるでしょう。

多くの教師会の現実には、いきおい事務的なことを優先する傾向にあるかと思います。年間計画、行事計画、当月の礼拝式・分級の課題、問題の処理、賛美歌練習、子ども達の信仰的状況・課題の共有、翌月の計画・準備・確認などなど。それだけでもきちんとなすのは大変なことです。しかし、それだけで終わらせてはなりません。教師会の主要な目的は、教師の信仰の研鑽にあります。

(2) 教案研究にどれだけ時間を費やすことができるか、それが教師会の充実の一つの要素となります。弊誌発行の一つの大きな意図はまさにそこにありました。弊誌を採用しておられる教師会は、時間のある限り、聖書研究、カテキズム研究、説教展開例を共同で読んでいただきたいと思えます。しかし、一月4週のすべてを読むことも大変です。一週分だけを集中的に取り上げてくださることも一つの方法です。あるいは、それに加えて、「単元のねらい」だけでも、すべて読んでいただくことも助けになるかと思えます

(3) 「説教の演習」「教授法の研究」など、教師としての技術の研鑽の場を設けることも大切です。毎月持つことは、おそらく不可能でしょうから、行事計画の少ない月や、そのために特別の教師研修会を開くこともすばらしいと思えます。自分の分級を牧師や他の教師に陪席してもらい、批評を受けることも有意義です。そのように、仲間の声に心を開いて耳を傾けることができれば、それだけですでに十分な効果があると言っても過言ではありません。

(4) 教師の動機付けが常に新鮮になされることも重要です。読者の皆様に、教案編集部と執筆陣の日曜学校への情熱が伝われば、それだけでも発行の労苦が報われます。なぜなら、教師たちが、もしも「情性」で奉仕し始めるなら、子ども達を躓かせることになるからです。そのような日曜学校であれば、子ども達を主に導き、ささげることなどどうして望めるでしょうか。牧師をはじめ、校長の重要な務めの一つは、常に教師を召しに応えるように励ますことです。豊かな実りを期待する信仰を富ましめるように、動機づける務めが与えられていることを自覚していただきたいと思えます。現在は、各中会で教師研修会・訓練会が行われています。牧師や校長は率先して出席し、教師たちに参加と研鑽の必要性を訴えていただきたいと思えます。

(5) 教師会は、自分自身の課題、また担任の子ども達の課題を皆で祈ってもらう場所でもあります。教師会は、共に祈る仲間たちの集いです。祈りの課題は山ほどあるはずですが、筆者は、日曜学校教師方には、週日の祈禱会に出席してほしいと考えております。以下のこととも関連しますが、この尊い務めが、教師会だけの課題ではなく、教会全体の課題であることを祈りの課題とすることに通じるからです。

### 日曜学校教師会と小会・牧師との関係

「教会学校とは、教会の教育事業が主として行われる組織」(礼拝指針第28条)とありますように、日曜学校は、教会学校の監督、管理の下になされるものです。また、「小会は、すべての教会学校を監督し、その校長を選任する。校長は、牧師の同意を得て教師を小会に推薦し、小会はこれを任命する。小会は、教会学校の状況とその必要について常に報告を受け、その十分な活動に必要なものを備えるように配慮すべきである。」(第31条)と、日曜学校との緊密な関係を規定しています。日曜学校、とりわけ契約の子の教育は、教会全体の最重要な責務です。

現在、大会の憲法委員会第三分科会では、礼拝指針の改訂作業がなされています。第一次改正案では、幼児洗礼において、会衆の誓約を求めています。これは、大切なことと思えます。現在の日本キリスト改革派教会式文には、受洗後の「宣言」において、「親と教会は、この幼子がイエス・キリストを、主また救い主として信じ告白するように教え育てなければなりません。」と記してあります。教会をあげて、契約の子の信仰告白に向けて養い育てるべきことが勧告されているのです。そうであれば、日曜学校が、教会をあげて支援され、祈られ、関心を注がれてしかるべきです。小会と牧師の責任は重大です。

## 第12回 種まき伝道にあらず

相馬伸郎（『教会学校教案誌』編集長）

この連載も今回で最後になりました。当初、計画しておりました通りに書き進めることは、かないませんでした。この一年間も、執筆のためのまとまった時間をとることは、夢で終わってしまいました。しかし、将来、一冊のパンフレットにしてお手元にお届けする機会があれば、あらため書き直し、また、書き足したいと思います。

さて、最終回。皆様に心から呼びかけさせていただきたいと思います。一言で言えば、「教会をあげ、日曜学校教師会の力を結集して、地域の子ども達に伝道しよう！」ということです。最初に、ヨハネによる福音書4章31～38節を朗読して、お読みくださいませ。

### 「子どもたちをわたしのところに來させなさい」

皆様は、「日曜学校の伝道は種まきである」という言葉を聞かれたことがないでしょうか。「日曜学校の伝道は種まきです。子どもたちが、教会から離れても、いつか、大人になって、イエスさまを信じるようになる人も出ます。日曜学校は、自分たちの知らないところで、実を結ぶことを期待し、信じて行うのです。」というものです。私自身、日曜学校の教師となって、すでに25年にもなります。そのなかで、先輩の方や牧師からこのような言葉を何度か聞いてまいりました。自分自身も、かつてそのように考え、自らを慰めてもいました。

しかし、この認識は正しいのでしょうか。わたしは、このような考えと姿勢で日曜学校の働きを担い、地域の子ども達に伝道しようとするなら、子どもたちに失礼であり、申し訳ないと思います。何よりも主御自身に対して、不誠実、

不忠実であると思います。

もちろん、求道を始め、やがて洗礼をお受けになる方々のなかで、どれほど多くの方が、「かつて日曜学校に行ったことがある」と述べなされることでしょうか。しかし、それはあくまでも結果です。初めからそれでよしとするような前提で奉仕にあたってはならないのです。

何故でしょうか。それは、福音の主なるイエス・キリスト御自身がこのように仰せられたからです。「子供たちをわたしのところに來させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。」これを、契約の子だけに限定することはできません。すべての幼子を主が求めておられるはずで、ご自身の御許に激しいほどに招いておられる主イエスであれば、一度、主イエスに接近して、離れて行く子どもたちの姿を、どのように見ておられるのでしょうか。また同時に、そのようなお方であれば、主イエス御自身が子どもの心の奥深くまで届いてくださることは間違いありません。そうであれば、この主のみ業を担う日曜学校の教育的伝道にも、「深さ」が求められると思います。

私どもの教育とは、単なる知識（文字）の伝達ではありません。それは、人格的知識、暖かい真理、すなわち、生ける主イエス・キリスト御自身の伝達です。主イエスを伝える日曜学校が、「一度、二度でも福音を聞いたから、それで良いのだ」という前提であれば、いかがでしょうか。

主イエス御自身は、「子どもの頃に少しでもわたしに触れてくれればそれでよしとしておこう」などとお考えになっておられるのでしょうか。子どもたちが、御自身の教会から離れて行くこ

とを、どれほど悲しんでおられるか、そのことを思いますし、思わなければならないはずです。日曜学校の教師は、この悲しみを主とともに味わうことも避けて通れません。しかし、同時に私どもには、共に喜ぶことが約束されているのです。(詩編126編5～6節)

### 「刈り入れまでまだ四ヶ月もある」?

ヨハネによる福音書第4章35節以下に、このような主イエスと弟子たちとの対話が記されています。「あなたがたは、『刈り入れまでまだ四ヶ月もある』と言っているではないか。わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り入れを待っている。」この主の御言葉は、実際に目の前に広がる畑そのものを見ながら語られたのではないかと想像できます。もちろんその畑そのもののことを意味しているではありません。それは、霊的な畑、神の御目に映る人間世界のこと、伝道の畑についてです。この箇所は、井戸の辺で主イエスに出会って頂いたサマリアの女性の救いの物語の後半で語られた御言葉です。

「収穫までまだ四ヶ月ある。」そもそも、この認識は、しばしば教会が犯す間違った判断です。一つは、先ほどと重なりますし、次に詳しく触れますが、子ども達に、福音は分からないから、深く教えたり、魂を看取る必要はない、つまり、「時期尚早」という認識の誤りです。

また、自分たちの身の丈にあうだけの伝道をすればよいのだという、「過小評価」の誤りでもあります。わたしは、かつてまさにこのような罪を犯しました。「自給の開拓伝道では、子どもを導き育てている暇はない、子どもを相手にするのではなく、成人を相手にする方が、経済的自立への近道である。」冷静に考えるなら、まさにこの世的な発想です。

教会は、資金力、賜物、能力、人材など、伝道の戦いに十分なものが備わっていなければ、何もできないし、しなくてもよいのでしょうか。

違います。この主の御言葉は、ご自身の教会に、自分たちの能力を自分勝手に判断し、教会の務めを怠ることは許されないのだと告げています。教会は、約束された聖霊を折り求め、聖霊に励まされ、頭にして主なるイエス・キリストのご命令に従うとき、門が開かれ、道が整えられるのです。それを信じましょう。

### 「色づいて刈り入れを待っている」!

洗礼入会志願者で、幼子をお持ちの方には、幼児洗礼の恵みを教え、招きます。そして、親子ともども一緒に共に洗礼入会を志願される方が起こされます。しかし、未信者の配偶者に申し出ると、しばしばこのような厳しい批判を受けます。「まだ右左も分からない子どもたちに宗教教育、価値基準を施すのは、親のエゴではないか。かえって子どもの人格を損なう。子どもたちは純粋だから、すぐに信じてしまう。子どもの自由や将来を拘束する。それは、親の横暴ではないのか。」子どもの教育や将来について真剣に考える方であればあるほど、「伴侶が洗礼を受けることは仕方がないが、自分の子どもにも洗礼を受けさせることまでは容認できない」と考えられる方が多いように思います。そのお気持ちはよく分かります。丁寧に慎重に説得すべきことですが、最後は、時を待つしかないと思います。

しかし、言うまでもなく、契約の子に洗礼を施すことは、神の祝福を受けることであり、キリスト者の親の義務また特権であることは、改革(派)教会の信仰の基本理解です。(礼拝指針第37条) そのような理解から当然、わが子が、神の恵みの対象として、どれほど神に重んじられているかは明らかであろうと思います。ですから、私ども教会と親は、契約の子に、全力を注いで教理を教えます。彼らと共に礼拝し、彼女らと共に祈ります。そのようにして、教会は、子どもの成長に寄り添いながら、信仰告白のときを待ち、祈り、励まします。そのときには、

特に、牧師や長老が、日曜学校教師が、心を砕いて契約の子の魂を配慮するはずです。つまり、私ども日本キリスト改革派教会は、契約の子のために、教会を挙げて教育を施し、あわせて「牧会」をも担うはずです。

このように、子どもたちの魂に届くようにと、言わば「深みのある教育」を施す私ども日本キリスト改革派教会であればこそ、地域の子どもたちにも同じように向き合うべきことは明らか過ぎるほどではないでしょうか。そして、そのようなあり方でなければ、地域の子どもたちにも福音の喜びが届かない、子どもたちの心に響かないのではないのでしょうか。「種まきでよい」という一種の無責任なあり方をよしとしてしまうとき、子どもたちに届かない日曜学校、伝道になってしまう危険性が大きいのです。

今、主の畑である子どもたちに目を「上げる」と、そこには、主イエス御自身を求める声なき声が聞こえ、主イエスへの憧れが見えて来るのではないのでしょうか。もちろん、子ども達が「罪の赦し」や救いを直接求めて教会に来ることはほとんどありません。しかしそれなら、大人も同じではないのでしょうか。

しかし、子ども達の「無自覚の心の叫び」を聴き取る者、それがキリスト者であり、日曜学校教師なのです。なによりも子どもを見上げる時、私どもに先立って、主イエス御自身こそが、子どもたちを「色づいて刈り入れを待っている」と見ておられることが分かり、主の御声が聴こえて来るのではないのでしょうか。その主のお姿が、私どもの伝道の動力となるのです。

### 「蒔く人も刈る人も、共に喜ぶ」ために

「既に、刈り入れる人は報酬を受け、永遠の命に至る実を集めている。こうして、種を蒔く人も刈る人も、共に喜ぶのである。」ここに、神の喜びが語られています。それは、あのルカによる福音書第15章の放蕩息子のたとえのなかで明

らかにされている、失われたものを探し出して発見する神の喜びと通じるものがあります。また、「あなたがたが自分では労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたがたを遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実りにあずかっている。」ヨハネによれば、種を蒔いているのは、人間ではなく、神御自身であります。弟子たちは、いわば主イエスの下働きを受けて、それを収穫すべく派遣されているのです。伝道とは、先立って働いておられる聖霊の御業を信じ、共に働かせて頂くことであります。私どもには、収穫する喜びを味わうことが約束されているのです。それは、神の喜びを共に喜ぶことです。そのように教会は、伝道のつとめ、喜びの務めに招かれているのです。私ども教会は、金銀はなくても、主イエスの御名、主イエス・キリスト御自身を宿しているのです。これを分かち与えることが私どもの務めです。主が、御自身の教会にそれを要求しておられることを忘れてはならないのです。

20周年宣言に、「教会の生命は伝道の実践となって躍動する」とあります。伝道することは、教会の存在と生命のしるしです。伝道しない教会は、自分が教会であることを未だ十分には理解していないとすら言えるのです。伝道の責任を果たさないのであれば、主の教会として、怠慢であり、無責任です。

確かに、この世から、あなたがたは何故伝道してくれないのか、何故、子ども達にキリスト教を伝えてくれないのか、そのように問いかける人はほとんど一人もおりません。しかし、キリスト者は、伝道の主、世の終わるまで伝道する教会と共にいてくださると約束された主イエス・キリストから、そして、このお方を派遣された父なる神のみ前に厳かに問われているはずで、志を新たに、伝道のために祈りを熱くし、これからも共に祈り励んでまいりましょう。

## 『教会学校教案誌』発行のための 自由募金のお願い

教会のかしらなる主イエス・キリストの御名をあげます。

中部中会教育委員会は、日本キリスト改革派教会をはじめとする改革・長老主義諸教会の教会学校・日曜学校教育に資することを目的として、『教会学校教案誌』を発行しています。2001年4月に始まり、すでに満5年となり、第20号まで発行して参りました。中部中会では7割ほどの教会により採用され、改革派教会全体でもおよそ40教会で採用されています。大会教育委員会もご支持を表明してくださっています。皆様のご支援に心からの感謝を申し上げます。

『教案誌』の発行は中部中会の事業として行われておりますが、中部中会教育委員会では、あわせて皆様からの自由募金によってご支援いただきたいと願っています（2005年4月中部中会第一回定期会にて自由献金願いを可決承認）。子どもたちの信仰教育のために、ぜひ皆様からのお祈りと献金のご支援をいただきたく、よろしく願い申し上げます。教案誌を購入していただきやすくするために、教案誌の頒布価格を印刷・製本単価ぎりぎりにおさえています。『教案誌』をご購入くださることも発行のための支援となりますので、ご購入いただくことによってもご支援くださいますよう、お願いいたします。

目標金額	30万円
送金先	郵便振替 伊藤治郎
	00890-2-148183

※通信欄に「教案誌のための自由募金」と明記してください。

聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例

---

テキスト 詩編100編

詩編100編は礼拝の招きの言葉でしばしば使われることから分かるように、礼拝への導入的な賛歌です。

### 〈主の御前に進み出る〉

最初の2節において人々を主の御前へと進み出させます。ちょうど王の前へ進み出るように、全地の王である主の御前に進み出るので、主の御前に進み出て、その方との関係に相応しく、その方に仕えるように命じるのです。主に仕えるということは、主をまさに自分の王とすることです。言い換えれば、主に信頼し、服従することです。

そのように仕えるということは、一方で「二人の主人に仕えることはできない。」(マタイ6:24)と言われるように、人間の統治に隷属することや、「神々」に服従することを排除させます。徹底的に神様にのみ仕えることが要求されるのです。換言すれば仕えるとは自分たちが信頼を寄せ、その生命を委ねる方の御力に対する絶対的な信頼と服従を寄せることなのです。礼拝はこの私たちの命を左右することのできる方の御前に進み出て仕えることなのです。

### 〈知れ主こそ神〉

「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。」「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。」これらの文章は十戒の序文と第一戒です。3節でこの礼拝に導く賛歌は「知れ、主こそ神であると。」と命じます。十戒の序文と第一戒を知っているなら、「主こそ神である」ことは周知のことであるはずですが。しかし、私たちはこのことを繰り返し確認し、私たちが礼拝を捧げるお方がどなたなのかを覚えなければならないのです。そし

て、このただ一人のお方をのみ告白し、この方の名を呼ぶ礼拝を捧げるべきなのです。

この唯一の礼拝されるべき方はどのようなお方なのか3節の2行目から4行目にかけて記されています。「神」は、人を創造され、信仰共同体をお造りになりました。この方はその共同体を御自身の民として顧みられる方なのです。つまり、信仰共同体は主が羊飼いとて心砕かれる群れとして、選び、救い、集めてくださった群れなのです。羊は、この羊飼いに自らの存在と命を依り頼むのです。

私たちが主を神として知るということは、この憐れみ深い神様の救済の出来事とその導きの現実を知りその方に総てを委ねることなのです。そして、その方にのみ私たちは礼拝を捧げるのです。

### 〈神様の御前での喜び〉

この詩によって導入される礼拝が喜びに満ちたものであることが、この詩を読むと判ります。神様がおられ、罪人が主の門をくぐり、主の庭に入ることが許され、主の御前に進み出るので、それは、大きな喜びであり、感謝なのです。

この私たちが主の御前に進み出ることができるのは、主が恵み深いからなのです。主は絶対的な意味において、すべての道と御言葉において、恵み深い方なのです。この方の恵み深さは慈しみと、真実によって示されるものです。この慈しみと真実は永遠のものであるのです。その慈しみ深く真実であるかたの御前に私たちは出て礼拝を捧げるのです。それはわたしたちにとって喜びなのです。なぜなら、この方の慈しみと、真実が未来をもわたしたちと共に恵み深く支配して下さるからです。

(春名義行)



テキスト 詩篇100編

**(単元のねらい)**

時間を支配されるのは、主なる神様です。全てを支配されている方は、当然、私たち人間をも支配して下さっています。従って私たち人間は、神様によって今日も生かされているのです。だからこそ、私たちに生命をもたらして下さっている神様に、感謝と喜びをもって礼拝することの喜びを、一緒に分かちあっていただきたい。

**「神様を喜んで生きよう」**

“A Happy New Year!” 「新年、明けましておめでとうございます。」今日から、新しい年、2006年が始まりましたね。今年も、皆さんと一緒に、楽しく神様を礼拝して始めることができますことを、感謝します。みんな新年の初めの日に、教会学校によく来てくれたね。新年の最初の日に、神様を礼拝することが出来て、とても嬉しいですね。

ところで、新しい年を迎えて、何がうれしく、何がおめでたいのでしょうか？ みなさんは、たくさんお年玉をいただきましたか？ 正月を迎えると、お年玉がもらえるから、待ち遠しいし、うれしいとも思っていることだと思います。でもね、お年玉をくれるお父さんやお母さん、また大人の人たちも、「新年、明けましておめでとうございます」って言うよね。お父さんたちは、お年玉をもらうことはまずないよね。では何がおめでたいのかな？

つい先週には、イエス様がお生まれになられたことをお祝いしますクリスマスを楽しみましたが、新しい年を迎えた今日も、やっぱり神様のことを思い浮かべて頂きたいと思うのですね。クリスマスが終われば、神様が姿を消されたわけではありません。今も、聖霊を通して、私たちと共にいて下さるのです。

そして今日の日付を見て下さい。2006年1月1日ですね。何から数えて2006年目なのかと言えば、イエス様がお生まれになられてから今年で2006年

目を迎えるのですね（正確に語れば、ズレが生じているがここではそのような説明はいらないでしょう）。イエス様がお生まれになられ、私たちのために十字架に架かれてからの年月が、2006年なのですね。

そして、今日も私たちは神様の御前で礼拝を献げることが許され、喜んでるように、この2006年の間に生きてきた人たちは、いつでも神様を礼拝して、喜んでいたのだよ。それだけではなくて、イエス様がお生まれになられる前、つまり旧約の人たちもまた、天地創造の時にアダムさんとエバさんが神様によってつくられた時から、ずっと、救い主であるイエス様がお生まれになられる約束を信じて、神様を礼拝し続けてきたのだよ。

つまり、神様は、いつの時代にも、すべての人と共におられ、すべてを支配し、今生きている私たちも守り、導いて下さっているのです。だからこそ、神様が新しい年の歩みを始めさせて下さったことを、一緒に喜ぶのです。

また同時に、昨日までの一年間のことを神様に感謝するのです。一年の間には、苦しい時も悲しい時もあったでしょう。しかし、その様な間も、いつも神様があなたと一緒にいて下さり、守り、支え、苦しみを乗り越えさせて下さり、悲しみを取り去って下さっていたのです。そのことを一年が始まる今日、あらためて思い出し、感謝していただきたいのです。

さて、最初にお読みしました詩編100編をもう一度、お読みいたします（詩編100編朗読）。

：

神様が一緒にいて下さるのです。神様が私たちを守り、支え、嬉しいことも、楽しいことも、全てをお与え下さる神様であることを、この詩編の作者は、体全体で喜びつつ、感謝の歌を歌っているのです。この詩編の作者の体全体での喜びを思い浮かべて頂きたいのです。神様は、今も私たちと一緒にいて下さいますよね。どうでしょうか？

昨年的一年間、どんなことがあったでしょうか？ 嬉しいこと、楽しいこと、感動したこと。苦しかったこともあったかな。悲しかったこともあったかな。神様はいつも、みんなと一緒にいて

下さいました。そして守っていて下さいました。この神様が、今、みんなと共にいて下さり、今年一年も、みんなを守り、導いて下さいます。そしてみんなが本当に必要なものがあつた時、神様に祈ると、神様はその祈りを聞き遂げて下さいます。だからこそ、クリスマスだけ、あるいは日曜日の礼拝の時だけ、神様を思い出すのではなく、一年の最初の日に神様を礼拝して神様を覚えることができたように、毎日毎日、いつでも神様がみんなと一緒にいて下さることを覚え、神様に祈り、神様がお与え下さる一つ一つのこと感謝し、みんなを今生かして下さる神様に感謝し、喜び続けていたきたいと思います。 （辻 幸宏）

---

[今週の暗唱聖句] 詩編100編2節

喜び祝い、主に仕え  
喜び歌って御前に進み出よ。

---

## 〈ねらい〉

神様と共に生きる喜びと安心を教える。

## 〈展開例〉

今日の朝起きた時、お父さんやお母さんにどう  
いうご挨拶をしましたか？ いつもだったら、お  
はよう！っていうだけだけど、今日は、あけまし  
ておめでとう！って言ったでしょ？ 少し前に  
教会でもおめでとう！って言ったことがあります  
ね。そう、クリスマスです。みんなのために  
イエス様が生まれてくださった、ほんとにうれし  
い！おめでとう！と言いましたね。イエス様  
のお名前は、「神様が私達と一緒にいてくださる」  
(インマヌエル) という意味だと聖書に書いてあ  
ります。イエス様が一緒にいてくださるとい  
うことは、お母さんがそばにいてくれるのと同じくら

い、いえ、もっともっと嬉しくて安心なのよ。ど  
うしてかと言うと、神様は私達を造ってくださ  
った方だから、私達のことを一番よく知ってくだ  
さっています。私のことをお母さんよりもお父  
さんよりも、気にかけ、心配し、大切に思っ  
てくださっています。そういう神様が今年も私達  
といっしょにいてくださることを一年の一番初  
めの日に教会へ来て教えていただけて良かっ  
たですね。うれしいですね。神様が一緒にいて  
くださればどんなことがあっても心配いりませ  
ん。

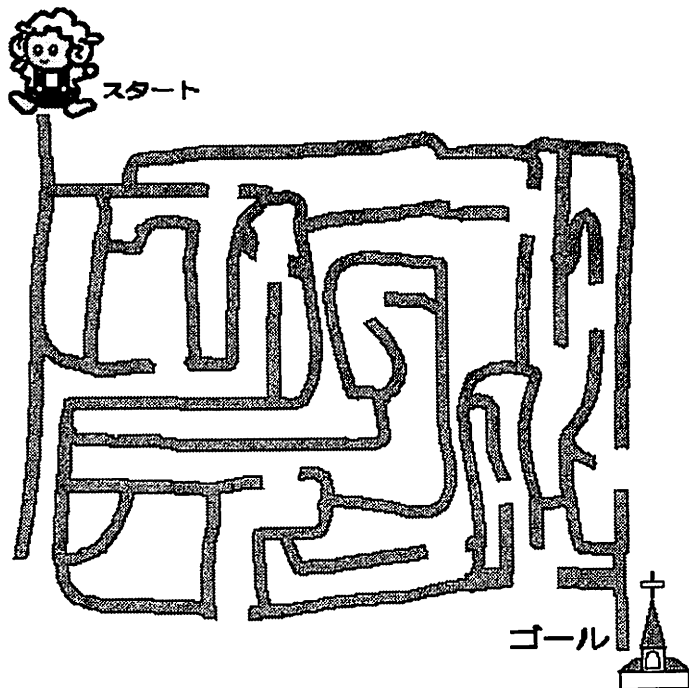
## 〈おいのり〉

天の父なる神様、一年の一番初めの日に教会へ  
来ることができてありがとうございます。ことし  
もずうっといっしょにいてください。イエス  
様のお名前によってお祈りします。アーメン。

## 迷路をやってみよう！

今年もがんばって教会にこられるかな？

適当な大きさに人数分コピーして使うか、画用紙大にしたものをみんなでやってもよい。



## 〈聖書のお話を確認してみよう〉

- ①誰が主に向かって叫ぶ？（→全地）
- ②どのように叫ぶ？（→喜んで）
- ③主に養われる羊の群れとは誰のこと？（→イスラエルの民、教会）
- ④主の門に進み、主に庭に入るとは、例えばどういうこと？（→日曜に教会で礼拝すること）
- ⑤主の真実はいつまで続く？（→今年も、これからもずっと）

## 〈考えてみよう〉

新しい年が始まりました。今年はどうな年になるでしょうか。どんなことをしてみたいでしょうか。いろいろな楽しみがあると思います。何よりも、今年も教会学校に来て、みんなで神さまを礼拝しましょう。今年、日曜日が何回あるか知っているでしょうか。53回です。53回、教会学校に来られるでしょうか。もちろん、風邪をひいたりしてお休みしなければならない日もあるかもしれませんが、そのようなときも、神さまは私たちを養ってくださる方であることを覚えましょう。そして、いつも喜んで、感謝して、神さまをほめたたえましょう。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。今年も神さまの恵みがたくさんありますように。心も体も守られて、教会学校に来て、神さまを礼拝することができますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

一年のはじめに、主を礼拝し、賛美し、仕える喜びに生きる思いを新たにす。

## 〈展開例〉

## ①一年を振り返ってみよう

皆さんは山登りをしたことがありますか。山登りの途中で後ろを振り返ると、今まで登ってきた道がよく見えます。あそこは険しく苦しかったなあとか、あの美しいお花畑を歩いたときは楽しかったなあとか……。

私たちもときどき立ち止まって自分の歩みを振り返るときがあります。一年の終わりと始まりのときもその一つでしょう。去年はどんな1年だったでしょうか。

新しいお友達や先生との出会い、初めての経験や楽しく遊んだこと……。学校で、またお家や教会でいろいろなことがあったことと思います。辛いこともあったと思います。でもその経験さえも、神様はプラスになるように用いてくださいます。そのときにはわからなくても、多くのことは後になってその意味がわかるものです。

どんなときでも、神様があなたと共にいてくださったことを覚えましょう。あなたが寝ているときも目を覚ましているときも、神様はあなたを支え、導いてくださいました。神様の恵みを数え、感謝しましょう。そのとき私たちの信仰は、さらに豊かなものとされます。

「わたしの魂よ、主を讃えよ。

主の御計らいを何一つ忘れてはならない。」

(詩編103編2節)

## ②新しい年、私たちはどこに向かって進むのか

詩編100編は力強い歌です。この一年、私たちがどこに向かって進んでいけばよいのが、このところに書かれています。

「全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。

喜び祝い、主に仕え

喜び歌って御前に進み出よ」

私たちは主に向かって歩むのです。

私たちは主を喜び、主に仕え、主をほめたたえながら歩みます。

## ③詩編100編を味わおう！

・二つのグループに分かれて、100編を1行ずつ交読してみましょう。読む人は立って元気よく読みましょう。最後の5節は一緒に読むといいでしょう。

・1節の「全地」のところにあなたの名前を入れて読んでみましょう。

「○○よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ」

・1節と2節を暗唱しましょう。

## 〈聞いてみよう〉

あらかじめ教会の人をお願いして紙に書いておいてもらうとよいでしょう。

問1、「去年1年間で一番心に残った出来事は？」

問2、「そのことによって何を教えられましたか」

問3、「新しい年、どんなことをしたいですか」

など

## 〈カレンダーを作ろう！〉

・100円ショップのカレンダーか、著作権フリーのカレンダーをダウンロードして使う。

・カレンダーの余白に今日の御言葉を書く。(1節)

・今年目標があったら書いておきましょう。

・教会の予定、自分や家族のお誕生日、記念日などに印をつける。

・余白に絵を描いたり、シールをはってオリジナルカレンダーを作ろう！

## 〈祈り〉

すべてを支配しておられる神様、新しい年をお与えくださりありがとうございます。この一年もあなたを礼拝して生きることが出来ますように。私たちはあなたに導かれる羊です。私たちを豊かに導いてください。私たちの心があなたから離れてしまうことがありませんように。救い主イエス様の御名によって祈ります。

**【目標】**

この新しい一年も神様がわたしたちの歩みを支えてくださることを確かめ合う。

**①説教を深めるために**

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

**②あらためて御言葉に取り組む**

→詩編100編をあらためて生徒と読む。

**【ポイント】**

今日は1月1日である。1月1日は、心をわくわくさせて、生徒がこれからの一年に期待する日であろう。この日は色々と個人的な抱負や目標を立てる日かもしれない。ぜひそのようなことについて生徒と話す時間を持ちたい。そしてこの新しい一年において、そこで一番大切なこと何であるかを生徒と共に考えたい。「主こそ神である。主はわたしたちを作られた。わたしたちは主のもの、その民、主に養われる羊の群れ」（詩編100編5節）。この事実を支えられて一年を始められることの感謝と期待を分かち合いたい。

**③生徒と一緒に考える**

→まず教師自身にとっての昨年の歩みへの感謝と新年の歩みに対する期待について、生徒と分かち合う。

Q. 去年はどんな一年でしたか？

Q. 今年をどんな一年にしたいですか？抱負や目標はありますか？

Q. 5節で聖書は「知れ」と語っていますが、わたしたちが知るべきこととは何でしょう？

Q. それはどこでどのようにすると知ることができるのでしょうか？→教会での礼拝生活

Q. 疑問は解けましたか？

**④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く**

Q. 今年を良い一年にするための秘訣は何だと思えますか？

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト サムエル記上3章1～14節

この箇所はサムエルに主が語りかけられた最初の記事であり、よく日曜学校でも取り上げられる箇所ではないかと思えます。

### 〈エリの家の墮落〉

少年サムエルが「エリのもとで主に仕えていた」時、「主の言葉が臨むことは少なく、幻もまれであった」と言われています。このようなことが起こっていたのは、エリの家の神様を冒瀆する行為によるものと思われます。このエリの家の墮落は、神様に仕える者に、生ける真の神様の言葉を聞くとする準備がなかったことを表しているとも言えます。

### 〈サムエルの勘違いと鈍くなったエリ〉

このところで、よく知られている、サムエルへの神様の呼びかけがなされています。この出来事があるまで、サムエルの神様に対する知識は間接的なものであり、神様から呼びかけられるというような親しいものではなかったのです。ですから、サムエルはそれが神様からの呼びかけであるとは思いませんでした。そこで、エリは彼の師であるエリのもとに駆けつけるのです。サムエルにもエリにも何が起きているのかわからなかったのです。

エリにこの呼びかけがどなたからのものなのかが判らなかつたのは、それだけエリの神様に対する備えが鈍っていたからなのです。しかし、鈍くなっていたエリにも、三度目にしてやっとその事実がわかるのです。そして、やっとサムエルに、神様に対する正しい応答の仕方を教えるのです。

### 〈サムエルの神様への応答〉

エリがサムエルに教えた言葉は、「主よ、お話

し下さい。僕は聞いております。」との言葉です。サムエルは四度目の神様の呼びかけに対して、この通りに応えました。このサムエルの神様への応答の言葉は非常に有名な言葉であり、私たちにとっても、大事な言葉です。

このサムエルが神様に応えた言葉に、「聞く」という言葉があります。この「聞く」と訳されているヘブル語は、同じ「聞く」と言っても「聞き従う」とか「聞き入れる」、「聞き分ける」というような少し強い意味を持つ言葉です。ある註解書ではこの言葉には「『聞く用意ができてい』というほどの意味を持つ」(『ATD 旧約聖書註解6』p.55)と解説されています。いずれにせよ神様から御言葉をいただくということは、それほどの「聞く」用意が必要なのです。そのような御言葉に聴く備えができて初めて神様との交わりができるのです。

### 〈神様からの御言葉〉

サムエルが神様の御言葉に聴くように備えられて、最初に与えられた御言葉はエリの家に対する威嚇の言葉でした。サムエルにとってその言葉は非常にショッキングなものであったことは言うまでもありません。しかし、御言葉は決して曲げられてはならないのです。

どのような厳しい言葉であっても、御言葉に聴き従う時、神様との正しい交わりがなせるのです。一方で、エリの家の息子たちがしたように、また、それを見咎めることのなかったエリのように神様の御言葉を曲げる時、神様との交わりは失われてしまうのです。

この出来事の中に、私たちの祈りによる神様との交わりの現実を見ることができるとはいいでしょう。(春名義行)

子どもカテキズム

問76 お祈りとは何ですか。

答 神さまにお話しすることです。

そのためには、まず神さまからの御言葉に聴く必要があります。

信じることは祈ることです。

ハイデルベルク信仰問答(吉田隆訳)

問116 なぜキリスト者には祈りが必要なのですか。

答 なぜなら、祈りは、神がわたしたちにお求めになる感謝の最も重要な部分だからです。

また、神が御自分の恵みと聖霊とを与えようとなさるのは、

心からの呻きをもって絶えずそれらをこのお方から請い求め、

それらに対してこの方に感謝する人々に対してだけ、だからです。

参考教理問答 『ハイデルベルク』116,117、『ウ小教理』98

問76は、二回にわたって学びます。「祈りとは何か」は、問77とも深く関わります。あわせてご参照ください。

〈恵みの外的手段としての祈禱〉

先ず、確認したいのは、お祈りとは、恵みの手段であるということです。子どもカテキズム問68に、「恵みの手段とは何ですか。」答、「御言葉と礼典とお祈りです。父なる神さまは、聖霊のお働きによって、特にこの三つを通して、私たちに、イエスさまがいっしょにいてくださることを信じさせてくださいます。こうして、私たちはイエスさまと一つに結び合わせられ」とあります。

祈禱とは、「イエスさまがいっしょにいてくださることを信じさせ・私たちはイエスさまと一つに結び合わせられ」、つまり、主イエス・キリストとの「結合」「交わり」を与える恵みの手段なのです。ハイデルベルク信仰問答では、聖霊の通路となるという理解が示されています。神の恵みの極致、キリストの霊でありたもうお方御自身を、祈りにおいて受けることができるのです。ここにこそ、祈りの喜び、醍醐味があるといってよいでしょう。

〈感謝、服従としての祈禱〉

問37に「神さまが人に求めておられることは何ですか。」答、「神さまが私たちに求めておられることは、感謝することです。」とあります。ハイデルベルクは、祈りこそは、「感謝の最も重要な部分」と言いました。主イエス・キリストにおける神の救いの恵みにあずかった私どもは、祈りを捧げることによって、この感謝を言い表すのです。

さらに、問38に、「あなたはその感謝をどのようにしてあらわしますか。」答、「神さまが聖書を通して明らかにしておられる御心に従うことです。」とあります。ウエストミンスター小教理問答問98には、「祈禱とは、神の御意志に一致する(神の御心にかなう、松谷好明訳)事のために」とあります。祈りはすでに感謝であり、さらに進んで、感謝の表明として求められる御心に従うためにも、祈りは不可欠となります。

〈信じることは祈ること〉

そうであれば、もはや、祈りなしに、私どもの信仰生活は成り立ちません。日曜学校の教育とは、自分の言葉で祈れるように育てることを目指す以外のなんでしょうか。(相馬伸郎)



テキスト サムエル記上3章1～14節  
カテキズム 子どもカテキズム問76

### 〔単元のねらい〕

信仰とは神との交わりであるが、その中心の一つが祈りである。信じることは祈ることであり、信仰者の生活は祈りの生活である。祈ることは信仰者の生涯の課題であり、祈りの体得がキリスト者の成長の目標である。そして、祈りの姿勢に信仰の姿勢があらわれる。それは、子どもたちにおいても同様である。子どもたちが一人で祈ることができるようになること、これが教会学校・日曜学校の目標である。主の祈りを取り上げる今号は、その意味で、教会学校の目指すところを直接取り扱うことになる。子どもたちのために、また仲間の教師たちのために、祈って礼拝に備えたい。今回は、とりわけ、神が呼びかけてくださっており、それ故に祈ることができることを教えて、祈りへと招きたい。

## 「神の呼びかけにこたえて祈ろう」

今日からしばらく、「お祈り」について学びます。「お祈りって何？」って思うお友だちもいれば、「お祈りなんていつもしているさ」と思うお友だちもいるかもしれません。教会に来ているみんなは、いつも教会でお祈りしているし、おうちでもお祈りしているから、「お祈りについてもうよく知っているよ」と言うかもしれません。教会は、昔から、「お祈りについて学ぶ」ということを大切にしてきました。それは、正しくお祈りをささげたいと願うからです。神さまに喜ばれるお祈りをささげたいと思うからです。あるいは、お祈りには、間違っただお祈りというものもあります。せっかくお祈りしていても、それが間違っただお祈りであつたら、神さまが悲しまれます。正しいお祈り、神さまに喜ばれるお祈りをささげるために、今日からしばらく、お祈りについて一緒に学んで、礼拝をささげましょう。

今日は、旧約聖書のサムエル記の御言葉を一緒に聞きました。誰が出てきましたか。少年サムエルと、エリという祭司のおじさんです。エリは、神さまにお仕えして献げ物とお祈りをささげる、祭司という仕事をしていました。エリは、もうだいぶ年をとっていて、目がよく見えなくなっていました。そのエリのところで、少年サムエルは、

エリのお手伝いをして、一緒に神さまにお仕えしていました。サムエルは、10歳前後でしょうか、みんなと同じような年齢だったかもしれません。サムエルがなぜエリと一緒に生活していたのか、それも大切なお話なのですが、それはまた別の機会にいたしましょう。

ここでは、サムエルがエリおじさんと一緒に神さまにお仕えして生活していた、そのある晩のことです。エリおじさんは、自分の部屋で寝ていました。サムエルは、神さまの神殿の中で、ともし火の番をしながら寝ていました。サムエルは寝ていたのですが、突然、「サムエルよ」という声が聞こえて、とび起きました。そして、「ここにあります」と答えて、エリおじさんのところに走っていきました。エリおじさんに呼ばれたと思ったからです。でも、エリおじさんは、サムエルを呼んでいませんでした。エリおじさんは、サムエルが寝ぼけていると思ったのかもしれませんが。「戻っておやすみなさい」と、サムエルに言いました。ところが、神殿でサムエルが寝ていると、また声がします。「サムエルよ」。今度も、サムエルはパッととび起きてエリおじさんのところに行き、「お呼びになったので参りました」と言いました。けれども、やっぱりエリおじさんは呼んでいません。サムエルもエリおじさんも、いったいどうし

たことだろうかと思ったでしょうね。サムエルは、いったいどうしたのか、なんだか分からないまま、また神殿に戻って寝ることになりました。

ところが、もう一度、同じことが起こります。サムエルが寝ていると、またやっぱり、「サムエルよ」という声がするのです。サムエルは、エリおじさんのところに行きました。そして、とうとうエリおじさんが気づきました。「ああ、これは神さまがサムエルを呼んでおられるに違いない」。エリおじさんは、サムエルにこう教えました。「もし、また呼びかけられたら、『主よ、お話しください。しもべは聞いております』と言いなさい」。すると、神さまは、寝ているサムエルに、もう一度呼びかけられました。「サムエルよ」。サムエルは、パッとび起きて、「主よ、お話しください。しもべは聞いております」と答えました。そのあと、神さまは、ご自身の計画しておられることをサムエルにお教えになりました。ご自身の御心、お考えを、御言葉をもってサムエルに教えられたのです。こうしてサムエルは、神さまの言葉を人々に知らせるために働く人になり、神さまの預言者として働くようになりました。

今日はお祈りについてです。お祈りとは神さまとお話しすること、神さまとの会話です。サムエルは神さまとお話ししたのですが、それはまず、神さまが「サムエルよ」と呼びかけてくださって始まったのです。サムエルは、神さまが呼びかけてくださったから、神さまに応えて、お話しすることができた、お祈りすることができました。これが大切なことなのです。

私たちもお祈りします。みんな、何と言ってお祈りしますか。「天におられるお父さま」と言ってお祈りしますね。でも、実は、お祈りは、この

私たちの言葉がはじまりではないのです。私たちが神さまに対して「天のお父さま」と呼びかけるより前に、神さま、天のお父さまが、まず私たちの名前を呼んでくださっているのです。私たちが「天のお父さま」と呼ぶのは、サムエルが「主よ、お話しください。しもべは聞いております」と答えたことと同じなのです。

神さまは、みんなのことを、ほくたち私たちのことを、よくご存じです。私たちが神さまのお名前を呼ぶ前から、神さまが私たちのことをよくご存じて、名前を呼んでくださっているのです。そして、ただ名前を呼ぶだけでなく、神さまは、みんなの一人一人を、「わたしの愛する大切な子ども」、「主イエスさまと結ばれた大切な子ども」とおっしゃっておられます。「わたしのところに来なさい」とおっしゃって、呼んでくださっているのです。ですから、ほくたち私たち、「神さまありがとう」って感謝して、喜んで、心から「天におられる私たちのお父さま」ってお呼びして、お祈りしたいと思うのです。

みんなは、「サムエルよ」という呼びかけが聞こえますか。耳を澄ませてくださいね。それは、聖書のお話を聞くと、聞こえてくるのです。今、神さまは、聖書の御言葉と説教を通して、神さまの御言葉をみんなに届けてくださいます。ですから、聖書を聞いて、説教を聞いて、神さまの呼び声に耳を澄ませてください。おうちに帰っても、神さまは、「わたしの愛する子どもたち」とおっしゃって、呼び続けてくださっています。うれしいですね。ですから、私たちも、喜んで、「天のお父さま」と言って、こたえてお祈りしましょう。神さまといろいろとお話しできるとすばらしいですね。 (望月 信)

---

[今週の暗唱聖句] サムエル記上3章10節後半

サムエルは答えた。「どうぞお話しください。僕は聞いております。」

---

〈ねらい〉

神様との交わりの喜びを味わう。

〈展開例〉

きょう、みんなはどうやって教会へきましたか。あるいて？ 自転車？ 車？ バス？ 電車？ まだ一人では来られないから誰かと一緒に来ますね。自分で来たいと思って自分の足で歩いてきたと思ってる人も、ほんとは神様がみんなひとりひとりの心に、教会へ行きましょう！ と言ってくださり、ここまで来られるようにしてくださっているのです。だから今日教会に来られたのです。サムエルさんに、“サムエル、サムエル”とお名前を呼ばれた神様が、同じ神様がみんなのお名前を呼んでみんながお祈りするのを待っておられます。

みんなのことが大好きな神様が待ってくださるのですから、喜んでお祈りしましょう。ご飯を食べる時、朝おきたとき、夜寝る前、どんなときでもお祈りしていると、神様が一緒にいてくださるのがよくわかります。自分のことだけでなく、お友達のこともね。

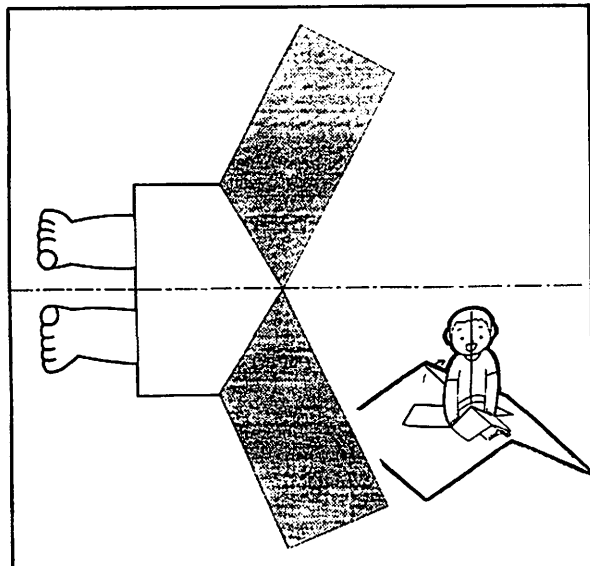
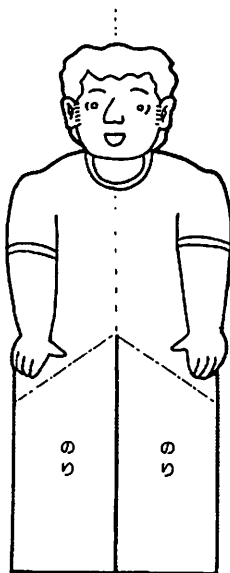
〈おいのり〉

※短いセンテンスのお祈りを短く区切って先生についてお祈りするよう促しましょう。

てんの 父なる かみさま 教会に 連れてきてくださって ありがとうございます。お祈りを待ってくださって ありがとうございます。イエスさまの お名前によって お祈りします。アーメン。

「起き上がって祈るサムエル」

完成図の部分を消し、適当な大きさにコピーして使う。  
年齢によっては事前に切り取るところまで済ませておく。  
※『ペーパークラフトアイデア』より



## 〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ①サムエルを呼んだのは誰？ (→神さま)
- ②サムエルは誰に呼ばれたと思った？ (→エリ)
- ③エリは誰がサムエルを呼んだのかすぐに分かった？ (→分からなかった)
- ④何度目に分かった？ (→三度目)
- ⑤サムエルは神さまに何と言った？ (→どうぞお話しください。僕は聞いております)

## 〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

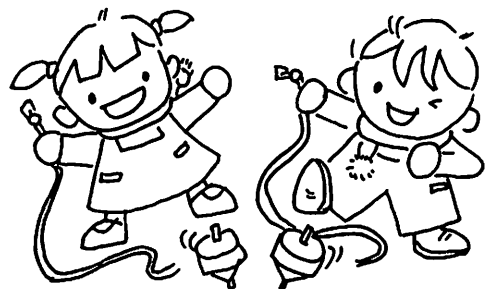
- ①お祈りは何の手段だった？ (→恵みの手段)
- ②恵みの手段には他には何があった？ (→御言葉と礼典)
- ③お祈りは誰とお話しすること？ (→神さま)
- ④物や死んだ人に話しかけてお祈りしてもいい？ (→お祈りは神さまだけにする)
- ⑤お祈りは自分から神さまに話しかけるだけ？ (→まず神さまからの御言葉を聴く)

## 〈考えてみよう〉

毎日、どんなときにお祈りをしているでしょうか。朝起きたとき、ご飯を食べるとき、夜寝るとき、困ったとき、うれしかったとき、いろんなときにお祈りすると思います。祈りの時間を大切にしましょう。そして、特に朝や夜にお祈りをするとき、聖書も読むという習慣を身に付けてみましょう。お父さんやお母さんと一緒に読んでもいいし、自分で読める人は一人で読んでもいいと思います。短い言葉でもいいので、まず御言葉をじっくり読んで、どういう意味か考えて、それから祈ってみましょう。そうすることで、神さまをいっそう近く感じることができるようになるでしょう。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。聖書をしっかり読んで、神さまの御言葉を聞くことができますように。そして、神さまを心から信じて祈ることができますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

祈りとは御言葉に対する神への応答である。

## 〈展開例〉

## ①祈りとは何か

祈りとは神様の御言葉を聴き、応答することです。神様は人間を神のかたちにお造りになりました。それは、神様が人間によびかけ、それにこたえるものとして人間をお造りになったということです。人間は、神様と祈りによって交わるものとして造られました。

## ②祈りは御言葉を聴くことから始まる

お祈りは、私たちの方から神様に向かって話しかけることから始まるではありません。まず、神様は御言葉をとおして私たちに語りかけられます。私たちは御言葉をとおして、神様がどうしてお方を知り、聖霊によって心が照らされ、神様に向かって祈るものとされるのです。まず神様が御言葉によって私たちに語りかけてくださいます。私たちは祈りによって応えるのです。

## ③神様からの語りかけなしに祈ったら……

神様からの語りかけに耳をすませることをせず、ただ自分の思いのままにお祈りすると、どんなお祈りになるでしょう。私たちの祈りは自分勝手な、都合のよいお祈りばかりになってしまいます。神様、どうか私が息けてばかりいても、テストで良い点が取れますようにとか、意地悪なお友達が不幸になりますようにとか……わがままなお祈りをするようになってしまいます。

## ④御言葉を聴くことから祈りの言葉が生み出される

- ・ 神の栄光を表す御言葉から  
……神をあげる思いが
- ・ 神の力ある御わざを表す御言葉から  
……神への賛美が
- ・ 神のいつくしみと恵みを表す御言葉から

……神への感謝が

- ・ 罪を示す御言葉から  
……罪を告白し悔い改める言葉が
- ・ 神のあわれみ深い摂理の御わざから  
……神のあわれみを求める願いが  
与えられます。

## 〈御言葉を聞いてみよう〉

以下の御言葉を聞いて読んでみましょう。あなたは神様からどんな語りかけを聴くことができるでしょう。またそれに対してどんなことをお祈りしたいと思いますか。一人ずつ、紙に書いてみましょう。

- (1) この御言葉から聴いたこと、感じたこと
- (2) 導かれる祈りの言葉

## ○創世記2章7節

「主なる神は、土のちりて人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」

## ○マタイによる福音書11章28節

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」

## ○マタイによる福音書7章1～3節

「人を裁くな。あなたがたも裁かれないようにするためである。あなたがたは、自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量り与えられる。あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。」

## ○ヨハネ福音書16章33節

「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」

書いたら、お互いに発表してみましょう。自分とは違った聴き方、祈りを発見するかもしれません。

**【目標】**

神様に静かに心と耳を傾けることの大切さを知る。

**①説教を深めるために**

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

**②あらためて御言葉に取り組む**

→サムエル記上3章1～14節をあらためて生徒と読む。

**【ポイント】**

この御言葉は祈りとはまず聞くことであると語っている。私たちは祈りというとすぐに神様に願いを述べることに頭が行きがちだが、祈りとは願いであると共に、聞くことであり、それは自分に比重を置くよりも神様に心を向けて、神様からの言葉に心を静かにして耳を澄ますことであることを御言葉から教えられたい。

**③生徒と一緒に考える**

→まず教師自身にとっての神様の言葉に聞き、祈りにおいて神様に語っていただけることの恵みを、生徒と分かち合う。

Q. 祈りがただの独り言ではないことが、今朝の御言葉から分かりますか？

Q. あなたが神様からの呼びかけを聞くためには、具体的にどうしたらいいと思いますか？

Q. 疑問は解けましたか？

**④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く**

Q. 神様がサムエルに呼びかけられたように、自分が神様から呼びかけられていると感じた経験はありますか？

Q. 一対一で神様と向き合って祈った経験はありますか？

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト ヨハネの手紙一5章13～15節

この箇所は私たちの祈りに対して大きな励ましと慰めを与える箇所ではないかと思えます。

### 〈永遠の命をすでに得ている〉

この5章13節～15節は、ヨハネの手紙一のクライマックスに向かう部分です。その書き出しである13節に「神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせたいからです。」と書かれています。彼らは確かに今、偽りの教えに惑わされそうになっており、信仰を強めるために勧めと警告を必要としている事実があります。しかし、それでも彼らが御子の御名を信じている事実は揺るがないのです。ヨハネは5章11節で永遠の命が御子の内にあること、そして、12節で「御子と結ばれている人にはこの命が」あることを述べました。神の子と結ばれている者、つまり、御子を信じる者には、その信じていることを根拠に「永遠の命を得ている」と確信できるのです。

この確信を持つ者は「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです」とガラテヤの信徒の手紙3章26節で言われているとおり、神の子としての身分を得ているのです。

### 〈祈りに対する確信を持つ〉

御子を信じ永遠の命を得ていると確信することができる者に対して、ヨハネは祈りについて確信を持つように勧めます。この確信は永遠の命を持っていると確信する者の、「神に対する私たちの確信」なのです。

神様は呼び求める者の声に耳を傾けてくださる方であり、その願いを聴いて下さる方なのです。私たちが神の子であるなら、その確信はなおのことです。ただし「神の御心に適うことをわたした

ちが願うなら」という条件がつけられます。神様の子どもとされているなら、御父の御旨の内を歩むのは当然のことです。これはマタイ福音書の「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。」と私たちに教えられるキリストの御言葉が示していることなのです。

ヨハネの手紙一3章22節には「神に願うことは何でもかなえられます。わたしたちが神の掟を守り、御心に適うことを行っているからです。」とされています。23節ではその掟とは、御子の名を信じ、御子の命じられた通り、互いに愛しあうことだと言われています。その掟を守ることが、御心に適うことなのです。このような神様の御心を知ることができるのは、ただ御言葉に聴くことによるのです。

キリスト者がそのようにして願ったことは「神に既になえられていることもわかります。」とされています。このように祈る時私たちは既に祈りが聞き届けられていると言う確信を持つのです。しかし、私たちの要求したことが、そのとおりに実現すると言う意味ではありません。神様に願ったなら、最善の結果が与えられると確信するのです。主イエス・キリストはマタイ福音書7章11節で、「あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして、あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない」とおっしゃっています。また「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものを御存知なのだ」ともキリストはおっしゃっています。キリスト者にはこの確信を、神の霊による直接的働きによって私たちの内に生じさせられているのです。私たちはその確信を持ち、ヤコブが言うように「いささかも疑わずに願い」（ヤコブ1:6）求めることが、大事なのです。（春名義行）

### 〈個人的、かつ共同体的恵みの手段〉

恵みの手段である、御言葉の説教と聖礼典は、通常は、教会の「集会」においてのみ与えられます。しかし、個人的な聖書の朗読と祈りとは、いつでも、どこでも与えられています。ですから、祈りが、私どもの信仰生活にとってどれほど重要な恵みの手段の行使であるかは、明らかです。また反対から言えば、祈祷の生活と準備なしに、ふさわしく説教と聖礼典にあずかることもできないとすら言えるのです。

しかし、そこでこそわきまえるべきことは、神が目指しておられるのは、神の民であるキリスト者を「キリストの体なる教会として建て上げ」(問68) することにあることです。つまり、祈りは、「個人主義的」になされるものではありません。たとえば、家庭で一人きりでしか祈ることができなくても、兄弟姉妹と結ばれていることを忘れないで下さい。背後で祈ってくれている教会の仲間が必ずいるはずです。(牧師のことをお忘れなく！)

### 〈外に向かう祈り〉

そうなれば、祈りは、自分と自分に関わる小さな世界だけのことでなく、何より教会のため、そして世界のための祈りへと解放されます。一気に、執り成しの祈り、隣人の祝福のための祈りへと広げられて行きます。

しかしそれにもまして大切なことは、祈りとは、私どもの外におられる神への祈りであるという自明のことです。つまり、もしも、お祈りが、まるで自分との対話のように自分の内側を覗き込むようなものになれば、そこには、祈りの喜び、手ごたえなど望むべくもないでしょう。古(いにしえ)の神の民は、手を高く挙げ、天を、つまり神を見上げて祈りを「捧げ」ました。祈りとは、徹底的に神へと心の態度、姿勢を定めることなのです。

ただし、誤解のなきように申し添えますと、自分のために祈ることは、個人主義的な祈りとは無関係です。

### 〈先ず神の御言葉を聴くこと〉

人間が言葉を語りだすための条件は、誰かに語りかけてもらうことです。人間の子は、どれほど忍耐深く待っていても言葉を教えてもらわない限り、話し始めることはありません。祈りも、神の語りかけを聴くことから始まります。それへの応答として紡ぎだされるものです。そうであれば、聖書を読むこと、神の言葉の説教を聴聞することは既に祈りのなかに加えることも許されます。

子どもたちに祈りの言葉が与えられるようにと、まさに祈りつつ説教し、教理を教える。これが、信仰の教育の姿なのです。

### 〈神との会話〉

正しく祈るためには、教理を学ばなければならないことは上述どおりです。ところが、祈りの教理を学びながら、実際に「声に出して」祈ることが結びつかない場合が、少なくないのです。子どもの課題の急所がここにあるようにすら思えます。子どもたちに、祈りを教えることは、子どもたちに祈らせる努力を具体的にすることが大切です。そのために、「呼ばれていること」を教えるのです。「はい、天のお父さま」とただ返事をし、「会話」を始めるようにと励ましてあげるのです。大切なのは、声に出して祈ることです。また、自分のお祈りを立派か拙いかと、覗き込ませないで、祈りを待ち、喜んで聴いてくださる神の約束の確かさを信じさせることです。

会話であることを幼少年に教える際、鍵になるのは、実際に「短い祈り」、つまり短いセンテンスで祈りをつないで行くことです。(相馬伸郎)



テキスト ヨハネの手紙一5章13～15節  
カテキズム 子どもカテキズム問76

### 〔単元のねらい〕

信仰者の生活は祈りの生活である。その場合、「祈りの生活」とは、個々人の祈りを指すのではない。もちろん個々人の祈りも含まれるが、第一には「共同の祈りの式」である主日礼拝を指す。礼拝は「祈りの式」なのであり、祈りとは礼拝なのである。それゆえ、主日の共同礼拝が個々人の祈りの基礎であり、祈りを生み出す源である。主日礼拝における神との交わりが個々人の祈りにおける神との交わりの土台となる。生けるまことの神との豊かな交わりが与えられるよう、祈って礼拝に備えたい。今回は、神の子とされた者として、御父を信頼して祈ることへと招く。何でも自由に祈ってよいのである。「御心にかなうことを願う」ことはもちろんであるが、今回は取り上げなかった。

## 「神さまとお話ししよう」

先週から、お祈りについて学ぶことを始めました。お祈りとは、神さまとお話しすること、神さまとの会話です。先週は、エリオジさんとサムエルのお話を通して、神さまがぼくたち私たちに呼びかけてくださっていること、私たちは、その呼びかけにこたえて、「はい、天のお父さま」とお返事して、お祈りするのだと学びました。

先生には、みんなも知っているように、小さな子どもがいます。先生は、子どもと一緒にお風呂に入って、子どもの身体を洗いながらお話しすることが大好きです。「今日は汗かいたね。幼稚園でたくさん走り回ったの?」、「今日はお友だちとどんなことして遊んだの?」、「サッカーの練習はどうだった?」、「お昼ご飯は何だった? おいしかった?」。いろんなことを聞きます。先生も、「今日は〇〇にお出かけしてきたよ」と言って、お話しします。一日、こうだった、ああだったと、いろいろとお話しします。そうやって、お話しして楽しく過ごすのです。お話しして過ごす、楽しいし、とても嬉しいのです。

神さまにお祈りすること、神さまとお話しすることも同じです。神さまは、みんなのお祈り、ぼくたち私たちがのお祈りを待っておられます。それはどうしてでしょうか。神さまは、ぼくたち私たちのことをあまり知らないから、私たちがお話し

て教えてさしあげないといけないのでしょうか。あれをしてほしい、これをしてほしいと、ただお願い事をするのがお祈りなのでしょう。いいえ、神さまは、ぼくたち私たちのことをよくご存じです。そうであるならば、いったいどうしてお祈りが必要なのでしょう。それは、神さまは、私たちとお話しをすること、私たちとの交わりが、とても大好きなお方なのです。神さまは、ぼくたち私たちとの交わりを求めておられます。みんなと語り合っ、心が響き合うことを求めておられます。それは、先生が子どもとお話しして過ごすことが楽しいように、神さまとお話しして心が響き合うことを、神さまは喜ばれるのです。

今日の御言葉に、「神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせたいからです」とありました。これは、簡単に言うと、「神の子を信じているあなたがたは、神の子とされています。そのことをよく知ってほしいのです」ということです。「永遠の命を得ている」とは、神さまの子どもとされているということなのです。

みんなは、主イエスさまを信じていますから、神さまの子どもなのです。このことは、これまでの子ども礼拝のなかで繰り返し学んできました。

主イエスさまを信じて、聖霊によって新しく生まれさせられて、ぼくたち私たちは、神さまの子どもです。神さまの子どもであるならば、天のお父さまである神さまと、いっぱいお話ししましょう。

「今日、こんな嬉しいことがあったよ。神さまありがとう。」「今日はケンカをしてしまいました。神さま、ごめんなさい。」「かけっこして転んでしまいました。神さま、痛い。早くなおしてください。」「お友だちがカゼをひいています。早く元気になりますように」。いろいろなことがお祈りできますね。みんなはどんなお祈りをするかな。

もう一つ、今日は、すばらしいことを学びましょう。今日の御言葉には、「何事でも神の御心にかなうことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です」とありました。それは、私たちが心を込めて神さまにお祈りするならば、神さまは何でも聞き入れてくださる、ということです。お祈りとは、神さま、天のお父さまとお話しすることです。先ほどは、ただお願い事をするのではないと言いました。でも、お願い事もお祈りの一つです。神さまは、何でもお祈りしてよい、何でもお願いしてよい。神さまはそれを聞き入れてくださると、おっしゃっています。

先ほど、先生と先生の子どものことをお話ししましたが、先生が子どもとお話ししていると、子どもはいつもいろんなことをおねだりしてきます。「ケガをしたから、パンソウコウをはって!」、 「のど渇いた～! なんかが飲みたい」、 「幼稚園行きたくない! おなか痛い」、 「電車(のおもちゃ)買って～!」。子どもがこんなふういろいろなお願い事をするのも、先生は大好きです。喜んで、うんうんとうなずいています。それは、いろいろなおねだりをするとは、親を信頼しているからな

のです。子どもは、先生のことを信頼してくれて、何でも自由にお願いでよいと、そう思っているから、おねだりしてくるのです。

天のお父さまは、子どもが自由に親におねだりするよう、わたしのことを信頼しなさい、信じて何でも自由にお祈りしなさいとおっしゃって、求めておられます。どんなことでもお祈りしてよい、お願いしてよいとおっしゃっています。

でも、ぼくたち私たち、余計なことまでお願いして、わがままを言うてしまうことはないでしょうか。自分勝手に言うて、神さまを困らせてしまうこと、神さまを悲しませてしまうことはないでしょうか。

大丈夫です。神さまは、私たちが自分勝手に、わがままなことをご存じです。自分勝手にわがままな私たちを、神さまの子どもとしてくださっているのです。十字架につけられてくださった主イエスさまが、私たちの味方なのです。

神さまは、私たちの願い事のすべてを聞かれるわけではありません。それは、みんながお父さんお母さんにおねだりしても、すべてをかなえてもらえるわけではありませんね。お父さんやお母さんは、みんなに何が必要かを考えて、みんなが思いもつかなかったこと、でも、とても大切なことをしてくれるはず。神さまは、私たちのお父さんお母さんにまかせて、私たちの本当の必要をご存じですから、私たちにふさわしい必要なこと、大切なことをかなえてくださるのです。神さまは、私たちの願い以上に、私たちにとってよいことを計画してくださるのです。

ですから、私たち、神さまを信頼して自由にお祈りしましょう。神さまを信頼して、何でもお話ししてよいのです。必ず私たちの思い以上のこたえが返ってくるはず。 (望月 信)

---

[今週の暗唱聖句] ヨハネの手紙一5章14節

何事でも神の御心にかなうことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。

これが神に対するわたしたちの確信です。

---

## 〈ねらい〉

さらに祈りの恵みを味わおう。

## 〈展開例〉

みんなは、朝起きてから夜寝るまでお父さんやお母さんといろいろお話ししますね。“おはよう!” “おなかが空いたよ” “ご本読んで” “ころんじゃった” “牛乳飲みたい” とかいろいろね。そんな時、お母さんが怖い顔をして知らん顔してお話し聞いてくれなかったらどう? いやよね。かなしいよね。さびしいかな。でも反対にニコニコしてなんでも“わかったよ” とか“へえそうなの、たいへんだったね” って聞いてくれたら嬉しいね。

天の父なる神様は、私達に、何でもお話しなさい、聞いていてあげるよ、と待っていてください

ます。嬉しい時“かみさま、ありがとう”、困った時、かなしいとき“かみさま、どうしよう。助けてください。力をください”ってね。神様は聞いてくださるだけでなく、ちゃんと答えてくださいます。一番良い答えをくださいます。(願いどおりになるという意味ではないことを簡潔に説明をしてもいい) 安心して何でも神様にお話ししましょう!

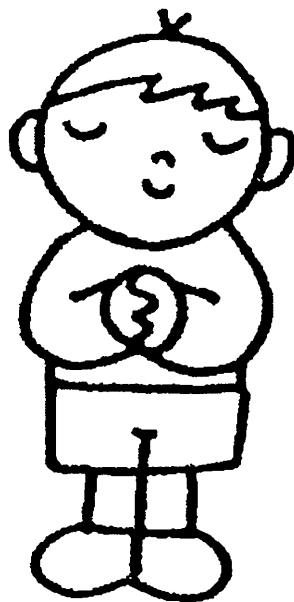
## 〈おいのり〉

天の父なる神様、お祈りできることありがとうございます。お祈りすることが大好きな子にしてください。イエスさまのお名前によって。アーメン。

## 〈やってみよう〉

下の絵を大きくコピーして、塗り絵をしましょう!

おいのりしよう



## 〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ①神の子の名とは？ (→イエスさま)
- ②イエスさまを信じている人は何を得ている？  
(→永遠の命)
- ③私たちはお祈りで何を願うべき？ (→神さまの御心に適うこと)
- ④神さまはそのような願いを聞いてくださる？  
(→必ず聞いてくださる)
- ⑤永遠の命を得ることは神さまの御心？ (→神さまの御心に最も適うこと)

## 〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

- ①お祈りは何の手段と言われた？ (→恵みの手段)
- ②恵みの手段には他には何があった？ (→御言葉と礼典)
- ③お祈りは教会でするもの？ (→教会でもお家でも、どこでもするもの)
- ④お家でお祈りするときは自分のことだけ祈ればいいのか？ (→教会の人たちのため、またみんなのために祈る)
- ⑤神さまの御心に適うことを祈るためには何を読まなければいけない？ (→聖書)

## 〈考えてみよう〉

最近どんなことをお祈りしたでしょうか。お友だちと仲良くできるように、病気が早く治るように、あるいは、前から欲しかったあれを買ってもらえるように、というお祈りをした人もいられるでしょうか。神さまの子供とされた私たちはどんなことでもお祈りすることができます。でも、神さまの御心に適うお祈りとはどういうものでしょうか。考えてみましょう。一番大切な神さまの御心は、みんながイエスさまを信じるようになるということです。病気が治ることも、欲しいものが与えられることも大切ですが、イエスさまを信じて永遠の命をいただくことに勝る喜びはありません。イエスさまを信じて歩めることを感謝し、そしてまた、お友達もみんなイエスさまを信じるができるように、お祈りしましょう。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。私たちのお祈りをいつも聞いてくださってありがとうございます。みんながイエスさまを信じることができますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

祈ることの大切さを考える。

## 〈展開例〉

## ①なぜ祈るの？

神様はたとえ私たちが祈らなくても、私たちが何を求めているのか、どういうことで困っているのかをご存知なのではないでしょうか。私たちが求めなければ神様は何もくださらないのでしょうか。それほど神様は不親切なお方なのでしょうか。

## ②神との交わりを必要とする人間

神様によって造られた人間は、神様との交わりなくして生きることはできません。この神様との愛の交わりが祈りなのです。

## ③もし祈らなくても願いがかなえられたら……

お祈りをしなくても、願っていることがそのとおりになることがあります。でも私たちが求めないのに与えられたら、神様が与えてくださったと確信できるでしょうか。心から神様に感謝できるでしょうか。

## ④祈りによって願いがかなえられると……

神様が祈りにこたえ、素晴らしい御わざをあらわしてくださったとき、それをかなえてくださったのは神様であると確信することができます。

神様は私たちを、祈りをとおして訓練してくださいます。

その祈りの訓練を通して、私たちはますます神様を深く愛することができるようになります。危険が迫ってきたとき、親のもとにかけ寄る子供のように、信頼する神様のもとにすぐに逃げ込むことができるようになります。

## ⑤祈りを待っておられる神様

子どもが自分の言葉で親しく話しかけるのを待っている親のように、神様は私たちが神様を呼び求めるのを待っておられます。神様は私たちの祈りに耳を傾けてくださり、その願いを聞いてくださるお方です。

## ⑥祈らないことは……

神様が与えようと用意されているものを祈り求めないのは、地面の下に宝があると知らされなが

ら、探し出そうとしない人のようです。あなたのどんな小さな必要をもよくご存知であるお方は、宝を用意してあなたの呼びかけを待っておられるのです。

## ⑦信頼して祈る

祈るときに大事なことは、神様があなたに最も良いことをしてくださることを信じることです。聞いてくださるかどうかわからないけど、試みに祈ってみようとかいう気持ちでお祈りしてはいけません。たとえそのときに願いがかなえられなくても、それ以上に神様はあなたのために良いご計画をお持ちなのですから。

## 〈推理ゲーム〉

次の人物は誰でしょう。わからなかったら、聖書を開いて調べてみよう。生徒には聖書の箇所ははじめから教えないように。聖書箇所から名前がわかってしまうので、ページ数を教えるとよい。

- (1) 私は嵐の海に投げ込まれました。三日間、大きな魚のおなかの中にいました。私が祈ると、神様は私を吐き出すように魚に命じてくださいました。私は悔い改めて、主の命令に従い、ニネベの町に行きました。(ヨナ書1～2章)
- (2) 私の夫はエルカナといいます。何年も私には子どもが与えられませんでした。私はそのことでとても苦しんでいました。でも神様は私の祈りを聞きあげてください、男の子を与えてくださいました。(サムエル記上1章)
- (3) 私はイスラエルの預言者です。バアルの神との戦いはすごかったです。私が祈ると神様は天から火を降らせ、献げ物を全部焼きつくされました。でもバアルの神は何にもできませんでした。神様は本当に力ある方です。(列王記上18章)
- (4) 私がタビタさんの家に行くと、みんなは泣いていました。タビタさんが病気で亡くなってしまったからです。私がひざまずいて祈ると、彼女は目を開き起き上がりました。多くの人が主を信じるようになりました。(使徒言行録9章36～43節)

**【目標】**

祈りの持つ大きな力を知る。

**①説教を深めるために**

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

**②あらためて御言葉に取り組む**

→ヨハネの手紙一5章13～15節をあらためて生徒と読む。

**【ポイント】**

祈りは、単に密室にこもって自らの内面をえぐる内向きな精神の営みではなく、祈りによって私たちは、神様が作り出される広々とした自由な空間を味わうのである。祈ることによって私たちは閉じこもるのではなく、それによって神様が作られる新しい始まりに参加していく。その広がりに加わっていく。私たちは祈ることで自分の内側に引っ込むどころか、天と地という隔たりを飛び越えて父である神様の前に立ち、そこで神様と語

る。そこには、神様が私の祈りを聞いてくださるがゆえに保証される、自由と恵みと新しい始まりがある。この祈りの持つ力と私たちの思いを超えたダイナミックさを知りたい。

**③生徒と一緒に考える**

→まず教師自身にとっての、祈りにおいて与えられる力と豊かさの経験を、生徒と分かち合う。

Q. 祈りがもたらす結果に、制限はあると思いますか？

Q. これはきっと無理だろうという神様への願いはありますか？

Q. 疑問は解けましたか？

**④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く**

Q. これは神様に祈りたいと思いながら、まだ折れないでいる願いはありますか？

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト ルカによる福音書11章1～4節

**〈呼びかけ〉**

主なる神様と私たちとは、創造主と被造物、統治者と被統治者、主人としもべの関係です。つまり、しもべ（「奴隷」とも訳せる）であれば、主人に絶対服従であり、逆らうことなど出来ません。そうであるにも関わらず、主なる神様は、私たちに救いをもたらして下さると同時に、祈りを献げる時に、「父よ」と呼びかけることをお許し下さり、親しい関係にあることを、お示し下さいます。これは神様の私たち人間に対する愛の表れそのものであります（参照：ウェストミンスター信仰告白第12章「子とすることについて」）。

**〈祈りの構造〉**

主の祈りの各々に関しては、次回から一項目ずつ学びますので、そちらに委ねることとします。従いまして、この場では、主がお求めになられる祈りにはどのような要素があるのかを、全体の枠組みから考えてみたいと思います。

主の祈りにおいては、第一～第三の祈願が神様に対しての祈りであり、第四～第六の祈願が私たち自身と隣人に対する祈りとして、大きく二つに分けることが出来ます（ルカ福音書においては第三の祈願が省かれています）。ちょうど十戒において第一の板と第二の板に分かれているのと似た構造を持っていると考えてもよいかと思います。

前者の神様に対しての祈りに関しては、私たちの信仰理解、神像が問われてくるものであり、前にも述べたように主なる神様と私たちの関係をしっかり捉えた上で、神様が私たちに対して注ぎ

だして下さっている愛をしっかりと知ることにおいて、初めて主の栄光を称える祈りを自然と祈ることが可能となるかと思います。

また後者の私たち自身と隣人に関しては、三つのことが考えられるでしょうか。まず私たち自身に関しては、まず主の御前に罪を確認した上で罪の悔い改めがあり、次に私たち自身の願望を祈ることを、主はお許し下さっています。そして最後に、隣人に対する執り成しが生じてきます。

**〈祈りの姿勢〉**

いずれにしましても、私たちが主の御前に祈りをお献げしようとする時、私たち自身の信仰が問われてくるのです。従って、宗教改革者カルヴァンはキリスト教綱要Ⅲ第20章において、祈祷論を展開するに当たって、祈りを整えるにあたって、私たちに求められる姿勢として以下の四つの法則を語っております。詳細なことはここで紹介することは出来ませんが、ごく簡単に紹介させていただきます。

- 第一—神との対話にふさわしい思いとなること。  
→全神経の集中。
- 第二—自らの窮乏についての意識を持つこと。  
→霊的な窮乏と罪意識が示される。
- 第三—神の前での遜りの姿勢  
→罪の告白へとつながる。
- 第四—聞き届けられるとの確信を持つこと。  
→恐れることなく、畏敬に満ちた祈り。

(辻 幸宏)

## カテキズム 子どもカテキズム問77

## 子どもカテキズム

問77 御言葉の中にあるお祈りのお手本は、何ですか。

答 イエスさまが「こう祈りなさい」とお命じくださった、主イエスの祈りです。

「主の祈り」を祈るとき、イエスさまが共におられることが分かります。

なぜなら、イエスさまのお祈りをなぞることだからです。

私たちをイエスさまと一つに結んでくださる祈りです。

イエスさまと結ばれた神さまの子どもの私たちのお祈りを、天のお父さまは待っておられます。

私たちは、毎日、イエスさまのお名前によって、天のお父さまにお祈りします。

参考教理問答 『ハイデルベルク』118,119、『ウ信仰告白』第14章

## 〈祈りの手本〉

「祈りを教えてください」。いわば、祈りのペテランであるはずのユダヤ人の弟子たちは、あらためて「祈り」を教えてくださいと願いました。主イエスとともに生き、祈りをしながら、そこに異質なものを覚えたからです。そこで与えられたのが、「主の祈り」でした。これは祈りの中の祈りです。なぜなら、この祈りは、人となりたもうた主イエスが地上で祈られた祈りそのものだからです。第二に、「このように祈れ」と、祈りそのものと祈りの言葉を教え命じられたものだからです。祈りの神髄、お手本です。

## 〈主の祈りの内容〉

六つの祈願の前半の三つは、神のための祈り、神の栄光を求める祈りです。後半は、私どものための祈り、命と救いにかかわる祈りです。しかし、私どもの救いも神の栄光となりますから、主の祈りの内容とは、徹底的に、神中心、神の栄光のためのものなのです。この祈りを説くことは、聖書全体の教理を説くことにもなります。福音の豊かな内容をたたえているのです。

## 〈なぞる祈り〉

ここでの解説を丁寧に学ぶために、ぜひ、既刊第8号所収の拙稿、巻頭説教「祈りを祈る—信仰を生きるとは—」をご参照ください。

主イエスの祈りを自分の口にのせるとき、それ

は、先立って祈っておられる主イエスご自身とその言葉をなぞらせているかのようです。主の息吹が込められたような祈りの言葉を口にするとき、主の臨在は鮮明になります。主の祈りの言葉とわたしの祈りの言葉とがびたりと重なるとき、まさに主と一つになるのです。この出来事こそは、まさに、主イエス・キリストと私どもとが聖霊によって一つとされていることを、お教えくださる恵みの手段、通路そのものでなくてなんでしょうか。祈りとりわけ「主の祈り」によって、主イエスと私どもとが結び合わされるのです。主の祈りを祈るときと場所は、主がともにおられることを思い起こすときと場所になるのです。主の祈りは、子どもたちに「イエスさまが共におられること」を分からせることをこそめざして教えられるべきです。

さらに、主の祈りは、礼拝式で祈られてまいりました。それは、すべての神の民、教会の仲間たちを一つにさせられることを教会は知っているからです。キリストのみ体なる教会を形成する祈りです。各個教会ばかりか、世界中の神の民をも一つに結び合わせる祈りです。

## 〈祈りを待つ神〉

祈りは「信仰の呼吸」と呼ばれます。ですから毎日祈るのです。なによりも、神こそが祈りにおいて私どもと一つになることを欲し、待っておられるのです。

(相馬伸郎)



テキスト ルカによる福音書11章1～4節  
 カテキズム 子どもカテキズム問77

### 〔単元のねらい〕

キリスト教信仰における祈りが偶像宗教に言われる祈りと決定的にことなっているのは、祈りは神ご自身が教えてくださるもの、あるいは神から学ぶものであるという点であろう。その点で、主イエスから祈りを学ぼうとした弟子たちの姿勢は正しい。「主の祈り」は主イエスがおん自ら弟子たちに教えてくださった祈りである。この祈りをなぞって祈るとき、私たちも主のみ霊にあって天の父とひとつとされていることを覚えたい。

## 「イエスさまの祈りを祈る」

ある日、いつものようにイエスさまは天の父なる神さまに祈っておられました。弟子たちはイエスさまがお祈りしているみ姿をじっと見ていたことでしょう。お祈りが終わるのを待って、ひとりの弟子がこうお願いしました。「イエスさま、パテスマのヨハネが弟子たちにお祈りを教えたように、わたしたちにもお祈りすることを教えてください」

イエスさまはこのお願いを聞き入れてくださって、祈るときにはこのように祈りなさい、と教えてくださいました。それが「主の祈り」と呼ばれる祈りです。

「主の祈り」は、祈りのお手本ともいうべき祈りです。みじかい祈りですが、この中にわたしたちが神さまに祈るべきことのすべてが、ぎゅっと詰まっています。「主の祈り」を祈るなら、もうほかのお祈りの言葉をつけくわえる必要がないほどに、この祈りは見事に完成された祈りなのです。主イエスがおん自ら教えてくださったこの祈りほど美しく、完全な祈りはほかにありません。

「主の祈り」についてはこれからひとつひとつ学んでいくことになりますが、そのようなすばらしい祈りですから、心をこめて学んでください。

今朝覚えておきたいひとつのことは、祈りとは教えていただくものだ、ということです。

生まれたばかりの赤ちゃんは、言葉話すこと

ができません。でも、おとうさんやおかあさんが、一日に何回も話しかけます。まわりの人たちも話しかけます。そうするうちに、赤ちゃんはだんだん言葉を話すことができるようになります。わたしたちもそうだったのです。つまり今わたしたちが言葉を話すことができるのは、いろいろな人から言葉を教えてもらったからです。

祈りも同じです。教えていただくものです。ですから弟子たちがイエスさまに、祈りを教えてくださいとお願いしたのは、とても正しいことです。

祈りは神さまとわたしたちとの会話です。神さまはイエスさまを十字架につけてよみがえらせることによって、わたしたちの罪をゆるし、わたしたちを神さまの子どもとしてくださいました。ですからいつもわたしたちに向かって、親しくわが子よ、と呼びかけてくださいます。わたしたちもまた親しく天の父よ、と呼びかけます。

そして神さまは、わたしたちが神さまの子どもとしてどのように生きていけばよいのかということをもみ言葉によって教えてくださいます。それからまた、祈ることをも教えてくださいます。私たちを子どもとしてくださった恵みをどのように感謝したらよいのか、私たちのさまざま願いをどのようにお願いしたらよいのか、そのひとつひとつのことを神さまは教えてくださいます。

わたしたちは学校でいろいろなことを学びます。それと同じように、祈りも学んでいくべきもので

す。祈りの学校はイエスさまの教会であり、教科書は神さまのみ言葉である聖書です。わたしたちは生涯祈り続けます。生涯「主の祈り」を学び続けます。そのようにして、祈ることがどれほど素晴らしいことなのかということを目々新しく教えていただくのです。

もうひとつのことを覚えてください。「主の祈り」を祈るとき、いつも父なる神さまがわたしたちのそばにいてくださるということです。神さまは天におられます。イエスさまも天の神さまとともにおられます。わたしたちは地上にいます。神さまがおられる天と、わたしたちのいる地との間

には、目もくらむようなへだたりがあるように思えますね。

でも「主の祈り」を祈るとき、その天と地のへだたりはなくなるのです。ほんとうに、神さまはわたしたちの近くにいてくださるのです。父が子どもを遠いところで、ひとりきりにしてほっておくということはありませんね。わたしたちの父なる神さまも、いつもわたしたちとともにいてくださいます。「主の祈り」を祈るとき、そのことがわかります。

これはイエスさまのみ霊の愛の力によることです。神さまの愛は、天と地のへだたりをもこえて強いのです。  
(木下裕也)

---

[今週の暗唱聖句]      テサロニケの信徒への手紙一5章17節  
絶えず祈りなさい。

---

〈ねらい〉

お祈りを教えてくださるイエスさま。

〈展開例〉

ヒロ君は2歳のころ、バナナのことを「ナバナ」と言っていました。ちがうよね。おかしいね。だからママが「バ・ナ・ナ」とゆっくりなんども教えました。それで3歳になったヒロくんは「バ・ナ・ナ」とちゃんとと言えるようになりました。

イエスさまは、大切なお祈りについてちゃんと教えて下さいました。教えていただかなかっただら、あれください、これがほしいというようなお祈りしか出来ない子になったかもじれません。お祈りはこういうふうにするんですよ、と教えてくだ

さったお祈りが、主のいのり、です。もう全部言えるよ、というお友達もいるかもしれませんが。まだのお友達も心配いりません。これから少しづつ覚えていきましょうね。主の祈りの言葉は難しいので、どういのお祈りか、これから毎週お話をします。(主の祈りの全体をゆっくりみんなで唱えてみましょう)

〈おいのり〉

天の父なる神様、主の祈りを教えてくださってありがとうございます。どんなお祈りかよくわかってお祈りができるようにしてください。大好きなイエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

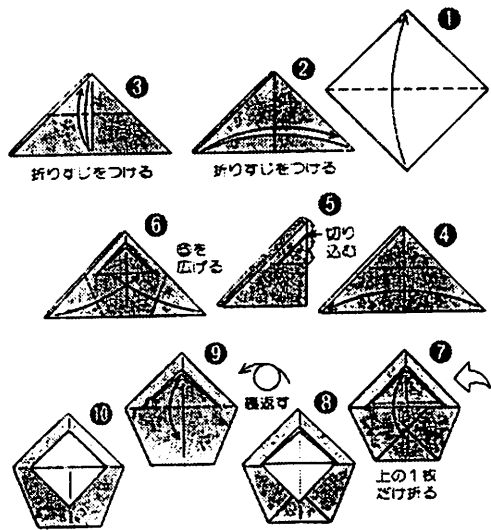
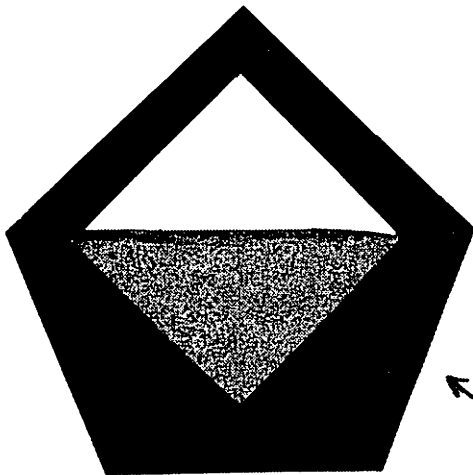
〈やってみよう〉

来週から作る「主の祈りのカギカード」を入れる袋です。

来週からこの袋を忘れずに持ってきてきましょう!

作り方……1辺25cm 前後の色画用紙かケント紙を下図のように折り、完成させる。

クレパスやちぎり紙等で袋のまわりを飾ってもよい。



## 〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ① イエスさまもお祈りをされた？（→よくお祈りをされた）
- ② イエスさまにお祈りを教えてほしいと言ったのは誰？（→弟子の一人）
- ③ イエスさまが教えてくださったお祈りを何と言う？（→主の祈り）
- ④ 特に前半では何を祈る？（→神さまの御名を崇め、御国と御心を求める）
- ⑤ 特に後半では何を祈る？（→わたしたちの必要なもの）

## 〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

- ① 主の祈りの主とは誰のこと？（→イエスさま）
- ② 主の祈りの中にはいくつのお願ひがある？（→六つ）
- ③ 主の祈りをそのまま読んでお祈りしてもいい？（→そのようにしてイエスさまのお祈りをなぞることができる）
- ④ 主の祈りを祈っているとき、イエスさまはどこにおられる？（→私たちと共におられる）
- ⑤ お祈りの最後は誰のお名前を祈る？（→イエスさま）

## 〈考えてみよう〉

人前でお祈りできるでしょうか。苦手な人もいるかもしれません。でも最初からお祈りが上手な人はいません。お友達のお祈りや先生のお祈りをよく聞いて、同じようにお祈りできるように練習すればいいのです。イエスさまのお弟子さんも、イエスさまにお祈りの仕方をたずねました。すると、イエスさまはお祈りの言葉を教えてくれました。私たちもまず主の祈りを覚えてみることから始めましょう。主の祈りを祈っているとき、イエスさまご自身が私たちと一緒にいて、私たちがお祈りするのを助けてくださっているのです。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。主の祈りを教えてくださってありがとうございます。主の祈りをよく覚えて、いつもイエスさまと一緒に祈りできますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

主の祈りは私たちの祈りのお手本である。

## 〈展開例〉

イエス様は私たちに、このように祈りなさい（マタイ6章9節）と主の祈りを教えてくださいました。

## ①このように祈りなさいとは？

二つの方法があります。

一つめの方法は、主の祈りをそのままの言葉で、声に出して、また心の中で祈ることです。主の祈りの一つ一つの意味をよく理解して祈ることが大切です。そのとき自分の心を主の祈りに合わせながら祈ることができるようになります。

二つめの方法は、主の祈りをお手本にして、自分の言葉で祈ることです。お習字を習うとき、まず先生の上手に書かれたお手本をよく見て書くことが大切です。また、そのお手本を下にして上から紙をあてて、なぞってみたりします。そうやって、お手本をまねることでお習字がうまくなります。お祈りもまたイエス様が教えてくださいました「主の祈り」にならうことが大切です。

## ②なぜ主の祈りが必要な？

私たちは祈ることを教えてもらわなければ、正しく祈ることができません。そうでなければ、私たちは自分勝手に自分のほしいものを何でもお願いするようになってしまいます。それは神様を、私たちの願いをかなえる召使にすることです。

お正月になると大勢の人が神社に初詣に行きます。そこでは、「どうか病氣になりませんように」とか、「受験に合格しますように」などと願いごとをします。でもそれは正しい祈りではありません。初詣では誰も「神様の御名があがられますように」とはお願いしません。神様に背いた人間は、神様を正しくあがめたり、祈ったりできなくなってしまったからです。

だから私たちは、祈りの手本である主の祈りをイエス様から教えていただく必要があるのです。

## ③主の祈りの構成

「天にましますわれらの父よ

願わくは、み名をあがめさせたまえ

み国をきたらせたまえ

み心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

われらの日用のかてを今日も与えたまえ

われらに罪をおかすものを、

われらがゆるすごとく、

われらの罪をもゆるしたまえ

われらをこころみにあわせず、

悪よりすくいだしたまえ

国と力と栄とは、かぎりなく、

なんじのものなればなり」アーメン

主の祈りは神様への呼びかけから始まります。

次に神様自身に関わる事柄（三つ）、私たち自身に関わる事柄（三つ）へと続きます。最後に神様への賛美で締めくくられます。

神様をどんなときでも第一とすることを、主の祈りは教えています。まず、神様に心を向けて、神様のすばらしさをたたえ、賛美することから祈りを始めるのです。

このように祈ることを教えてくださった方は、イエス様の他には誰もいません。

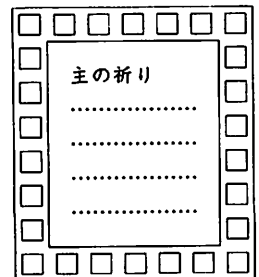
主の祈りには、私たちが祈るべき祈りのすべてが含まれています。

次回から主の祈りの一つ一つの意味を学んでいきます。一緒に楽しく学びましょう。

## 〈工作〉

○材料……ガラススタイル、接着剤（木工用ボンド）、新聞紙、板か木製のフォトフレーム  
ガラススタイル、フォトフレームは100円ショップや手芸店にあります。

○作り方……木の板やフォトフレームの回りにガラススタイルを接着剤で貼る。主の祈りを書いたカードを真中に貼る。



**【目標】**

主の祈りが、私たちのために神様から与えられた正しい祈りであることを知る。

神を見上げることができる。神の御子が、父なる神に祈る、その地平に私たちはこの祈りによって加わることができる。

**①説教を深めるために**

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

**③生徒と一緒に考える**

→まず教師自身にとっての主の祈りを祈る恵みを、生徒と分かち合う。

Q. 100点満点の間違いのない祈りが聖書の中には書かれているのです。そんな祈りがあることを知っていましたか？

**②あらためて御言葉に取り組む**

→主の祈りをあらためて生徒と祈る。

Q. 御存知の主の祈りですが、その意味を考えたことはありますか？

**【ポイント】**

主イエスは、主の祈りを、私たちに与えてくださった。これは文字通りの主の祈り、主イエス御自身の祈りの、私たちへの伝授である。主イエスが祈る祈りが、私たちに伝授されるということは、これは大きなことである。主の祈りを知る前は、人間の祈りは、下から上への、人間から神様への呼びかけだった。けれどもこの主の祈りは、人間がつむぎ出した宗教的な言葉のかたまりではなく、御自身が神であられる主イエスが、上から私たちに伝えてくださった祈りの言葉である。この主イエスの祈りを私たちが祈る時に、私たちは主イエスと同じ目線で、同じ間合いで、父である

Q. これは誰が考えた祈りですか？

Q. 疑問は解けましたか？

**④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く**

Q. どう祈ったら良いのか分からないときでも、主イエスがこう祈りなさいと言われた主の祈りが私たちには与えられています。一緒にこの祈りを祈りましょう。

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト ローマの信徒への手紙8章14～16節

主の名を呼ぶこと、神の御名を唱えることは、神の民の特質であり、特権である。旧約聖書の創世記4章26節には、アダムの三番目の子セトの時代から主の名を呼び始めたとある。以来主の名を呼ぶことは、神を信じる者、クリスチャンの呼び名とさえなった。

### 〈神の子どもとして〉

使徒パウロは、聖霊によって導かれる者は全て神の子どもである、と語る(14)。神の子どもというのは、神の愛の対象とされている者の事である。とは言え、私たちはそのまま神の愛の対象とされるのではない。本当の神の御子は、ただ一人イエス・キリストだけである。私たちは元来、神によって造られた者(被造物)にしからず、しかも罪人の頭なのである。それ故神の怒りと呪いの対象でしかなかった。そのような私たちが神の子どもとして受け入れられたのは、主イエス・キリストの貴い救いのみ業によるもので、このお方によって神の子どもとしての身分を与えられたのである。即ち私たちは養子とされて初めて神の子どもとみなされたのである。そのイエス・キリストの救いを分かち与えて下さり、キリストに結びつけて下さったのが、聖霊なる神様である。だからパウロは、全て聖霊によって導かれる者は神の子どもである、と語り、私たちは聖霊を住まわせて頂いて神の愛の対象とされていると確信できるのである。ヨハネは、私たちが神の子どもと呼ばれるのにどんなに大きな神の愛を賜ったことかと、主張する(ヨハネ3:1)。

### 〈罪との戦いに召された者〉

私たちが神の子どもとされたのは、この地上にある間残る罪との戦いに召されたためである。確かに神の子どもであって神の愛の対象ではあるが、直ちに私たちの全てが全く聖められるのではない。

激しい罪との戦い、この世の誘惑や試練が私たちを待ち受けている。その罪との戦いは、到底私たちの力や智恵で勝つことの出来ないものである。むしろサタンと悪の力の方が圧倒的に大きく、惨敗を味わわなければならない。神の子どもでもあっても完成しているのではないからである。パウロは、それ故にここでは繰り返し罪との戦いに勝利せしめるのは私たちの力では全くなく、聖霊のお働きによると強調する。何故なら、聖霊が主語になっているのである(14,16)。み霊によって導かれねば、神の子どもであることも、当然罪との戦いに打ち勝つこともできない。この私自身は、本当に無力で、愚かな者であることを謙虚に認めねばならない。しかし、聖霊なる神が私たちを助け支えて下さるのでなお罪と戦うことができる。その罪との戦いは、祈りを通してなされる。それ故に、祈りはこの私の無力を示し、聖霊により頼むものとさせる。まさに祈りは、神の子どもにとってみ霊の武具と言えるものではないか(エフェソ6:18)。

### 〈神の愛と信頼による歩み〉

神の子どもとされた私たちは、神の愛の対象であって、もはや奴隷ではない。奴隷は、主人への畏れと屈従によって従う者のことである。私たちは神様を恐れるから神に従うのではなく、愛と信頼の内に生かされている者である。神が私たちを愛して下さっており、信頼して下さっているのである。だから私たちは、このお方の愛に応えることができるのであり、仕えるのである。そして神様が私たちを愛して下さって約束して下さっているのが、天の嗣業である(17)。その天の嗣業を受け継がせて下さる為に、神は私たちを訓練し、鍛えられるのである。神の国の嗣業に相応しいものへと私たちを育くみ、導いて下さる神による愛の訓練を忘れないようにしたい。(山下朋彦)

## カテキズム 子どもカテキズム問78

## 子どもカテキズム

問78 「天にまします我らの父よ」の呼びかけは、私たちに何を教えてくれますか。

答 イエスさまが成し遂げてくださった十字架と復活の恵みによって、  
 私たちが罪赦されて、神さまから子どもと呼ばれる者となった喜び、  
 聖霊なる神さまが私たちの内にお住まいくださる喜びを  
 繰り返し思い起こさせてくださいます。

「私たちの天のお父さま」とお呼びするとき、

私は一人ぼっちではなく、神さまの家族の一人であることに気づきます。

ですから、自分のことだけを祈ることはできません。

証典聖句 ローマ8：14-17、ガラテヤ3：26-28

参考教理問答 『ハイデルベルク』120-121、『ウ小教理』100、『ウ大教理』189

「主の祈り」において、主イエスが弟子達に教えられたことは、祈りの相手、対象であられる神に、「我らの父よ」と呼びかけて祈ることでした。神を「父」と呼んで祈りをささげることは、当時の人々には畏れ多いことでした。当時のユダヤ人は、神を畏れかしこんで敬い、神の名前を唱えたり、口にすることさえ、神を冒瀆することであるとして、神の名を発音しませんでした。それにもかかわらず、主イエスは、神に親しく「アッパ、父よ」と呼びかけて祈ることを教えられました。「アッパ、父よ」とは、幼児が自分の父親に「おとうちゃん」と呼びかける言葉です。本来、神を「父よ」と呼ぶことができるのは、永遠の神の御子であられるイエス・キリストただお一人です。しかし、私達にそれが許されるのは、主イエス・キリストによってです。神はキリストによって、私達の父となって下さったからです。私達は主イエス・キリストによって贖われ、再生され、義とされ、神の子とされたのです。(ローマ8：14-17)

ですから、私達は、主イエス・キリストの父である神を「我らの父よ」と呼びかけて祈るときに、主イエスの御名によって、イエス・キリストを通して祈っているのです。キリストがご自分の父であられる神に全幅の信頼をもって祈っておられるように、私達も、キリストによって「我らの父」

であられる神に、子供が肉親の父に持っているような絶対的な信頼と親しみをもって願い求めるようにして下さいなのです。

父は、自分の子供には子供の欲しがる物、必要な物、良い物を与えてくれるのですから、ましてや天の父であられる神が、私達の祈りに答えて下さらないことはありません。さらには、天の父は、私達に最もふさわしい物、必要な物を一番よい時に与えて下さるのです。

その中でも、神は私達に聖霊をお送り下さって、聖霊によって私達は神を「アッパ、父よ」と呼ぶことができるようにしてくださいます。さらに、神を「我らの父」と呼んで祈る祈りにおいて、主イエス・キリストも私達と共に父なる神に祈って下さって、あたかも、ご自分の祈りとして、私達の祈りを父なる神に執り成して下さるのです。

次に私達は、「私の父」ではなく、「我ら(私達)の父」よ、と呼びかけることによって、キリストを中心とした信仰共同体の一員であり、キリストの体の一部であることを意識しなければいけません。信仰を同じくする兄弟姉妹と共に祈り、祈りを通して兄弟姉妹との聖徒の交わりの絆を深めていくのです。そして、お互いのために執り成しの祈りをささげ、励まし、慰められるのです。

(久保浩文)



テキスト ローマの信徒への手紙8章14～16節  
 カテキズム 子どもカテキズム問78

### 〔単元のねらい〕

「天の父よ」、この神への呼びかけの中に、既に、福音の神髄、救いの教理が込められています。「天の父よ」、これは、御子にして私どもの主イエス・キリストの御業の故に、主イエスの御名によるのみ、呼ぶことが許されている神の御名です。神を私どもの父、私の父とお呼びするとき、すでに聖霊のお働きにもあずかっています。三位一体の神のお働きによって祈りを祈ることができることが分かります。今日は、主イエスの命をもって神を父と呼ぶ特権、神の子とされている特権を子どもたちと大いに喜び、感謝する日としたいと思います。そのためにこそ、神の子とされている恵みの事実、主イエス・キリストの救いの御業を確認し、感謝と献身を新たにす礼拝式を捧げたいと願います。

## 「天のお父さま！ 僕たち私たちは神さまの子どもです」

今日からいよいよ、主の祈りの言葉を学んで行きます。先生はわくわくしてきます。みんなの中には、すでに、この主のお祈りを覚えているお友達もいるでしょう。とてもすばらしいことです。また、まだ覚えていないお友達は、一生懸命覚えてください。その一番いい方法を教えます。それは、毎日、声に出して「主の祈り」をお祈りすることです。お祈りは、心の中で、してもかまいませんが、でも、声にだすことこそ、一番すばらしいのです。これは、本当のことです。先生の言うとおりに、してみたら必ずわかります。今週、皆で、声に出してお祈りしよう。

さて、主の祈りの最初の言葉は何でしたでしょうか。「願わくは御名をあがめさせたまえ」。ではありません。その前に、先ず、神さまをお呼びする呼びかけの言葉から始まっています。

僕たち私たちは、いつもお祈りするときのように神さまをお呼びしていますか。多くのお友達は、「天のお父さま」ってお呼びすると思います。神さまは僕たち私たちの天におられる、天にましますお父さま、だという意味ですね。

皆には、お父さんがいるでしょう。いない人もいるかもしれません。けれども、お父さんでもお母さんでも、どうして、「お父さん」とか、「お母

さん」と呼ぶようになったのか、いつから呼べるようになったか覚えているお友達はいますか。2歳とか、3歳くらいのことでしょうか。

先生の家には、今、インコがいます。サンタクロースが連れてきてくれたときには、まだ本当に赤ちゃんでした。インコは、最初に見た動く者をお母さん、親と考える性質を持っているらしいのです。そうすると、サンタクロースが親になるのかもしれない……。それなら、お父さんやお母さんと僕たち私たちとの関係はいつから始まるのでしょうか。実は、人間の赤ちゃんの場合、生まれたばかりのときは、まだ目がよく見えないのです。

お父さんや、お母さんは一生懸命僕たち私たちの名前を呼んでくれたはずですが、そのおかげで、僕たち私たちは、誰が親なのかがわかったのです。つまり、自分のことを呼んでくれないと、わからなかったのです。

神さまが僕たち私たちにとって、天のお父さまであることは、誰が教えてくださったのでしょうか。それは、イエスさまです。イエスさまは、神の独り子、御子です。その御子が、神さまを「わたしの父」と教えてくださいました。そればかりではありません。「わたしの父であり、あなたがたの父」（ヨハネによる福音書20章17節）と教え

てくださったのです。何よりも、今日の主の祈りの呼びかけです。「天にまします我らの父よ」天におられるわたしたちのお父さまと、呼ぶようにおゆるしくくださったのです。求めてくださったのです。いや、命じてさえくださったのです。

でも、「天のお父さま」と、お呼びすることができるのは、先ず、神さまの方からのお働きかけがなければできないこともわかりますね。僕たち私たちが、自分勝手に神さまのことを、「お父さま」とお呼びすることなどゆるされません。なぜなら、神さまは、僕たち私たちが近づくことできない遠い遠い、見上げることもできないほど離れているところ、天におられる神さまだからです。神さまは、それはそれは清く、正しく、汚れがありません。神さまは、天地をお造り下さったのです。そのような神さまを、どうして、なれなれしく「お父さま」などとお呼びできるのでしょうか。よく考えれば、とんでもないほど、失礼なことではないでしょうか。

ところが、今、神さまのほうで、僕たち私たちのこのところまで近づいてくださり、慣れ親しんでくださり、僕たち私たちを「わたしの愛する子」と呼んでくださっています。だから、天のお父さまとお呼びできるのです。

どうしてそれがわかるのでしょうか。それは、イエスさまを見れば、わかります。神さまの御子が、僕たち私たちの友達となるために、先ず人間になってくださいました。そればかりか、僕たち私たちの罪を赦すために、神さまの子どもにするために、僕たち私たちの罪を背負って、十字架についてくださいました。十字架で、僕たち私たちの罪の身代わりに神さまの罰を受けて苦しんで、死んでくださったのです。そして、三日目にお墓を打ち破ってお甦りくださいました。この御子イ

エスさまのおかげで、信じる人には、誰でもイエスさまの霊、聖霊なる神さまが与えられるのです。この聖霊なる神さまが、僕たち私たちにイエスさまを愛させ、信じさせ、従う心、信仰を与えてくださるのです。この聖霊は、イエスさまの霊ですから、この聖霊を受けた人は、誰でも、神さまの子としていただけるのです。神さまの子どもにして頂いた人は、神さまを「わたしの天のお父さま」と、しぜんに呼べるようになるのです。

「アッパ、父よ」という言葉が先ほど読んだ聖書の御言葉にありました。アッパとは、「バババ」「アブアブ」というような、小さな赤ちゃんが、生まれて最初に口を動かして声に出す響きに似ています。アッパという言葉は、「お父さん、お父さま」という、子どもが父親を呼ぶ呼び方なのです。

先生はお父さんですから、自分の赤ちゃんから、「ババ」と呼ばれると、どんなにうれしくなるかよく、知っています。それなら、皆が神さまを「わたしの天のお父さま」と呼ぶとき、どれほど、喜んでおられることでしょうか。神さまは、皆から、天のお父さまと呼ばれるとき、どれほど、お喜びくださることでしょうか。

「我らの父よ」は、わたしたちの天のお父さまということです。神さまは僕たち私たちの神さま、お父さまです。決して僕だけ、わたしだけの神さまではありません。ですから、お家で、たった一人で神さまにお祈りしていても、決して一人ぼっちではありません。日曜学校のお友達もいっしょです。先生も同じお祈りをしています。皆のためにお祈りしています。だから、お祈りは、自分のことだけではなく、神さまの子どもたちであるお友達のためにもお祈りするのです。（相馬伸郎）

---

【今週の暗唱聖句】

ローマの信徒への手紙 8 章 14 節

神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。

---

## 〈ねらい〉

放蕩息子のたとえ話から、父なる神様を知る。

## 〈展開例〉

あるところにお父さんと一緒に暮らすより一人で楽しく暮らしたいと思ってお父さんからむりやりたくさんお金をもらって、お家を出て行ったという男の人のお話が聖書にあります。たくさんのお金で毎日楽しく遊んで暮らしていくうちにお金がかすかりなくなり、住む家も食べるものも無くなり、困ってしまいました。もうお父さんの家に帰るわけにはいきません。でもお父さんの家しか行くところはありません。恐る恐るそと家の近くまで行って見ました。するとお父さんがじっと玄関に立ってその男の人が帰ってくるのを待っています。そして走ってきて抱いてくれました。男

の人は心からごめんなさいを言いました。お父さんは大喜びをして、男の人が帰ってきたお祝いのパーティを開きました。

このお父さんは、天の父なる神様とよく似ています。神様は、みんなが良い子だったらかわいがってあげるよ、というお方ではありません。どんな子でも神様は待っていてくださいます。そういう神様に“天にまします我らの父よ”とお呼びしてお祈りするのです。

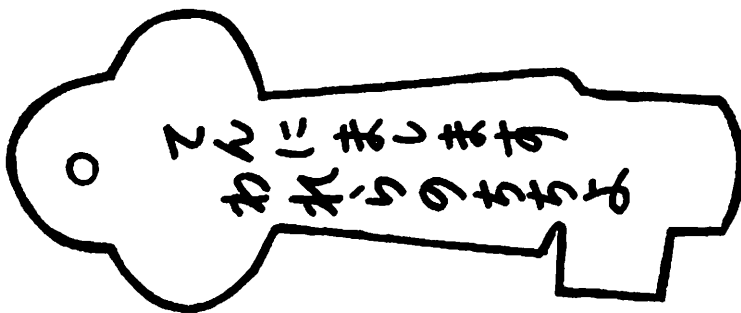
## 〈おいのり〉

天のお父さま、神様をお父さまとお呼びできること、ありがとうございます。良い子でなくても私達を大切にしてくださってほんとにありがとうございます。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

## 〈やってみよう〉

127ページを参照して準備しましょう。

今日から始まる主の祈りの最初なので、これから毎週、「カギカード」がもらえること、これをなくさないよう、かばんの中でクシャクシャにならないよう、先週作った袋にいつも入れておくことなどを説明する。あらかじめ見本として、文字の他にちょっと飾りをつけたものを用意し、それを参考にして、自分のカギカードを飾るようにしよう。



## 〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ① 神の霊に導かれる人は誰を信じる？ (→イエスさま)
- ② 神の霊に導かれる人は誰の子となる？ (→神さまの子)
- ③ 神さまの子になる前はどのような人だった？ (→奴隷)
- ④ 神さまの子は神さまをなんと呼ぶ？ (→アッパ)
- ⑤ どういう意味？ (→お父さん)

## 〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

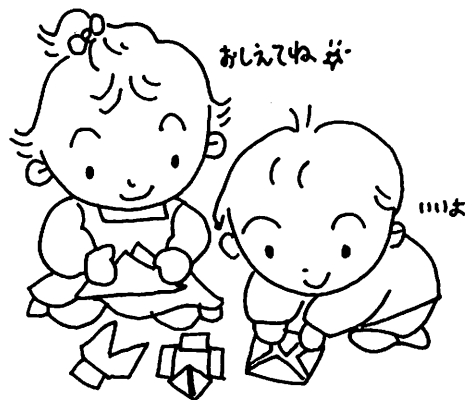
- ① 誰が私たちを神さまの子供にしてくださった？ (→イエスさま)
- ② どうすることによって？ (→十字架と復活により、私たちの罪を赦すことによって)
- ③ 神さまの子供の内には誰が住んでいる？ (→聖霊なる神様)
- ④ 神さまは私だけのお父さん？ (→神さまの家族みんなのお父さん)
- ⑤ 神さまの家族とは何のこと？ (→教会)

## 〈考えてみよう〉

お父さんとはどういう人でしょうか。やさしい、こわい、強い、いろいろなイメージがあると思います。それでは、神さまが私たちのお父さんであると言われるとき、そこにはどういう意味があるのでしょうか。最も大切なことは、愛ということです。神さまは私たち子供を愛してくださって、私たちが喜んで生きることができるように、守ってくださるお父さんなのです。ですから、私たちも神さまをお父さんと呼んで、心から愛して、お祈りをしましょう。そして、神さまが愛しておられるすべての人のことも、私たちは愛して、みんなのためにもお祈りできるようになりましょう。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。いつも私たちを愛してくださってありがとうございます。教会学校のみなどと一緒に、神さまをお父さんと呼んで、心からお祈りすることができますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

「天にましますわれらの父よ」の意味を考える。

## 〈展開例〉

主の祈りは神様へのよびかけから始まる。

あなたは誰かと話すとき、いきなり用事を話し始めますか。それともまず最初に「〇〇さん」と呼びかけてから話し始めますか。

主の祈りは神様に呼びかけることから始まります。それはどうしてでしょう。向こうを向いている神様に気づいてもらうためですか？神様はすべてをご存知のはずなのに、呼びかけないと気づいてくださらないのでしょうか。

そうではありません。「天にましますわれらの父よ」と呼びかけるのは、これから自分が誰に向かって祈ろうとしているのか、その方はどういうお方なのかを覚える（自覚する）ためです。それは祈る私たちの心を整えるためです。聖なる神様にふさわしい尊敬と愛とをもって、心の準備をするためです。

## ①「天にまします」とは

天とは聖い神様のおられる御座を表しています。大空や宇宙という意味ではありません。天という言葉は、神様がはかり知ることのできないほど大きく、高く、栄光に満ちたお方であることをあらわしています。「天にまします」と祈るとき、その偉大な神様の前に、今、自分が立っていることを覚えましょう。

## ②「われらの」とは

天の父は私だけの父ではありません。イエス様を信じるすべての人の父です。主の祈りはそのような神の家族（共同体）としての祈りです。この教会の人たちだけでなく、全世界の兄弟姉妹が共に祈る祈りです。

## ③神を「父」と呼ぶことができる恵み

皆さんは放蕩息子のお話を覚えていますか。自分の好き放題をして父の財産を使い果たしてしまった息子。「もうあなたの子と呼ばれる資格はありません」という息子。

これは私たちのことです。初めての人アダムが神様に背いたことによって、人は神様の子どもとしての資格を失いました。

神の御子であるイエス様だけが、神を父と呼ぶことのできるただ一人のお方です。このイエス様によって私たちの罪がゆるされ、もう一度、神の子とされる道が開かれました。それゆえに私たちはイエス様と共に、われらの父よと呼ぶことができるのです。イエス様は、私たちに「父よ」と呼ぶことを教えてくださっただけでなく、「父よ」と呼ぶことができるために、ご自分の命を与えてくださったのです。

## ④聖霊によって父と呼ぶ

祈りは私たちの力で祈るものではありません。神様が聖霊をお送りくださり、神を「アッパ、父よ」と呼ぶことができるようにしてくださいます。「アッパ」とは主イエスが、信頼を込めて、神を「わたしのお父さん」と呼ばれたアラム語です。聖霊によって私たちにも同じように「お父さん」と呼ぶものとされるのです。

## 〈ワーク〉

(1) あなたは祈るとき、神様にどんな呼びかけ方をしたことがありますか。今まで呼びかけたことのある言葉を書いてみましょう。

(2) 「天にましますわれらの父よ」と呼びかけるとき、あなたがその名を呼ぼうとしている神様は、どのようなお方だと思えますか。

## 【目標】

「天の父よ」と祈れることの恵みを知る。

## ①説教を深めるために

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

## ②あらためて御言葉に取り組む

→主の祈りをあらためて生徒と祈る。

## 【ポイント】

「神よ」と祈るのではなく「父よ」と祈れることは恵みである。「父よ」という呼び掛けによって私たちは、神の御子イエスにしか入り込めない、父子という神様との間合いに入ることができる。それは私たち力によるのではない。主イエスが主の祈りを祈るようにと招いて、その父子の間合いに引っ張り込んでくださることによって、私たちにその資格が与えられた。「父よ」と祈る時、私たちは御子イエスと同じ、文字通り神様を父とする子供である。この時私たちは孤児ではない。父であられる神様は、実の父親として、子である私たちの祈りを、責任を持って、父の優しさをもって聞いてくださるのである。その恵みを伝え

たい。

## ③生徒と一緒に考える

→まず教師自身が「父よ」と祈ることの中で受けている恵みについて、生徒と分かち合う。

Q. お父さん以外に父と呼べる存在があることを知っていましたか？

Q. 祈りを捧げる「父」とはどこにおられる父ですか？

Q. それは誰の父ですか？

Q. 疑問は解けましたか？

## ④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く

Q. 父なる神様に実の子供として見られていることは、支えになりますか？

Q. 天の父にお祈りしたいことはありますか？  
→祈りの中で、神様のことを「父」、「お父さん」と呼んでみましょう。

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

## テキスト ダニエル書6章

この6章1節に登場するメディア人ダレイオスが世界史に該当する人物として見たらず、ダニエル書自体の著作年代をギリシャ時代として紀元前3世紀頃と遅くする説もあるが、ここでは紀元前6世紀の捕囚期に異国の異教の下に生きたユダヤの捕囚民として理解する。このダニエルなる人物は、預言者エゼキエルのような教職ではなく信徒として、異国の政治の中枢部において政府高官という要職についていた。彼がその生涯を通して仕えたバビロニア新王国も続くベルシャ王国も共に官僚制国家であって、そのため出世をめぐる策略や陰謀は後を絶たず、外国人であり占領民の一人であったダニエルへの風当たりは相当強いものがあつた。

## 〈信仰の自由への禁令の発布〉

ダニエルに再び試練が臨むところから始まる。その試練とは、「王様を差し置いて他の人間や神に願い事をすることを禁ずる」、という信仰の自由への甚だしい抑圧、禁止の条例の制定であつた(8)。これは、3章に出てくる皇帝礼拝より一段と更に進んだ、より厳しい信仰の試練である。何故なら、皇帝礼拝は、まさしく偶像礼拝であり、それに対して信仰の自由をもって抵抗する余地のあるものであるが、この6章の信仰の自由自体の禁止はそれすらも許さないものであるからである。30日間という期限付きではあるが、しかし良心の自由の圧迫、良心の自由の抹殺とも言える性質のものである。捕囚民の一人であり、しかも王様に近く仕える臣民という立場からすると、この度の禁令は、まことに大いなる信仰の試練、彼にとって最大の試練ではなかつたか。

## 〈いつも通りの礼拝の実行〉

この王認定の禁令が発布されたのを知りながら、ダニエルはいつものようにイスラエルの神への礼拝を決して止めようとはせず普段通りに実行した(11節)。信仰を守るとは、ただ神を心の内で崇め

るだけでなく、これを公に言い表す信仰の告白を含むことを示される。いや普段に増してダニエルは、この時こそ神に祈らなければならないことを痛感していたに違いない。一体彼がどんな祈りをささげていたのか、「エルサレムに向かって」とあるところから恐らく深い罪の悔い改めの祈りではなかつたか。結局バビロン捕囚というのは、イスラエルの偶像礼拝に対する真の神の激しい怒りと憤りともたらされた神の民への厳しい裁きであつたからであり、それへの回復はただ真の神を一筋に礼拝する以外にはなかつたからである。たとえ異国に身を置いていてもダニエルは、神の民としてイスラエルの神以外のものを神として拝むことは出来なかつたのである。

## 〈真の神への信頼と服従〉

このようにひたすらイスラエルの神にのみより頼むダニエルの信仰の自由の戦い・抵抗は、彼の敵にとってまさしく思う壺であつた。早速彼らは禁令を犯した刑罰の執行に取りかかり、ダニエルはライオンの洞窟に投げ込まれるが、神は彼をライオンの牙から守られ、却ってダニエルを陥れようとした敵はライオンの洞窟に投ぜられ牙にかみ砕かれてしまった。これは、まさしく神の奇跡によるものであるが、大切なことは、ダニエルの神への深い信頼と服従の姿勢にこそある。結局ダニエルを深く信頼していた王ですらダニエルを助け出すことは出来なかつたのである。ダニエルは、もちろん王様と王国の繁栄を願って誠実に仕えていたが、本当の信頼、本当の望みは、ただ真の神にのみ置いていた。そのお方へのひたすらな信仰が、信仰の自由の禁止という最大の信仰の試練の折り、いつものように神への礼拝、神への祈りへと向かわしめたのである。神ご自身の栄光が現されること、そして神のご主権が私たち自身の服従をもって正しく告白されていくように、神の憐れみと助けと導きとを真の神にこそ求めていきたい。

(山下朋彦)

---

## 2月5日 「御名をあげさせたまえ」 カテキズム研究

---

カテキズム 子どもカテキズム問79

---

### 子どもカテキズム

問79 「御名をあげさせたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 私たちの神さまのすばらしさが、

私たちから、そしてすべての人からもほめたたえられ、

すべてのものがただ神の栄光をあらわすために用いられるようにしてください、

ということです。

証換聖句 ローマ11：33、詩115：1-2

参考教理問答 『ハイデルベルク』122、『ウ小教理』101、『ウ大教理』190

「御名をあげさせたまえ」は、主の祈りの第一の祈願です。

「御名」とは、父なる神の名です。名前は、その持ち主の人格と実体を表わしています。ですから「神の名」とは、神ご自身を表わし、神そのものです。神の御名を崇めるとは、神ご自身を崇める、つまり神を賛美する、ほめたたえる、礼拝することです。「崇める」とは、「大きくする」ということです。全能なる大いなる神を畏敬と崇敬の念をもって、神を神として信じ、神の力とすべてに全幅の信頼と信仰をもって、神のみに栄光を帰することができるように、と祈ることです。

さらに、「崇める」とは、「聖とする」ということです。神が聖とされるようにと祈るのです。神の聖さは私達人間によってもたらされるのではなく、神はご自身で聖いお方です。私達は、「御名を崇めさせ給え」と祈ることを通して、全能にして聖なる神を、神として信じ、栄光を帰し、敬虔と畏れをもって褒め称えることができるようにと願い求めるのです。ややもすると、私達は、神に栄光を帰すどころか、日常生活のすべてにおいて、思いと言葉と行いにおいて、神の御名を汚してい

ます。神を神として信じ、崇めていないのです。むしろ、自分自身を崇めています。「キリストの十字架に敵対して歩んでいる者が多いのです。彼らの行き着くところは滅びです。彼らは腹を神とし、恥ずべきものを誇りとし、この世のことしか考えていません。」(フィリピ3：18-19)

神の名を正しく崇めることは、私たちににとって簡単なことではありません。私たちが神を正しく崇めることができるのは、神が私達の汚れを取り去って下さって、私達の思いと言葉と行いの全てを清めて下さるからです。

自分自身を神の前に小さくし、神を大きくして、真の神を神とし、崇めることこそ、私達の祈りの出発点であり、中心です。私達人間の究極の目標は、神の栄光をあらわし、神を永遠に喜ぶことにあります。私達は、この祈りを通して、神を正しく礼拝し、自らを神のご用のために用いて下さい、との献身の祈りをささげるのです。

さらに、この祈りは、私達個々人の祈りだけではありません。他の人々も、私たちを通して神を知り、神を崇めることができるようになって欲しいという祈りでもあるのです。(久保浩文)



---

## 2月5日 「御名をあげめさせたまえ」 説教展開例

---

テキスト     ダニエル書6章  
カテキズム   子どもカテキズム問79

---

### 〔単元のねらい〕

第一祈願、「御名をあげめさせたまえ」には、私どもの信仰のまさに土台、中心が提示されています。私どもの信仰は、「ここに尽きる」と言い切っても構わないのです。「ただ神の栄光のために!」、「Soli (ソリ) Deo (デオ) Gloria (グロリア)!」こそ、私どもの人生の目的なのです。主イエスは、それを最初の祈りのなかでお教えてくださいました。主イエス御自身の生涯は、この祈りの成就でありました。与えられたテキストは、ライオンから守られたダニエルの物語です。神の栄光を求めて生きる人間、主の祈りに生きる神の民の実例となります。祈りは必ず聴かれていることをも鮮やかに物語りたいと思います。

---

## 「ダニエルさん、御名をあげるってどういうこと？」

---

今日は、主の祈りの一番最初のお祈りを学びます。「御名をあげめさせたまえ」です。これはどんな意味があるのでしょうか。そのことを今読んだ、ダニエルさんの物語から教えてもらいたいと思います。

ダニエルさんが生まれたのは、イスラエルの南の国、南ユダ王国がバビロンによって滅ぼされてしまったときの頃です。ネブカドネツアル王は、イスラエルの人たちのなかから、自分たちの役に立つ少年たちを選んで、奴隷としました。その中の一人がダニエルさんです。ダニエルは、まことの神さまを信じていました。神さまから知恵を与えられ、国中のなかで一番王様に頼られる人に成長しました。そして、遂に、王国全体の総理大臣のような立場につきました。

ところが、あわててしまったのは、他の大臣たちです。イスラエルの神を信じているようなダニエルなどを総理大臣にしたら自分たちの立場がなくなってしまうと考えました。なんとか、ダニエルをおとしめようと考えたのです。そこで、このように考えました。「そうだ、ダニエルはいつも神さまにお祈りしているから、そのお祈りのことで、畏にかけよう。30日の間、王様をさしおいて他の人間や神に願うことをする者は、ライオン

の洞窟に投げ込まれることにしよう。」ダレイオス王様は、この法律に署名してしまいました。

これは、大変なことになってしまいました。皆だったら、どうしますか。「30日間だけなら、ちょっとがまんしてお祈りしないですまそう。」そんな風に考えるお友達はいませんか。先生も、そう言われると、「そうかもなあ、一ヶ月経ったら、お祈りすればいいんだし、神さまだってそれくらいゆるしてくださるんじゃないかなあ。なんだかその方が、大人っぽいやうな、利口そうだなあ。」なんて心が動いてしまいます。それなら、ダニエルさんはどうしたのですか。ダニエルは、家に帰るといつもの通り二階の部屋に上がり、窓際にひざまづいて賛美とお祈りを捧げました。その法律を破ったのです。

役人たちは、そっと隠れるようにして見張っていました。ところが、ダニエルさんは、堂々とお祈りしてしまっただけです。先生は、今、「お祈りしちゃった」と言いました。皆はどう思いますか。「ダニエルさん、窓際でお祈りしたらばれちゃうよ。お部屋の隅っこでお祈りしたら良いのに。」とアドヴァイスしてあげるお友達はいませんか。先生も、なんだか、そう言われると、「30日間お祈りするんだったら、誰も見ていないことをしっかり

確認して、おトイレの中とか、布団のなかとか、声に出さないで、お祈りすれば、なんてことはないのになぁ」なんて考えてしまいます。

でも、それを見ていた役人たちはびっくりしたと思います。まさか、こんなにあけびろげに賛美を歌い、お祈りを、しかも声に出してするなんて、探偵さんのように隠れる必要もなかったと思ったかもしれません。

さあ、このことを役人たちは勝ち誇ったように、やったぞというように、王様に報告しました。王様の決められた法律は、絶対です。でも、王様は悩みました。ダニエルは、すばらしい人で、自分の政治には、どうしても必要な人だと考えていたからです。けれども、もうとりかえしがつきません。自分の法律どおり、ダニエルは、ライオンの洞窟のなかに入れられてしまいました。

次の日朝早く、王様は、ライオンのいる洞窟へ行きました。そして、大きな声で言いました。「ダニエル、ダニエル、お前がいつも拜んでいる神さまはライオンから救ってくれたのかぁ」するとどうでしょう。元気ないつもの声が聞こえてきました。「王様、ありがとうございます。神さまは天使を送って、ライオンが噛み付かないようにしてくださいました。神さまに対して、わたしのしたことは受け入れられたのです。王様、わたしは、王様に対しても、背いたことはありませんが……」

ダレイオス王様は、大喜びで、ダニエルを洞窟から引き出させました。どこをどう見ても、ダニエルさんの体は傷一つありませんでした。そこで、王様は、新しい命令を出して、こんなことをたくらんだ者たちを、洞窟に投げ込ませたのです。するとどうでしょう。あっという間に、ライオンは彼らを食べてしまいました。次に、王様は、あたらしい法律を定められました。それは、「バビロンの国の人々は、ダニエルの神さま、まことの神さまを恐れかしまなければならぬ」という夢

のようにすばらしい法律でした。

先生はこんな風に考えました。役人たちは、30日の間、ダニエルがお祈りしなければ、神さまから知恵ももらえなくなってしまうだろうから、その間に、ダニエルをやっつけられる、だから、30日間という期間をつくったのだと思います。それほど、ダニエルがすばらしい活躍ができるその秘訣は、お祈りにあると考えていたのでしょうか。それは、まったくあたっています。ダニエルには、神さまと一緒にいてくださるから、自分たちではかなわないのだとおそれていたのだと思います。

ところが、役人たちはもっと驚いたのだと思います。「まさか、ダニエルがあけびろげにお祈りするなんて、願ってもない愚かなことをダニエルはやってくれた。俺たちの勝利だ、俺たちの方が賢いんだ。」

しかし、ダニエルは愚か者ではありません。自分の知恵に頼らず、神さまの栄光を求めたのです。「自分の偉さ、賢さ、大臣という立場、自分が活躍できているのは、神さまのおかげなのだ。だから、賛美とお祈りをやめて神さまの栄光を横取りなんてできない。神さまを信頼して、すべてをゆだねて生きるのだ。神さまのお名前がほめられたえられるようにと、これからも生きてゆくのだ」こうして、ダニエルは神さまの御名を賛美し、崇めることによって、勝利したのです。

「御名をあがめさせたまえ。」これは、神さまを第一にし、神さまを信頼する僕たち私たちにとって一番大切なお祈りです。ダニエルさんが神さまを第一にしたとき、ダニエルさんは、どうになりましたか。神さまのお役に立ち、自分もまた、うれしくなって生きていったのです。ダニエルさんの信仰が僕たち私たちにも与えられるために、お祈りしましょう。  
(相馬伸郎)

---

[今週の暗唱聖句]      ダニエル書6章11節後半

ダニエルは、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。

---

## 〈ねらい〉

神様のすばらしさを語り合おう。

## 〈展開例〉

朝起きたら雪がいっぱい積もっていた、ということなかった？ 「なんて真っ白でフワフワしていてきれいなんだろう」と嬉しくなります。夕方、空が火事になったようにまっかな夕焼けを見たことあるでしょう？ 白い雪もきれいな夕焼けも全部神様がお造りになったんだなあと思うと先生は嬉しくなります。そんなすごい神様の子供になれて良かったなあと思います。“かみさま、すごいね！” って言いたくなります。自分もお家の人も

おじいちゃんおばあちゃんもお友達も幼稚園の先生もみんなが“神様ってすごいね、神様ありがとう”と言えますように、というのが主の祈りの一番最初にあるお祈りです。みんなで言ってみましょう。「ねがわくは、みなをあげさせたまえ」。

## 〈おいのり〉

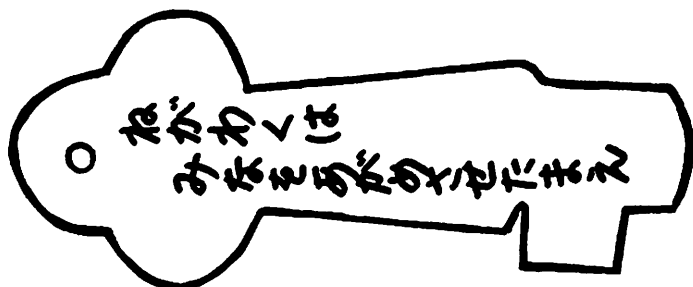
素晴らしい天の父なるかみさま、神様の素晴らしいことがもっともっと分かりますように。神様って素晴らしいことをお友達に教えて上げられますように。イエスさまのお名前によって。アーメン。

## 〈やってみよう〉

127ページを参照して準備しましょう。

先週に引き続き、2枚目のカギカードを渡す。「カギカード」を飾るために、ペン、色紙、シールなど、いろいろな素材を準備してください。

先週と今週の祈りを見ないでも言えるように。裏返しにしたりして暗唱してみよう。



〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ①王様以外の人間や神にお祈りをする者はどうなるという法律ができた？（→獅子の洞窟に投げ込まれる）
- ②ダニエルはお祈りをするのをやめた？（→いつものおりにお祈りした）
- ③どこに向かって、何度？（→エルサレムに向かって、日に三度）
- ④獅子の洞窟に入れられたダニエルはどうなった？（→何の危害も受けなかった）
- ⑤ダニエルが無事だったのはどうして？（→神さまを信頼していたから）

〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

- ①これは主の祈りの何番目のお願い？（→一番目）
- ②御名とは誰の名前？（→神さま）
- ③神さまの名前をあげめるとは神さまご自身をあげめるとは違うこと？（→同じこと）
- ④あげめるとはどういうこと？（→神さまのすばらしさをほめたたえること）
- ⑤他には？（→神さまの栄光があらわされるようにすること）

〈考えてみよう〉

獅子の洞窟に入れられてしまうのに、お祈りをやめなかったダニエルはどんな気持ちだったのでしょうか。恐くなかったのでしょうか。神さまを信頼していたから安心していただけではないかと思えます。むしろ王様の方がそわそわしている様子がとてもおもしろく描かれています。もし、明日から教会学校に行ってはいけないという法律ができたらどうしますか。法律はできなくても、教会学校に行ってはいけないと誰かに言われたらどうしますか。ダニエルが、いつもと同じようにお祈りしたように、私たちもいつもと同じように教会学校でお祈りできるでしょうか。大切なことは、自由にお祈りできることから、心から神さまを信頼してお祈りしておくことでしょう。

〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。あなたのお名前があげられますように。どんなときも、神さまを信じ、信頼して、お祈りすることができますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



〈学びのポイント〉

なぜ「御名をあげめさせたまえ」という祈りが一番最初にくるのか。

〈展開例〉

①神の御名とは

どんなものにも名前がつけられています。名前はそのものの性質や特徴をあらわします。神様の御名は、神様がどういうお方であるのかをあらわしています。御名をあげめるとは神様ご自身をあげめるといことです。

②あげめるとは

あげめるとは礼拝することです。神様をほめたたえ、賛美することです。神様がほめたたえられますように、聖なる神様の御名が汚されることがありませんようにと祈るのです。

③あげめることのできない人間

神様を知らない人に、好きなことをお祈りしてみてくださいといったら、どんなことを祈ると思いますか。自分の今一番欲しいものを求めたり、自分の願い事ばかりするのではないのでしょうか。私たちは自分がほめられること、自分が得することが大好きです。罪を犯した私たちは、神様をほめたたえないで、自分をほめたたえるようになってしまいました。

④なぜ最初にこう祈るのか

罪を犯した私たちは、神様に近づき、礼拝する資格のないものです。聖なる神様の御前に立つとき、私たちがどんなに汚れているのが、はっきりと見えてきます。そんな私たちの罪がイエスさまによってゆるされ、神様を礼拝することができるものとされました。ですから、まず神様をあげめるとされたことを感謝してこう祈るのです。さらに、ますます神様をあげめるものになりたいという思いで「御名をあげめさせたまえ」と祈るのです。自分の願いではなく、神様への不平ではなく、神様をほめたたえ、礼拝することができます。

すようにという祈りは、祈りの最初に最もふさわしい願いなのです。

⑤自分の言葉で祈るときは……

自分でお祈りするときも、まず神様の御名をほめたたえましょう。

「あなたの聖なる名前をほめたたえます」

「御名を賛美します」

「あなたの全能の御名をあげめます」など

〈暗号を解読しよう〉

(1) 神の御名をあげめるとはということ？

暗号文 「まをみのらわ さほかえあす  
みめえいをこ かたたこうと」

ヒント……右から4行に分けて書き、左上から横にジグザクに読んでみてね。

か	み	さ	ま
た	め	ほ	を
た	え	か	み
こ	い	え	の
う	を	あ	ら
と	こ	す	わ

答え→かみさまをほめたたえ  
かみのえいこうをあらわすこと

(2) 次の数字はなんということばですか。

暗号文「2A 7B 5E 1D 1B 2E 1C」

下の表をヒントに解読してください。

	A	B	C	D	E
1	あ	い	う	え	お
2	か	き	く	け	こ
3	さ	し	す	せ	そ
4	た	ち	つ	て	と
5	な	に	ぬ	ね	の
6	は	ひ	ふ	へ	ほ
7	ま	み	む	め	も
8	や		ゆ		よ

答え→かみのえいこう

## 【目標】

「御名をあげめること」の恵みと意味を知る。

## ①説教を深めるために

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

## ②あらためて御言葉に取り組む

→主の祈りをあらためて生徒と祈る。

## 【ポイント】

聖書は名前と人格を強く結び付けているが、私たちの今の現実では、名前の匿名化が進み、それと共に人間個人の人格も軽く見られ、人間の非人格化が加速しているように思われる。たとえば戦争とはそのような人間の非人格化の極みであるかもしれない。しかし神様は、匿名の神として、私たちの前に立たれるお方ではなく、名前によって限定されることのない超越者であられるにも関わらず、御自身を隠すことなく示してください、御自身から名乗り出してください、私たちの名前を神は呼んでください、そして唯一なる御自身の神の御名を、私たちに呼ばせてくださっている。ペトロは聖霊降臨日の説教で語った。「私たちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」父なる神の御名以外によっては決して救われない。どんな有名人であっても、どんなに力の強い権力者であっても、

人は自分の名前の偉大さによっては、自分の名をあげめることによっては救われない。私たちの救いは、ただ父なる神の御名の偉大さに拠っている。ダニエルのように御名をあげめる祈りに生きることが、私たちにとっての力、救い、祝福である。

## ③生徒と一緒に考える

→まず教師自身が「御名をあげめさせたまえ」と祈ることの中で受けている恵みについて、生徒と分かち合う。

Q. 「あげめる」とありますが、これは具体的にどのようにすることなのでしょうか？

Q. これは「御名をあげめさせてください」という祈りですが、御名ではない名前をあげめるということも起きるのでしょうか？ 具体的にはどういうことでしょうか？

Q. 疑問は解けましたか？

## ④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く

Q. 私たちが今週具体的にすることのできる御名をあげめる歩みとは、どんな歩みでしょうか？

Q. 「御名をあげめさせてください」と祈るとき、どんな気持ちになりますか？

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト フィリピの信徒への手紙3章20節

使徒パウロは、キリストの福音に敵対している者（キリストの十字架を否定する者）の正体がどういふものであり、彼らの末路がいかなるところかを語った後、それらと対比させてキリスト者とはどういう者か、そしてその望みとするのが何なのかを明白にする。即ち、キリストの福音に敵対する者とは、己が腹を神としこの世を全てとする者のことであり、彼らはキリストの十字架を否定するが故にその行く末は永遠の滅びでしかない。けれどもキリスト者は、天に国籍を持つ者であり、それ故その望みとするのはキリストの再臨に他ならないことを述べていく。

#### 〈天に国籍を持つ者〉

20節で「国籍」と訳されている言葉は、「本国」「故郷」という意味の言葉で、もっと明白にすると「母国」とも言い換えられる。パウロがこの手紙を書き送ったフィリピの町は、元々ローマの退役軍人が入植し、開拓して発展した植民都市の一つで、ローマ風の町造りがなされ、又ローマをこそ自分たちの母国とし誇りとしていた。それに倣って、パウロは私たちキリスト者は、この地上に置かれてはいるが、その母国は神のおられる天の御国にこそあることを主張する。つまり私たちは、そこで霊的に生まれたのであり、そこを再び戻っていくべき故郷とする者なのである。従って私たちは、決してこの世をこの地上を土台として生きている者ではなく、むしろ天を仰ぐ者、神に何よりも望みを置く者であり、再び神のみ元へと召される時まで地上にあって寄留者として慎み深く生きる者である。

#### 〈天におられるキリスト〉

この天を母国とするのは、決して単なるあこがれでも郷愁の故でもない。そうではなくそこにキリストがおられるからである。キリストこそ、天の御国の王であり、中心のお方である。かつて地上におられたキリストは、その救いのみ業を成し

遂げ天に上げられ、今は父なる神の右に座して、私たちの為に日夜執り成して下さっている。確かに霊においてはどこにでもおられるが、キリストの身体は天にあられる。宗教改革者カルヴァンは、キリストとの結びつきの故に、私たちクリスチャンはキリストのおられる天にこそ目を上げ、心を寄せねばならず、又そうあるはずだと訴える。キリストこそ寝ても覚めても忘れ得ぬお方であり、私たちのとっての唯一の慰めとは、そのお方いつも共にあることだからである。聖書に、宝のあるところに心もあるとあるが、私たちが何に心を向けているか、置いているかは、その生き方や歩みに当然反映され、規定するものとなる。

#### 〈再臨のキリストを待ち望む〉

使徒パウロは、今キリストが天におられるだけでなく、やがて天の御国から私たちのところへとおいでになられる再臨の約束に目を留めるように勧める。「待ち望む」というのは、「忍耐して待ち望む」ことであり、もっと言えば「喜びつつ待ち望む」姿勢・あり方をさす言葉である。まさに今や遅しと望みにあふれ、喜びつつキリストの再臨を私たちは待ち望むことが許されているのである。丁度、新妻が夫の帰宅を待ち望むように、子どもが明日のピクニックを楽しみにして待つように、私たちはキリストの再来を待ち望む約束が与えられている。

何故待ち望むのか、それは神の救いの完成はただ上から天から来るからである。いやすでに天においては神の救いは完成しているのであり、その完成された神の国がこの地上に降りてくること、実現することを待ち望むのが私たち教会の祈りであり、教会に連なるクリスチャンの切なる祈りだからである。イエス・キリストと顔と顔を合せてお会い出来ることを心待ちにする生き方こそが、本当に私たちの地上の歩みを支え生かすものである。

（山下朋彦）

## 2月12日 「御国を来たせたまえ」 カテキズム研究

カテキズム 子どもカテキズム問80

### 子どもカテキズム

問80 「御国を来たせたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 神様の恵みの支配が、

教会の中で確立され、教会を通して広げられ、

ついに、イエスキリストが再び来て完成してください、ということです。

証文聖句 ヨハネ18:36、ペトロ3:13、ローマ16:20

参考教理問答 『ハイデルベルク』123、『ウ小教理』102、『ウ大教理』191

主の祈りの第二の祈願は「御国を来たせたまえ」です。御国とは、「神の国」、天国です。霊的な国です。神が統治者として、王として支配される国です。しかも、神が自由に、御心に従って支配される国です。神の支配は、サタンの支配さえも、その御手の内に治めておられます。(ヨブ記1章)

しかし、私たちが今現実に生きている世界は、およそ神が支配されている世界とはかけ離れて見えるのも事実です。様々な技術革新、産業発展による環境破壊、世界の各地に起こる内戦、さらには、それに付随する人間破壊など、まっしぐらに世紀末、破滅に向かって歩んでいるように思えます。私達人間の目からして、このような世界にあって果たして神が生きて働いておられるのであろうか、と思えます。様々な恐怖、不安が私たちに脅かします。

神の国は、かつて、イスラエルの民がイエスキリストに期待したように、この地上に「イスラエルのために国を建て直す」ことではありません。イエスは、「わたしの国は、この世には属していない。」(ヨハネ18:36)とされました。

私達が「御国を来たせたまえ」と祈ることは、私達を包んでいる暗闇の支配から解放し、自由にして下さい、と祈ることです。それは、私達を取り巻く環境、世界だけでなく、私達の心と魂と肉体をも神の御心に従って支配されることを願うこ

とです。神の支配は、現実に具体的に私達の日常生活の隅々にまで及ぶのです。神の国は、将来完成するものですが、イエスは、「時は満ち、神の国は近づいた」(マルコ1:15)とされました。また、「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」(ルカ17:20-21)とも言われました。私達は神の国、神の支配の中におかれているのです。様々な罪、自我、欲望に支配され、神に敵対していた私達を、神がイエスキリストを通して解放し、自由にし、ご自分のご支配の下において下さったのです。神の国は、私達が神の御言、ご意志に喜んで傾聴し、従って行くところに実現し、確立していくのです。

神の国はまた、教会の福音宣教の業を通して広がっていきます。私達の福音宣教、伝道の働きによって御言の種が蒔かれ、芽吹いて、イエスキリストを信じ、従っていく人が増えていくことによって、神の国は徐々に完成に向けて進展していくのです。ですから、私達がこの祈りをささげる時に、終末に完成する神の御国、キリストの再臨の時に実現する神の完全な支配を期待しつつ、すでにその途上にあることを仰ぎ見ながら過ごすのです。

マラナ・タ (主よ、来てください)、アーメン。

(久保浩文)



テキスト フィリピの信徒への手紙3章20節  
カテキズム 子どもカテキズム問80

### 〔単元のねらい〕

やがて、主は再び来たりたもうて御国を完成させて下さいます。その日を仰ぎ望みながら、今、この世に執り成し祈る者として違わされていることを覚えたい。「御国を来せたまえ」。この祈りの言葉に力がこもること、それが今回のねらいです。

## 「主イエスよ、来て下さい」

今日は、主の祈りの第二の求めについて学んで行きましょう。主イエス様は、第二の求めとして「御国を来せたまえ」と祈り願うよう、私たちに教えて下さいました。

では、まず御国とは何でしょうか。

そこで質問です。御国には、この国を治める素晴らしい王様がおられます。それは誰でしょうか？ そう、死よりよみがえられたイエス様がそのお方です。ですから、御国とは、王であるイエス様が治めておられる所、イエス様の力と恵みが完全に隅々にまで行き渡っている所であるのです。

丁度、瑞々しいグレープフルーツをサクッと切った時のようです。甘酸っぱい良い香りで、部屋中一杯になります。その様に、イエス様の祝福が満ち満ちている所、そこが御国です。

ですから、この第二の求めは、一言で言い換えるのならば「イエス様、来て下さい」という求めであるのです。

では、どこに来て下さるよう願うのでしょうか。それは、この地上にということです。

なるほど、この世界は神様によって造られ、今も御手によって支えられ導かれています。万物を治めておられるのは神様です。しかし、私たちの住んでいるこの地上は祝福に満ちた御国とは違います。なぜなら、この地上には争いや憎みがあり、また、イエス様を知らず、それ故まことの平安を知らずにいる人が、まだ大勢いるからです。そこで祈るのです。主イエス様、私たちが住むこの暗き地上に、御力と恵みを持って、どうぞ、来

て下さいと。

ここで、中国の一人のクリスチャン、伝道者として主に仕えている兄弟の証しを紹介したいと思います。その証しは、御国が地上に来るとはこういうことなんだと、教えてくれる証しであるからです。実は現在、お隣の中国では大変な勢いで主の福音が広がっているのです。政府当局者たちからの厳しい弾圧と迫害を受けながらも、多くの人たちが、喜びに溢れて主の御もとに立ち返っているのです。中国の一人の伝道者である彼は、ある日、聖書配布と福音を宣べ伝えたことの故に警察に逮捕され、刑務所に入れられてしまいました。以下は、その証しからの引用です。

「その刑務所には、すでに13人が服役していました。彼らは一日中箱の糊付けと組み立て作業をし、一人一日200個作ることがノルマとなっていました。そして、守れない者には体罰が加えられました。私が入られたその日も、数名の守衛が一人の囚人を殴っていました。

さて、囚人たちは早速聞いてきました。『お前は何をしてここに連れて来られたんだ？』。私が『クリスチャンだからです』と答えると、『クリスチャン？ それなら歌が歌えるはずだ。一曲歌ってみろ』と言いました。そこで私は、たとえ獄中にあっても喜んでいるといった内容の讃美をしました。次に、『祈ってみろ』と言ってきたので、『祈る時にはひざまずくものです』と答えました。すると、そこにいた守衛と囚人たち全員が、私と

一緒にひざまずいたのです。私は大きな声で折り始めました。『イエス様、この刑務所で兄弟たちに出会う機会を与えて下さり有難うございます。あなたは、重荷を負った者を休ませて下さると約束して下さいました……』。

私の祈りは1時間ほど続き、聞いていた者たちは泣き出していました。その中の一人に『イエス様は俺たちも救ってくれるのか?』と聞かれたので、『もちろん。イエス様はどんな魂をも救って下さいます』と答えました。するとその時、なんと刑務所の責任者が『皆でイエス様を信じよう!』と声を上げたのです。

それから囚人同士でけんかが始まると、私が仲裁に入り、御言葉を伝えるようになりました。私が刑務所に入った週の週末までに、全員がイエス様を受け入れたのです。刑務所の責任者がクリスチャンになったことで、体罰も最小限に抑えられるようになりました。囚人たちが私を敬うようになったので『すべてはイエス様がして下さったことであり、私がしたではありません』と説明しました。

ついに釈放される日がやってきました。私は自分が持っていたすべての物を、刑務所の兄弟たちのために残し、彼らのために祈りました。そして、全員で涙を流して別れを惜しみました。彼らがクリスチャンとして生まれ変わったことをとても喜んでます。」(1998年9月、新生宣教団からの手紙より)

場所は相変わらず刑務所の中です。しかし、一人の伝道者を通して、主イエス様が豊かに来て下さった時、その場所は全く変えられたのです。のしり合う言葉が変わって、主をたたえる歌声が広がったのです。互いに傷付け合っていた一人一人が、自分と隣人を愛する者に、そして、涙を流して別れを惜しむ仲間に変えられたのです。

ですから、主イエス様は私たちに祈るように命じておられるのです「御国を来らせたまえ」と。

確かに、人には出来ません。しかし、この刑務所で現して下さったように、主は人を喜び生きる者に変えることが出来るお方です。祈り求める御国に場所的な限定はありません。私たちのこの国に、この町に、私の通う小学校に、私の家庭に、そして、私の心に、主よ、来て下さい!と祈ることを主は私たちに求めておられるのです。

最後に、この御国を求める祈りの言葉が決して空しく終わらないことを覚えましょう。なぜなら、イエス様は、からし種のたとえを用いて、こう教えておられるからです。

「更に、イエスは言われた。『神の国(御国)を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。』(マルコ4:30-32)。

このたとえをもって、イエス様は御国の大いなる進展を約束しておられます。ですから、御国を求める祈りは空しく終わらないのです。

こんなに小さな僕らでは、何にもならないよ、と言ってはなりません。吹けば飛んでしまう小さなからし種は、やがて芽を出し、成長するとどんな野菜よりも大きくなるのですから。

やがて、私たちの日本の国にも、私たちを用いて、福音の大いなる前進の御業を、主はきっと現して下さいます。御国を来たらして下さいます。その時、どんなに望みなき場所も、希望と喜びと主をたたえる讃美の歌声で溢れるのです。ですから、心を合わせて祈りましょう。「主よ、御国を来らせたまえ」と。(小野田雄二)

---

[今週の暗唱聖句] マルコによる福音書4章30～32節

更に、イエスは言われた。

「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。

それは、からし種のようなものである。

土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」

---

## 〈ねらい〉

“ああ極楽！”などと言う大人の言葉を聞く社会の中にあつて、み国の概念と再臨の希望を教える。

## 〈展開例〉

3歳のヒロ君はお留守番をすることになりました。ママが赤ちゃんを産むために病院に入院したからです。もちろん一人でお留守番は出来ないのでおばあちゃんがきました。“少しの間ママのかわりね”とおばあちゃんは言いました。おばあちゃんが来てくれて一人ぼっちにならなくて良かったけど、やっぱり淋しいな、とヒロ君は思いました。ママがお家に帰ってきたときはとっても嬉しい！ と思いました。おばあちゃんとママは

やっぱりちがうなと思いました。お家にママがいると安心するように、神様が世界を守っていて下さることがよくわかり、みんなが神様のことが大好きになれるといいですね。天国へ帰られたイエスさまがもう一度私達の所へ来ます、と約束されました。その時はヒロ君のママが病院から帰ってきたときより何倍も安心して楽しい完全な神様の国になります。たのしみだなあ!!

## 〈おいのり〉

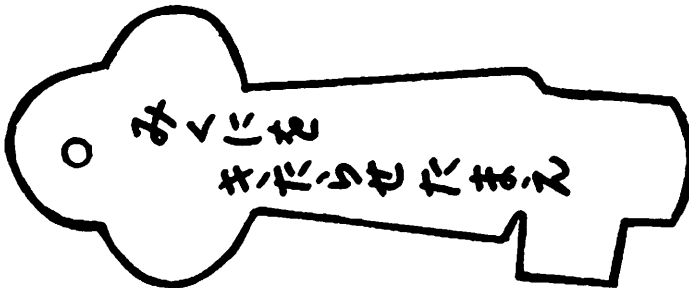
天の父なる神様、み国をきたせたまえ、というお祈りを教えて下さってありがとうございます。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

## 〈やってみよう〉

127ページを参照して準備しましょう。

今まで休んでいた子や初めて来た子にも今までのカードやリングをあげましょう。

カードを飾ることに興味の無い子には少し手伝ってあげましょう。



## 〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ① イエスさまの十字架を信じないで敵対している人がある？ (→多くいる)
- ② その人たちはどこに行き着く？ (→滅び)
- ③ イエスさまを信じる人の本国はどこにある？ (→天)
- ④ そこには誰がいる？ (→イエスさま)
- ⑤ イエスさまはずっとそこにいる？ (→そこから再び地上に来られる)

## 〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

- ① これは主の祈りの何番目のお願い？ (→二番目)
- ② 御国とは誰が支配される国？ (→神さま)
- ③ いじわるな王様が支配するのと同じこと？ (→恵みによって支配され、私たちを守ってくださる)
- ④ その御国はどこに一番よく現れている？ (→教会)
- ⑤ 御国はいつ完成される？ (→イエスさまが再び来られるとき)

## 〈考えてみよう〉

教会に外国の人はいるでしょうか。生まれ育った国は違っても、イエスさまを信じる人はみんな神さまの御国の国民です。神さまの恵みによって支配され、守られています。日本に住む外国の人たちも教会に来ることができるようにお祈りしましょう。また、世界中にはどんな国があるか知っていますでしょうか。アメリカ、韓国、中国、もっと他にも知っているかもしれません。そして、世界には、教会がすでにたくさんある国もあるし、まだ教会がない国もあります。神さまの御国は世界中の人のための国です。世界中の国に教会という神さまの御国が広がるように祈りましょう。あるいはまた、直接そのような国に行ってイエスさまのことを伝える仕事をしてみたいと思う人はいないでしょうか。祈って考えてみましょう。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。神さまの御国に入れてくださってありがとうございます。日本中にもっとたくさん教会ができますように。そして世界中に教会ができて神さまの御国が来ますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

「御国を来たせたまえ」

第二の願いで私たちは何を求めるのか。

## 〈展開例〉

## ①御国とは

御国とは神様の国です。神様が完全に支配しておられる国です。もちろん今のこの世界も神様の御手の中にあります。けれども、この世界にはまだ罪の力、悪魔の力が働いています。イエス様は十字架で私たちの罪をほろぼしてくださいました。しかしこの世の終わりのときに悪魔が完全にほろぼされ、私たちの罪が完全に消滅されるまで神の御国は完成されません。

## ②それはどんな国？

今生きている世界には、イエス様を信じる人と信じない人がいます。イエス様を信じている私たちも、罪の誘惑に負けてしまうことがあります。

神の御国は国中の人々が、みんなイエス様を信じている国です。その国の人たちはもう、悪いことを考えたりしたりすることはありません。戦争も病気も死も、うそも環境破壊もありません。みんなが神様をほめたたえ、賛美しながら生きる国です。神の国は人間が作り出す国ではなく、神様が創り出してくださる国です。

## ③それはいつ来るの？

イエス様が再びこの世界に来てくださるときです。神の御国はイエス様がこの世に来てくださったときから始まっています。けれど、まだ完成してはいません。イエス様は御国を完成して下さるために再び来てくださると約束してくださいました。

## ④まず、自分の中に御国を求める

イエス様を信じる人は、自分の中の罪が示されると、それを悲しむようになります。イエス様が私の王となってくださり、神様に従って生きることができるようにと祈るようになります。自分

の中に神の御国がくることを祈り始めるのです。

## ⑤御国が広がっていくように求める

また自分だけでなく、神様の御わざがこの世界においてもあらわされるようにと祈ります。神様の御言葉が宣べ伝えられ、神の御国が広がっていきますようにと祈るのです。神様はこの祈りにこたえてくださり、不思議な御わざをもって悪と戦い、勝利を与えてくださいます。

## ⑥御国を待ち望んで祈りましょう

「御名をあがめさせたまえ」と祈る人が、次に御国を求める祈りをするのは自然なことです。なぜなら、御国とは御名が完全にあがめられるところだからです。この祈りは、イエス様が必ず神の国を完成して下さるという約束を思い出させます。ですから私たちは御国を待ち望みながら「御国をきたせたまえ」と祈り続けましょう。

## 〈ことばさがしゲーム〉

次の字で終わる言葉を探しましょう。

二つのチームに分かれて競争しましょう。数、または時間を競い合います。

み
く
に
を(お)
き
た
ら
せ
た
ま
え

(例) はなみ、まいく、かに、らじお、たき、ふた、くじら、くせ、かた、くるま、いえ

## 【目標】

「御国の到来」への希望を知る。

## ①説教を深めるために

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

## ②あらためて御言葉に取り組む

→主の祈りをあらためて生徒と祈る。

## 【ポイント】

「御国が来ますように」という祈りは、単なる心の中だけの夢物語でも、単なる社会運動のスローガンなのでもない。神様の国は、信仰を通して私たちの心を実現するのはもちろんのこと、キリストというお方によってこの世界の中に既に息づいていて、再び主が来られる完成の日に向かって、私たちの現実のただ中で、日々進んでいる。しかし御国とは逆に進むかのようなこの世界の現実がある。本当に御国はここに来るのだろうか？ 疑いたくなる気持ちになる。けれども神の支配にふさわしいところは、平穏な平和な世界ではなく、むしろこの世の間、罪の最も深い所に、そこにこ

そ御国は力強く来るのである。やがてまた来られる主イエスが、かつてそこを目指して来てくださったように。

## ③生徒と一緒に考える

→まず教師自身が「御国を来たせたまえ」と祈ることの中で受けている恵みについて、生徒と分かち合う。

Q. 御国はなぜ来る必要があるのでしょうか？  
御国が来なかったらどうなるのでしょうか？

Q. それは、誰の、どんな国なののでしょうか？  
その国に希望は持てますか？ それはなぜですか？

Q. 疑問は解けましたか？

## ④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く

Q. 「御国を来たせたまえ」と祈るとき、この私たちの国のどんな姿を思い浮かべますか？

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト マタイによる福音書26章36～46節

舞台はエルサレムのすぐそばのゲツセマネです。ここに主イエスは弟子たちを同行されましたが、その中から特にペトロ、ヤコブ、ヨハネの三人だけを祈りに伴われます。この三人はヤイロの娘の癒し、山上での変貌（マタイ17:1）にも特別に選ばれています。彼らは後の教会においても中心的な役割を果たしますが、この時点でも特別な主イエスの証人とされているのです。

### 〈人間である主イエス〉

しかし、これらのこと以上にこの箇所において注目したいのは、主イエスご自身の言葉として強い悲しみが表明され、弟子たちに祈りを見守るようという呼びかけがなされていることです。主イエスは弟子たちに二つのことを告げています。「死ぬばかりに悲しい」と「ここを離れず共に目を覚ましていなさい」です。この悲しみの理由は父なる神様の御心としてご自身の死を受け入れることに対する悲しみです。それは39,42節において主イエスご自身による深まり行く祈りの格闘の主題となります。このことは、主イエスがロボットではなく、人間として誘惑と戦われ死に至るまでの従順を成し遂げられた方であることを示します。一方後者について特に注目したいのは「離れず共に」という言葉です。このところを直訳しますと「留まりなさい、ここに、そして、目を覚ましていなさい、私と共に」となります。これは弟子たちにもまた、このような従順さを学ぶようにという招きとして理解できます。

### 〈眠ってしまう弟子たち〉

しかし、40節では弟子たちは眠り込んでしまっています。このところは、主イエスご自身の祈りの戦いがとても重要なのですが、それと並んで弟子たちの無理解・無関心というもう一つの事実が明らかになるところです。彼らは自分への関心は十分に持っていますが、父なる神様への関心は低いようです。そのような視点から41節の「誘惑に

陥らないよう……肉は弱い」という言葉も理解できるでしょう。彼らは主イエスのお側にいて起きていることが求められたにもかかわらず、それすら果たすことが出来ません。これは考えて見ますと不思議なことといえます。もし私たちの近くに苦しみもだえる人がいたとしたら、そのすぐ横で平然と寝ていることが出来るでしょうか。ペトロたち三人は、悲しみもだえ(37)、うつ伏せになって(39)、必死に祈り続ける主イエスの近くにしながら、そして起きているようにと言われながら眠り込んでしまうのです。結局彼らは43節にあるように「ひどく眠かった」のです。ここでの肉とは、心を含む人間存在全体と同じことですが、肉の一部としての一見信仰深く見える「燃える心」は、同じ肉からの他の強い要求の前では意味を持ちません。それは人間の肉の中での優先順位の問題となってしまいます。神様の霊を持たない彼らの限界がここで明らかになります。

### 〈弟子への招き〉

一方、主イエスは42節で祈ります。「御心が行われますように」。主イエスは父のみ心として自らの死を受け入れます。そして言われました。「わたしが飲まないかぎり」。確かに主イエス以外に父の御心を果たせる方は存在しません。主イエスの徹底したへりくだり、命をも差し出す従順によってのみ父なる神様の御心は実現するのです。こうして時が迫ったにもかかわらず、弟子たちは眠り込み休んでいます(45)。結局彼らは、主イエスを裏切り、その死に直面し、復活の主イエスに出会い赦されるまで、主の死の意味について理解できません。しかし、主イエスは彼らに「立て、行こう、見よ」と言われました。弟子たちは主イエスの証人として、先立つ主の御あとに従って先へと進んでいかなければならないのです。そのようにして御あとに従う弟子たちにはやがて神なる御霊が与えられ、存在が変えられ、死に至るまで主に従う者にされることとなります。(杉山昌樹)

## 2月19日 「御心の天になるごとく」 カテキズム研究

カテキズム 子どもカテキズム問81

### 子どもカテキズム

問81 「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 私たちが、そしてすべての人も、

自分中心のわがままな心を捨てて、神さまの御心に聴き従う者とならせてください、

私たちがなすべきわざを喜んですることができるようになってください、ということです。

証拠聖句 マタイ16:24、ルカ22:42

参考教理問答 『ウ小教理』103、『ウ大教理』192、『ハイデルベルク』124

「主の祈り」の第三の祈願では、天における御使いたちのように（詩編103:20,21等参照）私たちもこの地上の生涯において、また日々の生活において神さまの御心に聴き従うことができるようにと祈ります。

### 〈神さまの御心に聴き従う〉

「神さまの御心に聴き従う」ということは、もともと人間の本分でしたが（コヘレトの言葉12:13）、墮落後の人類はそのことを厭うようになり、何事につけても「自己中心」的となりました。それゆえ、私たちはキリストによって罪を赦され、新しい心を与えられるまでは心の底から喜んでこの祈りを祈ることはできないのです。しかるに、主イエス・キリストがまず私たちに代わり、「へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順」を尽くして下さいましたので（フィリピ2:8）、私たちは罪を赦され、救いをいただいた喜びの中で、キリストの名によってこの祈りを祈ることができるようになりました。パウロは、福音伝道の目的は「すべての異邦人を信仰の従順へと導く」ことにあると言っています（ローマ1:5）。「聴き従う」ことの重要性については、サムエル記上15章22節等参照。

### 〈なすべきわざを喜んですることができるよう〉

父なる神の御心に従い通された主イエスさまの従順の道は、時に辛く、厳しいものでした。特に、十字架の死を直前に控えてゲッセマネの園で祈られた時、イエスさまは「苦しみもだえ、……汗が血の滴るように地面に落ちた」とルカは記しています（ルカ22:44）。けれども、そのような苦悩のただ中にあっても主は「わたしの願いではなく、御心のままに行ってください」と祈られ、自ら進んで、自発的に十字架を負うことを決意されました。

私たちにとっても、神さまの御心に聴き従うことは、時に苦痛を伴い、犠牲を強いられることもあります。けれども、私たちの主であり師であるイエス様が十字架の苦しみの中で喜んで父の御心に従い、勝利されたのですから、私たちも主の御足のあとに従って、喜んで「なすべき業を行うことができる」ように祈りたいと思います。使徒パウロもキリストに従う信仰の故に獄中生活を強いられたことがありましたが、そこで記した手紙の中で「あなたがたには、キリストを信じることでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられている」（フィリピ1:29）と言っています。（宮崎彌男）



テキスト マタイによる福音書26章36～46節  
カテキズム 子どもカテキズム問81

### 〔単元のねらい〕

第三の求めは、観客席から試合を眺めるようにして祈れる祈りではありません。変えられるべき地は、何よりもまず、自分であるからです。しかし、御心に適って自分を変える力も、そうしたいという願いも自分の内にありません。ゲツセマネの園で祈られた主イエスのみ姿に目を凝らして注目しましょう。主のみ姿に心打たれた時初めて、第三の求めが自分の祈りになるに違いありません。たどたどしくとも、「私を変えて下さい。主よ」と祈り出すことをねらいとしたい。

## 「失われてはならない一人のために」

今日は、主の祈りの第三の求めについて学んで行きましょう。主イエス様は、第三の求めとして「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈り願うよう、私たちに教えて下さいました。

ここでの「地」というのは、地域や場所という意味であるよりも、この地上に住む全ての人という意味です。そこで第三の求めは、汚れなき天においては、御使いたちが心からの感謝をもってあなたに仕え（黙示録5:11～12 ルカ15:10）、それによって、御心が十分に行われているように、私も、そして私たちもあなたに喜んで仕える者とならせて下さい、という求めであるのです。

一言で言うならば、この第三の求めは「私を変えて下さい」という求めであるのです。それまでの神様に背を向けた自分勝手な生き方を止め、主よ、ただあなたの栄光のあらわれることだけを求める、あなたの忠実な僕に、私を、そして私たちを造り変えて下さいという祈りです。

さて、ある人は思うことでしょう「ちょっと待ってこないか」と。「私は、自分に神様の助けが必要であることを認める。そればかりか、神様に助けをいただきたいと願ってもいる。しかし、自分の生き方を変えて下さいと、そう祈り求めよと言われても、ちょっとついて行けないよ。」と、そう思われるかも知れません。

確かに、あなたの生き方を変えよ！とそれだ

けを命じられたのならば、誰でも反発を感じることでしょう。

そこで、今日ぜひ一つのことを覚えましょう。それは、私たちを救うために、文字通り身と魂を打ち叩くようにして、わたしを変えて下さいと祈られた方がおられること、そしてその方こそ、私たちの救い主・主イエス様であること、それをぜひ覚えたいと思うのです。

マタイ福音書26章を開いてみましょう。

十字架に架けられる前の夜、主イエス様はゲツセマネの園で祈られました。悲しみもだえ「わたしは死ぬばかりに悲しい」と悲痛な声を上げつつ、しかし、その場から逃げ出さずに祈られました。なぜなら、主は、ご自分の死にまさって罪人の私たちを救うことを願われたからです。

実は、主はこの地上に来られる前からご存知でした。罪人を救うためには、ご自分が身代わりの死を遂げる以外に方法がないこと、それを知っておられました。

けれども、主イエス様にとってさえ、十字架—極悪人にもみ許された残酷な処刑の道具—を負って十字架刑に処せられ、死に至ることは、言語に絶する耐え難いことでした。そこで、主は、まず祈られました。「父よ、出来ることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせて下さい」。神の怒りの杯、十字架を負わずに済むように、むごたらしい死から助け出されることを求めます。けれども、

主は続けて祈られました。「しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに」。そう、主はご自分の内にある願いが叶えられることよりも、父なる神が願っていること、つまり、ご自分が身代わりの死を遂げること（参照ヨハネ10：17～18）をその通りにして下さいと祈られました。それは、むごたらしい死へと歩み出すことの出来る者、その御心に従える者に、わたしを変えて下さい！という求めに他なりません。

夜更けの寒さが染み渡る中で、主は汗を血の滴のようにポタポタと滴り落として、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られました（ルカ22:44）。十字架を負って歩み通せる者に、身代わりの死を死ねる者に、わたしを変えて下さいと祈られたのです。

もちろん、主がその様に祈らなくてはならない理由の一つもありません。反対に、「汚れた罪人とわたしと何の関係があるのか？」「いつも言い逆らってばかりの反逆者と、わたしは関わりを持ちたくない。彼らの身代わりとなって死ぬことなど、まっぴら御免だ。」と、その場から立ち上がり、ガリラヤへ帰られたとしても何の不思議もありません。もちろん、最も当然なことをされている方を引き止めることは誰にも出来ません。

しかし、主イエス様はこの祈りの場から立ち去ることをしませんでした。かえって、ご自分の身と魂を打ち叩くようにして祈られたのです。十字架に架かって身代わりの死を遂げる、そのあなたの御心に従い通せる者に、わたしを変えて下さいと。そう、主は主の祈りの第三の求め「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」この祈りを懸命に、心注いで祈られたのです。

そして、主はこの祈りの格闘の末、ついに勇気と従順を勝ち取られ、嘲りと罵りと死が待つ十字架に向かって踏み出して行かれたのでした。

これらは全部、私たちのためでした。

憐れみ深いイエス様は、私たちに救いの恵みを与えるために、ご自分は命を失うことの方を選び取って下さったのです。

なるほど、この世ではとんでも考えられないことです。この世では、人を踏み台にしてでも自らを富ませようとするのが常だからです。ところが、主はこれと正反対です。イエス様は、私たちを救いの恵みで満ち足らせるために、ご自分は貧しくなられ（コリント二8：9）、ご自分の命まで与えようと、こんなにも懸命に祈られたのです。なぜでしょうか。その理由はただ一つ、主はあなたをどうしても救いたかったからです。主イエス様にとって、あなたはどうしても失われてはならない一人だからです。

ですから、「ボクのことなんか誰も本気で相手になんかしてくれないよ」などと、誰も言ってはなりません。主がご自分を打ち叩くようにして祈られたのは、あなたを救う者となるためだったからです。

さて、かたくなな私たちも主イエス様のこの真実な愛に触れる時、砕かれます。文句を並べ、ふてくされて生きるのでは申し訳ない、と心は動き始めます。なるほど、相変わらず欠け多き土の器に過ぎません。悔いてはまた犯す、まことに汚れた身であります。しかし、主の忠実な僕に造り変えられ、主の栄光をあらわすのに足る者となれるならば、どんなに良いでしょうか。実は、その時こそ、私たちは一人一人最も輝く者となれるのです。

グツセマネの園で祈られた主イエス様のみ姿を覚えて祈りましょう。「私も、そして私たちもあなたに喜んで仕える者とならせて下さい」と。「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」と。

主は、きっと、あなたを用いて大きな御業をあらわして下さるに違いありません。（小野田雄二）

---

【今週の暗唱聖句】 ヨハネの手紙一3章16節

イエスは、私たちのために、命を捨てて下さいました。

そのことによって、私たちは愛を知りました。

だから、私たちも兄弟のために命を捨てるべきです。

---

## 〈ねらい〉

自分のがんばりではなく、神様のお力に信頼し、期待して、まず自らが変えられることを願う。

## 〈展開例〉

きょう、しょうちゃんは元気がありません。幼稚園で一番仲良しのたかちゃんとケンカしたまま帰ってきたからです。たかちゃんがぶったのです。「たかちゃんなんか大嫌い」と思いました。「もう絶対遊ばない」と思いました。でも何だか楽しくありません。たかちゃんが悪いのに心がすっきりしません。どうしていいかわからなくなって、ちょっとだけお祈りしました。「かみさま、どうしたらいいの？」と。“しょうちゃんは悪くないから大丈夫”と神様が言ってくれそうな気がしました。ところが、“ほんとにたかちゃんだけが悪

いの？”という声が聞こえたような気がしました。ちょっとびっくりしました。そして、たかちゃんがぶつ前にしょうちゃんがいじわるしたのを思い出しました。「そうか、ケンカの始まりは僕だったんだ。どうすりゃいいんだ」ともっと気持ちが悪くなりました。「神様、助けて」とまた祈りました。すると“謝りに行こう！”という力が湧いてきました。しょうちゃんがたかちゃんに“ゴメン”というと、たかちゃんは「さっきぶつてゴメン」としょうちゃんに言いました。

## 〈おいのり〉

天の父なる神様、僕達私達にいつも勇気や力をください。そうして神様の子供らしくなれますように。イエスさまのお名前によって。アーメン。

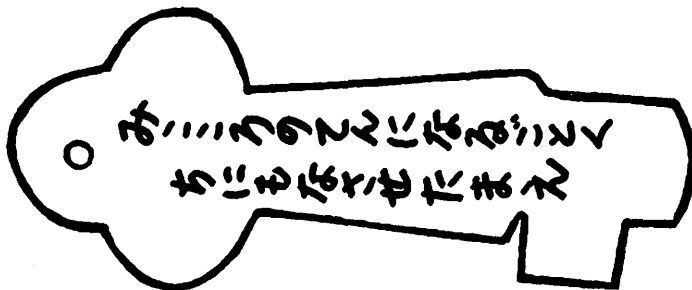
## 〈やってみよう〉

127ページを参照して準備しましょう。

今日で主の祈りの前半、神様のために祈る祈りが終わったことを告げ、前半全部の暗唱をしてみましょう。カギカードの飾りはお休みしてもよいでしょう。

全員が出来るように、さりげなく手伝ったりして、励まし、ほめてあげましょう。

一人一人に小さなプレゼントの用意をするのもよいかもしれません。



## 〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ① イエスさまは何という所で祈られた？（→ゲツセマネ）
- ② 喜んで祈られた？（→悲しみもだえながら祈られた）
- ③ イエスさまは何がなされるように祈った？（→神さまの御心）
- ④ 弟子たちも一生懸命祈った？（→眠っていた）
- ⑤ 神さまの御心はイエスさまがどうなることだった？（→十字架にかかること）

## 〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

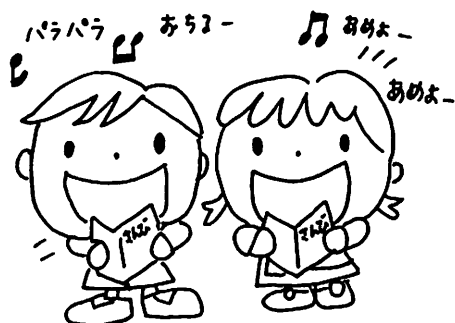
- ① これは主の祈りの何番目のお願い？（→三番目）
- ② 自分勝手に何でもお祈りしていい？（→よくない）
- ③ 何を祈るべき？（→神さまの御心）
- ④ 祈るだけでいい？（→御心に聞き従って、なすべきことをする）
- ⑤ いやいやする？（→喜んでする）

## 〈考えてみよう〉

イエスさまのお祈りの姿を想像してみましょう。イエスさまの苦しみは、イエスさまが私たちと同じ人間であったことを示しています。一方、眠ってしまった弟子たちとは違い、御心を祈り求め、十字架への道を歩まれたイエスさまのお姿は誰にもまねできない神の独り子としてのお姿を示しています。私たちは、困ったときなどにも、イエスさまと同じようなお祈りができるでしょうか。イエスさまは、「わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った」（ルカ22:32）と仰ってくださいました。イエスさまの激しい祈りは、私たちのための祈りでもありました。イエスさまのお姿にならって、私たちも自分勝手な祈りではなく、神さまの御心を求める祈りをささげましょう。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。神さまの御心が何であるかをよく知って、神さまの御心に喜んで従うことができるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

「御心の天になるごとく地にもなさせたまえ」

第三の願いで私たちは何を求めるのか。

## 〈展開例〉

## ①この祈りを祈るのはどうして？

先週私たちは「御国を来きたらせたまえ」の祈りを学びました。御国とは神様が与えてくださる、完全に神様が支配される国でしたね。

それでは私たちは、ただその日を待ち望んでいるだけでよいのでしょうか。イエス様は、今のこの世界においても、神様の御心になる（実現する）ように祈りなさいとおっしゃっています。

この世界には、神様を悲しませるような出来事がたくさん起こっています。世界には有り余るほどたくさんの食べ物があるのに、人々は分け合うことをしないので、毎日大勢の人がお腹をすかせて死んでいきます。テレビでは戦争や殺人や盗みのニュースが繰り返し伝えられています。私たちはこの悲しい現実を見ると、「神様の御心がこの地でも行われますように」と祈らざるを得ません。

## ②天では何がおこっているの？

一方、天ではこの世界では考えられないような素晴らしいことがおこっています。

信仰をもって信じて亡くなっていった人たちが、完全に聖められて神様をほめたたえ、仕えています。み使たちも神を賛美しています。その真中にはイエス様がおられます。みんなが神様をほめたたえ、喜びにあふれています。そこでは神様の御心だけが行われています。

## ③どのようにして、御心が地でも行われるようになるのか

人間がいくら正しく生きようと努力しても、世界中の人たちが知恵を出し合っても、人間には御心を実現させる力はありません。人間の罪がそれを妨げているからです。この罪からくる自分勝手な思い、わがままな思いが神様の御心を行わせな

いようにしているのです。その罪を、人間は自分の力ではどうすることもできません。

人間にできなかつたことを、イエス様はすでに十字架でなしとげてくださいました。ですから人々がイエス様によって救われることによって、この祈りは実現に向かって動き始めるのです。

私たちは、このすばらしい救いを伝える御言葉が広がっていきますようにと祈ります。なぜなら神様を信じる人たちによってこそ、御心が行われるからです。

## ④信じるものがさらに……

この祈りはイエス様を信じるものたちが神様の御心を深く知り、ますます喜んで神様に従っていくことができますようにという祈りでもあります。神様の喜ぶことを喜び、神様の悲しむことを悲しむ私になれますようにと祈るのです。

## ⑤御心を知り、行うことができるために

神様の御心がよくわかるためには、聖書を読み、礼拝で語られる神様の言葉を一生懸命に聴くことが大切です。また、折ることをとおして心を探っていただきましょう。自分の思いではなく、神様の願いを第一とすることができるよう祈りましょう。

## 〈御心を探そう！〉

御言葉を書いた紙・プラスチックなどのケース、または封筒を用意する。

- ・次の御言葉を1枚ずつ紙に書いておく。  
テモテ2:4、テサロニケ1:3、マタイ6:33、テモテ2:4、エフェソ4:32など
- ・ケース（封筒）に紙を1枚入れる。
- ・一人が部屋から出ている間に、ケースを隠す。
- ・また部屋に入ってもらい、その人にケースを探してもらおう。近づいたら拍手や声で教えてあげる。
- ・見つけたら御言葉を読んでもらおう。中の紙を替えて次の人と交代する。

【目標】

「御心が地上で行われることの」への希望を知る。

①説教を深めるために

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

②あらためて御言葉に取り組む

→主の祈りをあらためて生徒と祈る。

【ポイント】

御心を願うということは、単に今ある自分の思いを我慢して押さえつけて、御心の方を通すと言う、無理やりな、不自由で消極的な事柄ではない。また御心は、私たちを襲う、私たちの力ではどうにもならない宿命、単なる冷たい定めとして理解されることも正しくない。御心とは、何より私たちのために御子を十字架にお付けになるほどの愛を私たちに向けてくださっている神様が、その愛にかなって私たちを御自身のもとに救い上げようとされる、救いの御意志に他ならない。その御心の実現は、私たちにとって最上の事柄である。その神様の御心の実現を期待し、真剣に祈りたい。

③生徒と一緒に考える

→まず教師自身が「御心の天になるごとく、地にもなされたまえ」と祈ることの中で受けている恵みについて、生徒と分かち合う。

Q. 御心とは、誰の思いということでしょうか？

Q. 神様の思いが地上に実現するという事は、それは嬉しいことでしょうか？ それはなぜですか？

Q. 自分の思いと神様の御心は違うものでしょうか？ もし違ったとしたら、どこが違うのでしょうか？

Q. 疑問は解けましたか？

④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く

Q. 自分の思いを超えて実現する神様の御心に期待して、任せることができますか？

Q. 今週神様があなたに期待しておられる御心とは何だと思えますか？

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト マタイによる福音書6章25～34節

これは大きな区分では山上の教えに属します。その意味では主イエスのところに集まった群衆に対する教えの一部ですが、19節からの段落、および24節からの段落と共に、神の民の富に対する態度を教えていると言えます。

### 〈富に対する態度〉

25節「だから」はその前の神様と富に関する段落を受けています。神様に仕えるものは富にも仕えることはできない「だから」ということです。そのように富に仕えず神様に仕える民は命に関わる食べ物や飲み物、体を覆う服のことについて思い悩むなど主イエスは言われます。

27～31節はそのことのたとえによる展開です。中心となるのは27節の「だれが思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか」です。自分の寿命をわずかでも左右することが出来る人はいません。これは余りにも明らかな事実ですが、私たちが普段忘れてのことです。そしてこのことはそのまま決定的な事を示します。それは、私たちの命は実は私たちには自由にできないということです。25節では「自分の命」「自分の体」という言葉が用いられています。私たちはそれを自分のものと考え、自分で面倒を見るべきものとし、そのために思い煩うのです。主イエスご自身も、命と体の大切さを認められます(25節後半)。しかし、同時にその大切な命や体を養うのは誰なのかと問われるのです。

### 〈自然を見よ—例話〉

その意味で、空の鳥を見よ、野の花を見よと二つのたとえを語られます。もちろん鳥も花も生物学的には生きるための戦略をもって日々を過ごしていると言うことはできます。また、すべての動植物が必ず繁栄するわけではありません。けれどもここで大切なのは、父なる神様のお計らいの豊かさです。これらのたとえは、わたし達の見習うべきモデルというよりは、神様の豊かなお計らいが地上の隅々にまでいきわたっているということの象徴です。そのような神様の恵みを端的に表す

言葉として、野の花がソロモンに勝る装いを得ていることが指摘されるのです。

その神様の豊かなお計らいを信用せず自分で自分の心配をしようとしている神の民に向かって主イエスは30節で「信仰の薄い者たちよ」と呼びかけられます。これは明らかに目を覚まし、事実に対して目を開きなさいという招きです。32節では、目がふさがれている人として「異邦人」が示されます。これは、続くところで「あなたがたの天の父」という言い方がなされていることと共に、神の民の自覚を促すためのことばです。ここからも主イエスのこの教えが神様をまったく知らない者に対してではなく、むしろ神の民でありながら神様のみ思いをよく理解しない人たちへの教えとなっていることがわかるのです。

### 〈恵みの中で生きる〉

神の民は、自分の命を自分で勝手に出来るものと勘違いして、それを養うためのあれこれをまず求めるべきではないのです。主イエスは、そうではなく「神の国と神の義を求めなさい」と命令されています。神の国とは神様の支配です。それは何よりもまず、神様を第一とする人たちの前に現れます。神の義とは神様の正しさであり、それは罪と罰からの開放、神様の秩序の回復として理解できます。この二つのもの、神様の国と、神様の義とをまず第一とすると、正しい方を正しくあがめることが回復し、それ以外のもの、神様が私たちに与えられた大切な命を養うためのその他もろもろのものは、もっとも大切な命、すなわち神様との正しい関係における命の交わりに加えて与えられるのです。だからあなた方は思い煩うべきではないということになります。私たちは神様との正しい関係に入れられるとき全面的に神様に信頼するようになり、その時こそ与えられた命を正しく用いて与えられた使命に取り組むこと、すなわち「その日の労苦」(34)に集中することができ、神様への不信から来る自分を守ろうとする思い煩いから解放されるのです。(杉山昌樹)

## 2月26日 「日用の糧を与えたまえ」 カテキズム研究

カテキズム 子どもカテキズム問82

子どもカテキズム

問82 「我らの日用の糧を今日も与えたまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 神さまこそが、私たちのすべての必要を備えて、楽しませてくださるので、

私たちの毎日の食べ物をください、神さまにのみ頼らせてください、ということです。

証換聖句 テモテ4:3-5、使徒14:17

参考教理問答 『ウ小教理』104、『ウ大教理』193、『ハイデルベルク』125、『ジュネーヴ』275-279

### 〈日用の糧〉

直訳すれば、「毎日のパン」ですが、「一般に私たちの体の欠乏に対して必要なすべてのもの、単に食物や衣服に関してばかりでなく、私たちが平穩に私たちの糧を食べることができるために、私たちに適当と神がお認めになるすべてのもの」を含めて考えてよいでしょう（カルヴァン、『キリスト教綱要』Ⅲ：20：44）。ルターもその『小教理問答』の中で「日用の糧とは何ですか」という問に答えて、「それは肉体の栄養や生活になくはならぬすべてのものを含んでいます。例えば、食物と飲物、着物とはきもの、家と屋敷、畑や家畜、お金や財産、信仰深い夫婦、信仰深い子ども、信仰深い召使い、信仰深い信頼できる支配者、よい政府、よい気候、平和、健康、秩序、名誉、よい友だち、信頼できる隣人とその他これに類するものです」と言っています。

### 〈今日も与えたまえ〉

私たちの時代、ものがあり余るほどあるのだから、「与えたまえ」と神さまに祈る必要などありませんよ、とそんな風に考える人も、あるかも知れません。本当にそうなのでしょう？ たゞえものがあり余るほどあったとしても、主が私たちに対する賜物としてお与え下さるのでなければ、それは私たちの役には立たないし、決して本当に

命の糧とはならないのではないのでしょうか（カルヴァン、『ジュネーヴ教会信仰問答』279等参照）。

### 〈神さまにのみ頼る〉

神さまは私たちキリスト者にとって、いつくしみ深い天の父でありますから、私たちの毎日の必要をよくご存じです。そして、生きておられるまことの神さまとして、日々に必要なものを満たしてくださいませ。

ところで、箴言30章8節には、「私のために定められたパンで私を養ってください」という祈りが出てきます。これは「日用の糧を今日も与えたまえ」と同じ趣旨の祈りと言えるでしょう。「私のために定められたパン」すなわち、今日一日の私の生活に必要なだけのパンをお与え下さい、という祈りです。もし、私たちがそれ以上のものを求めるとするならば、あたかもパンそのものによって生活が保障されているかのような錯覚に陥ってしまうかも知れません。その場合、私たちがいつくしみ深い父の御心と御業によってのみ生かされていることを忘れてしまうことになるかも知れないのです。それで、イエス様は毎日、その日に必要な糧を求めて祈りなさいとお教え下さるのです。「日用の糧を今日も与えたまえ」と祈るようにお教え下さるのです。（宮崎彌男）



テキスト マタイによる福音書6章25～34節  
カテキズム 子どもカテキズム問82

### 〔単元のねらい〕

マタイによる福音書6章25～34節より、私達の信じる神様は、抽象的な神様ではなくて、今も生きて働かれており、私達の全ての必要を満たして下さるお方であるということ、「全ての造られたものを養って下さる神」、「神に委ねることの大切さ」、「物質的な必要を満たして下さる」神という三つのポイントから御言葉に聞き、思い悩まずに生きる秘訣について、考えてみたいと思います。

## 「心配無用」

皆さん、私達の心の中には沢山の心配事があります。あれは、どうすればいいだろう。これからどうなっていくのだろう。心配すればきりがありません。私達の心は思い悩んでしまうのです。そこでイエスは今日の御言葉を語られました。「だから、言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか」(25)。

イエスは、「思い悩むな」という言葉を、7回も繰り返しておられます。「思い悩む」という御言葉は、「心配」とも訳せる御言葉ですが、心が色々な方面に分かれて、混乱することを意味しています。イエスが、「思い悩むな」と言われたのは、神を信頼している者は、全てを神が配慮し、全てを与えて下さり、神によって心が一つにされているのだから、混乱することはないということです。神様が、私達の毎日の生活の必要を満たして下さるのです。今日私達は、どんな状況の中にあっても、「思い悩まない秘訣」について、三つのポイントから神様の御言葉に聞きましょう。

イエスは、私達の毎日の生活と非常に関係の深い事柄を通して、神様が私達の毎日の生活を満たして下さるお方であることを教えて下さいました。「だから、言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思悩むな。命は食べ物よりも大

切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養って下さる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか」(25-26)。

第一に、神は全ての造られた物を養って下さるお方です。神は私達に衣装より大切な「命」(25)を与えて下さいました。その神は当然私達の命を支えるのに必要なものを与えて下さるのです。だから、信頼しなさいと聖書は言っています。そのことを「空の鳥」といったイラストを通して語っておられるのです。私達は、「空の鳥」より遙かに優れた者です。だから、神が養い育てて下さるのは当然であると、聖書は言っているのです。

第二に、心配しても、解決できない事柄があるのだから、神に委ねることの大切さを聖書は教えています。そのことが「命」と「野の花」のイラストを通して語られて、神に全てを委ねることの大切さを聖書は教えています。「あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかも延ばすことができようか。なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の

草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ」(27-30)。

命は、どんなに思い煩ったとしても、少しも延ばすことはできません。私達の命は神の御手の中にあります。自分の力で左右する事のできない事柄を思い煩う、思い悩むのは、愚かなことなのです。「ソロモンの栄華」という言葉がありますが、それほど、彼の時代の繁栄は筆舌に尽くしがたいものでありました。「シェバの女王は、ソロモンの知恵と彼の建てた宮殿を目の当たりにし、また食卓の料理、居並ぶ彼の家臣、丁重にもてなす給仕たちとその装い、献酌官とその装い、それに王が主の神殿でささげる焼き尽くす献げ物を見て、息も止まるような思いであった」(歴代誌下9:3-4)。しかし、そのような栄光も「野の花」には及ばない、花の完璧な美しさの前に色褪せてしまうのです。寿命も短い花、しかも燃料として炉に投げ込まれるような花に対してすらも、神はどのように装われます。この事実を考えると、神が私達一人ひとりにどれだけ配慮を下さるお方であるか、そのことに気がつくのです。

そして第三に、神は私達一人ひとりの物質的な必要を満たして下さるお方です。「だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである」(31-32)。

天の父は、衣服や食物が私達に必要なことを既に知っておられ(32)、そのために配慮を下さるお方です。神は決して物質的な必要を軽視したり、ないがしろにしたりはなさりません。「あなたがたの父は願う前から、あなたがたに必要なものを御存知なのだ」(8)。神は私達の必要を御存知です。そしてそれを与えて下さいます。ですから、思い悩むより先に、まず信じるこ

とが大切です(33)。

私達の心から心配事や思い煩いをおいだすことはなかなかできません。唯一の解決方法は、私達の心を神様のことでいっぱいにすることです。それは、神に信頼することに他なりません。それこそが、思い悩みから解放される秘訣なのです。ですから、イエスは言われました。「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」(33)。大切なことは、神を信じることです。神様を信頼することです。そのことによって、あちこちに思い乱れていた私達の心は一つとなって、思い悩みから解放されます。

私の子供が生まれて数ヶ月のときにある手術をしました。大きな手術でした。そのための費用も多額なものでした。とても支払えるような額ではありませんでした。私達夫婦は神様に必要を満たして下さるように一生懸命にお祈りしました。教会でも多くの方々が、子供の手術のために献げて下さいました。国からの援助の手続きもしました。それでも未だ足りません。手術は無事に成功しました。そして、いよいよ明日退院という夜です。支払うべきお金は未だありませんでした。私は神様に一生懸命にお祈りしていました。玄関のベルが鳴りました。誰だろうと思って出てみると、保健所からの速達でした。そこには、こう書かれてありました。「あなたのお子さんの手術に掛かった費用は全額国が負担することを決定致しました」。正に絶妙のタイミングです。私は神に本当に感謝致しました。そして神様が本当に生きて働かれているお方であることを教えて頂きました。「だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分である」(34)。

神様は生きて働かれておられ、私達の必要を全て満たして下さるお方です。神様を信頼して歩んでまいりましょう。(小堀 昇)

---

[今週の暗唱聖句]

マタイによる福音書6章33節

何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。

そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。

---

## 〈ねらい〉

衣食住への思い煩いなどはない幼児である。しかし神様のご意志なくしてこれらが与えられることはないことを具体例で実感させよう。

## 〈展開例〉

風邪をひいてるお友達はいないかな。冬に雨が降らなくて空気がカラカラに乾くと、マスクをしましょう、うがいをしましょうとよく言われます。空気が乾くと風邪ひきさんが多くなるんです。いつか夏に雨が全然降らなくて水道をひねってもお水がちょっとしか出ない所があったことを、テレビのニュースでみました。プールはお休み、お風呂も時々だけ。保育園へ行く時おうちから水筒をもっていかなくてはなりません。お花もお野菜も枯れちゃってほんとに大変でした。雨を降らせて下さるのは誰でしょう。そう、神様です。

今朝、ごはんを食べてきましたか？ ママが病

気をしたら、たちまちご飯を作ってくれる人がいなくて困ります。少しの間ならパパがしてくれてもずうっとは大変です。いえ、パパが病気になって会社に行けなくなったら、お金がおうちになくなって、食べるものもお洋服もおモチャもお出かけも全部困ります。神様が雨を降らせ、パパやママを守っていて下さるので、みんなは何も心配しないですむのです。毎日ご飯が食べられるのは当たり前ではありません。だから神様がいつもいつもそのように守って下さるように祈りましょう。同じように世界中のお友達のためにも祈りましょう。

## 〈おいのり〉

天の父なる神様、神様が雨やパパやママやいっぱいいいものを下さってほんとにありがとうございます。食べ物のない世界中のお友達もお守りください。イエスさまのお名前によって。アーメン。

## 〈やってみよう〉

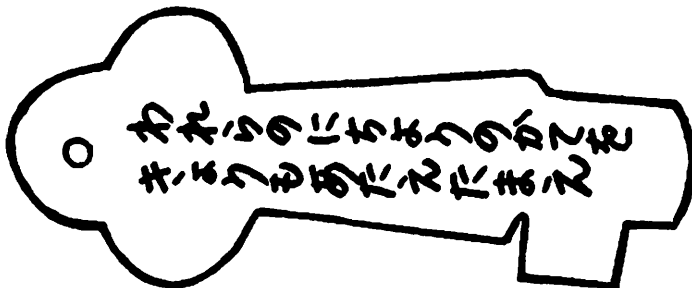
127ページを参照して準備しましょう。

カギカードをわたすだけで、飾る作業はお休みしてもよいでしょう。

『こどもさんびか』（日本キリスト教団出版局）85番「かみさまにかんしゃ」を歌います。

子どもたちひとりひとりに好きな食べ物を聞いて（ひとりいくつでも）、「かみさまは【よいもの】を……」のところにそれを当てはめて、次々に何回でも歌ってみましょう（先生の分も）。

今日の祈りに神様が答え続けてくださっていることに気付かせましょう。



## 〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ① 食べる物や着る物のことで思い悩むべき？（→ 思い悩むべきではない）
- ② 空の鳥を養い、野の花を育てているのは誰？（→ 神さま）
- ③ 私たちの必要なものを与えてくれるのは誰？（→ 神さま）
- ④ 私たちはまず何を求めるべき？（→ 神さまの国と神さまの義）
- ⑤ 食べ物や着る物はいらないということ？（→ すべて必要なものは神さまが与えてくださると信頼する）

## 〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

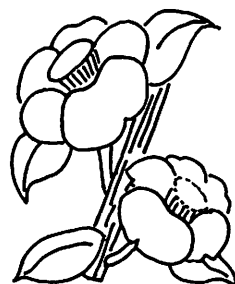
- ① これは主の祈りの何番目のお願い？（→ 四番目）
- ② 日用の糧とは食べ物のことだけ意味している？（→ 生活に必要なものすべて）
- ③ それらは誰が与えてくれる？（→ 神さま）
- ④ 少しだけ与えてくれる？（→ 楽しめるだけ十分に与えてくれる）
- ⑤ すでに食べるものがあれば神さまに祈る必要はない？（→ 毎日、どんなときもお祈りする）

## 〈考えてみよう〉

必要なもの、欲しいものがあつたら、誰にお願いしますか。お父さん、お母さん、あるいは、おじいちゃんやおばあちゃんという人もいるかもしれませんが。私たちは、欲しいものをくれそうな人にお願いします。それでは、私たちに一番よいものを与えてくれるのは誰でしょうか。父なる神さまです。私たちが自分ではまだ気付いていない必要なものも、神さまはすでにご存じて私たちのために用意してくださっています。だから私たちは神さまに信頼してお祈りできます。また、このお祈りは、自分だけ必要なものが与えられればそれでいいというお祈りではありません。すべての人の必要が満たされることを願わなければなりません。世界中には、食べる物がなく困っている人もいます。食事のお祈りのとき、少しでもそのことを思い出し、主の祈りのこのお願いを、すべての人のためにささげてみましょう。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。いつも必要なものを与えてくださってありがとうございます。いつも神さまに信頼して、何でもお願いすることができますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

「われらの日用の糧を今日も与えたまえ」

第四の祈りで私たちはどう祈るのか。

## 〈展開例〉

## ①「日用の糧を与えたまえ」とはどのような意味？

「今日必要な食べ物を一日分お与えください」という意味です。でも、食べ物だけでは私たちは生きていけませんね。住む家や着る物、お金や学校やお友達も必要です。「日用の糧」には、生きていくために必要なすべてが含まれています。

## ②今日、一日分だけを求めるのはどうして？

もし私たちに、一度に必要な以上のものがあり余るほど与えられたら……それを与えてくださった神様を信頼するのではなく、豊かな「物」により頼むようになってしまうかもしれません。人間は欲ばりなので、もっともっと欲しがったり、自慢したり、物を大切にしくなくなります。

## ③どうしてこの祈りが必要なの？

皆さんは、今日は食べるものがなくて困ったなあという経験はないと思います。私たちはあまりに豊かになりすぎて、すべてのものは、神様がくださったものであることを忘れてしまっているのではないのでしょうか。この祈りは、私たちが神様なしでは1秒も生きることができないものであることを思い出させてくれます。

## ④『「何を食おうか」「何を飲もうか」「何を着ようか」と言って、思い悩むな。』とはどのような意味？

食えることや生活のこと、毎日必要なものがどうでもいいという意味ではありません。主イエスは、それらが私たちに必要であることを、よくご存知です。ですから、心配したり思い悩む必要はないという意味です。それらを思い悩むことは、必要なものを必要なときに必ずお与えくださる神様を信頼していないことになるからです。私たちは目に見えない神様より、目に見える、食べ物や着る物の方に心がとらわれてしまいやすいのです。自分の生活を支えているのは、本当は自分ではないのに、あれこれと心配し、悩むのです。そのこ

とで心がいっぱいになっているのです。

神様は「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」とおっしゃいました。私たちをいつもお守りくださる神様にすべてをおまかせしなさいとおっしゃいます。心を心配事でいっぱいにするのではなく、神様への思いでいっぱいになさいと言われます。そのとき、心が満たされるばかりでなく、体に必要なものもすべて備えられると約束してくださっています。

## 〈あかし〉

ずっと昔、イギリスの国にジョージ・ミュラーという人がいました。ミュラーさんは、大勢の子どもたちと一緒に住んでいました。その子どもたちは、ミュラーさんの本当の子どもではありません。みんな、お父さんやお母さんと一緒に住むことのできない子どもたちです。

ある夜、食事の終わったあとで、ミュラーさんが子供たちに言いました。「もうお金がなくなってしまいました。コックさんが、明日の朝の食事のための食べ物がもうないと言っています。それで今夜は、私たちに必要な食べ物を与えてくださるようにお祈りしましょう。」子供たちがみなひざまずくと、ミュラーさんがお祈りしました。「イエス様、あなたは私たちを守ってくださいます。そしていつもよくしてくださることを感謝します。今私たちに朝の食べ物が必要です。食べ物をお与えくださるようお願いします。」

次の朝、子どもたちは目をさますと、食堂に走っていきました。でも、テーブルの上には何もありません。ミュラーさんと子供たちはまたお祈りをしました。

そのあとすぐ、ドアをノックする音が聞こえました。子供の一人がドアを開けました。だれがいたと思いますか。だれもいなかったのです。でもそこには、だれかが置いていった食べ物の袋がありました。ミュラーさんと子どもたちは、一緒にイエス様に感謝のお祈りをしました。

(ケネス・N・テイラー著『子どもに読んで聞かせる話』より)

## 【目標】

神様が私たちの日常的必要にも豊かに答えて満たしてくださっていることを知る。

## ①説教を深めるために

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

## ②あらためて御言葉に取り組む

→主の祈りをあらためて生徒と祈る。

## 【ポイント】

私たちはいつも神様の御国とか、神の御心だけを尋ね求めながら、心を高く上げて歩んでいるわけではない。実に日常生活の9割程は、今日のためのパンをどうするか、今目前にあることをどうクリアーするか？ そういう御国とか御心などの大きな事柄に比べれば些細に思えることに、私たちの目は大きく奪われている。しかし主イエスは主の祈りの大きなスケールにはそぐわないような、些細な事のように思える私たちのパンに関することを、主の祈りから切り捨てられたのではなかった。私たちは生活から離れた綺麗な高尚な部分だけで、神様と関わりではなく、生活の全てを神様の前に持っていくことができる。それを隠し立てせず、神様の前に祈りとして願い求めることができる。

さらにこの祈りを祈る私たちに対して、天からくだってきた、魂を養う永遠に朽ちない命のパン、主イエス・キリストが与えられている恵みを覚えたい（ヨハネによる福音書5章32～35章）。

## ③生徒と一緒に考える

→まず教師自身が「日用の糧を与えたまえ」と祈ることの中で受けている恵みについて、生徒と分かち合う。

Q. 「日用の糧」とは何を指す言葉なのでしょうか？

Q. なぜ食前にお祈りをするのでしょうか？  
日用の糧とはどこから来るのでしょうか？

Q. 日頃食べているパンに勝る、「命のパン」という言葉を聞いたことがありますか？

Q. 疑問は解けましたか？

## ④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く

Q. あなたが今日を生きるための具体的な必要にも、神様は目を留めてくださっています。あなたが今必要としているものは何ですか？  
祈り求めましょう。

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト ルカによる福音書23章32～38節

### 1. 罪人の一人に数えられた。

「二人の犯罪人」が、イエス様と一緒に死刑にされるために、引かれて行きました(32)。そして、この二人を右と左にして、真ん中にイエス様が十字架につけられました。誰の目にも、イエス様がその犯罪人たちと同類の者であるように映ったでしょう。イザヤが預言し、イエス様も預言しておられたとおりのことが起こりました。「罪人のひとり数えられた」のです(イザヤ53:12)。「言っておくが、『その人は犯罪人の一人に数えられた』と書かれていることは、わたしの身に必ず実現する」(ルカ22:37)。

### 2. 彼らをお赦しください。

「罪人の一人に数えられた」イエス様が、十字架の上で、こう祈られました。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」(34)。今、聖書でこの御言葉を読む人々にとっては、感動的な御言葉です。しかし、そのとき、それを聞いていた人々にとっては、心に触れることのない御言葉でした。民衆は、立って見つめていただけでした(35)。議員たちはあざ笑って言いました。「もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい」(35)。兵士たちも侮辱して言いました。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」(37)。もし、十字架から降りてきて自分で自分を救い、罪を赦す権威を持つ者であることを証明したら、お前の祈りを認めてやろうと挑発しているのです。「罪人の一人に数えられた」ような者が、自分の罪ではなく、人の罪を問題とするなど、ありえないことでした。

### 3. 十字架のイエス・キリストを仰ぐ

立って見つめていた民衆も、「自分を救うがよい」「自分を救ってみろ」と挑発していた議員や兵士たちも、十字架のイエス・キリストを仰ぐなど、思いもよらないことでした。「罪人の一人に数えられた」御方を仰ぐなど、誰にもできないこ

とだったでしょう。弟子たちでさえ、同様です。

しかし、十字架のイエス・キリストを仰がずに、罪を赦す権威をもって語られる御言葉と御業を正しく受け入れることはできません。イエス様のこのお祈りが正しく受け入れられるためには、聖霊のお働きを待たなければなりませんでした。

### 4. 聖霊のお働きによって

後に、聖霊に満たされた使徒たちの宣教を通して心を動かされた人々は、こう叫びました。「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」(使徒2:37)。彼らは、自分たちが十字架につけて殺したイエス様の御前にひれ伏すようにして、こう問うたのです。そして、以前には冷たく嘲笑した主イエスのお祈りこそ、罪の赦しを確信するための拠り所となりました。「彼らの罪をお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」(34)。罪を赦すばかりではなく、その弱さに深く同情してその罪を執り成しながら、共に歩んでくださるキリストがそこにおられます。

### 5. 罪を赦す主イエスの権威の下で

「彼らの罪をお赦しください」。ここで、「彼ら」と祈られているのは、誰でしょうか。民衆、議員、兵士、さらに弟子たち、そして、「自分が何をしているか知らない」まさにイエス・キリストに逆らっているすべての人々が含まれるでしょう。様々な人々がいます。多くの点で違っています。互いに憎み合っている人々さえいます。しかし、「彼らの罪をお赦しください」と祈られる主イエスの権威の下にあるなら、同じ「一つの希望にあずかるように招かれて」います(エフェソ4:4)。そして、この希望に真実にあずかり続ける時、他の人々が自分に対して犯す「百デナリオンの借金」を赦さなければなりません(マタイ18:21-34)。十字架のキリストに希望を託しながら、他の人々の罪を責め続けることはできないからです。

(貫洞賢次)

## 3月5日 「我らの罪を赦したまえ」 カテキズム研究

カテキズム 子どもカテキズム問83

子どもカテキズム

問83 「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 イエスさまの恵みによって罪赦されていることを繰り返し思い起こし、自分たちも隣人を赦すことができるようにされていることを心に刻みつけてください、ということです。

証拠聖句 マタイ6：14-15、18：21-35

参考教理問答 『ウ小教理』105、『ウ大教理』194、『ハイデルベルク』126、『ジュネーブ』280-286

### 〈我らの罪を赦したまえ〉

イエス様はある特定の人にだけこの祈りを祈るようにお教え下さったわけではありません。だれかれの区別なく（子供たちも含めて）すべての人がこの祈りをするようにお命じになっておられます。なぜなら、すべての人が神に対し、人に対して、罪の負債を負っているからです。使徒ヨハネが「自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理は私たちの内にありません」（ヨハネの手紙一1：8）と言っていますように、もし私たちが、自分の罪でも社会の罪でも、罪の現実を無視するならば、そこからは決して真実で自由な人間としての生き方は出て来ません。

しかし、「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義から私たちを清めてくださいます」（ヨハネの手紙一1：9）。ここから真に健やかな人生への第一歩が始まるのです。

このような罪の赦しを求める祈りは、私たちがキリストを信じて洗礼を受けるときにただ一回限りすればよいというものではありません。私たちは、信仰告白し洗礼を受けた後も、日々罪を悔いては犯すものです。完全にきよくされるのは終わりの日に復活する時です。その日が来るまでは、日々悔い改め、罪の赦しを祈り求めなければならないのです。

### 〈我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく〉

罪の赦しはあくまでも神の無償の恵みとして与えられるものですから、「主の祈り」のこの部分は私たちの罪が赦されるための条件として付け加えられているではありません。しかし、ここでは、私たちの罪がキリストの故に赦されているという恵みと、私たちが他人を心から赦すことができるという恵みとは、全く一つの恵みとして考えられています（マタイ6：14, 15、18：21-34も参照）。ですから、もし私たちが罪の赦しを祈り求めた後で、他人の罪を赦していない自分に気がついたならば、和解のために最善の努力をしなければならぬのです。

私たちが他人の罪を赦すと言う場合、何か損をするかのように思われるかも知れませんが、そうではありません。イエス様が私たちの負債の全額を私たちに代わって支払ってくださったから、私たち自身の負債も私たちに負目ある者の負債もその全額が帳消しにされているということなのです。私たちが他人の罪を赦すことができるのは、私たちの気前よさによるのではなく、主イエスの十字架のによるあがないの故です。（宮崎彌男）



テキスト ルカによる福音書23章32～38節

カテキズム 子どもカテキズム問83

### (単元のねらい)

ルカによる福音書8章32～43節を通して、十字架に掛かれたイエスのお姿から、①まるで他人事のように救いを見る人々について、②十字架に付けられた犯罪人の反応について、③十字架で悔い改めたもう一人の犯罪人について、三つのポイントから御言葉に聞きながら、十字架の意味を知り、十字架のイエスの愛の素晴らしさを知り、イエスが与えて下さる救いの素晴らしさについて御言葉に聞いてまいりたいと思います。

## 「彼らをお赦し下さい」

皆さん、私達の人生って何日あるか御存知ですか。80年として僅か29200日しかありません。長いようで短い、それが私達の人生です。その一回だけの人生を本当に、充実して、生き生きと生きる秘訣、それは、神を知ることです。「神を知ることとは自分を知ること。自分を知るとは神を知ることである」とカルヴァンは言いました。神を知り自分を知ること、それは、自分の罪深さを知ると共に、それを赦して下さるイエスの十字架の愛の大きさを知ることではないでしょうか。今日は私達の罪を赦して下さる、イエスの十字架の愛について御一緒に御言葉に聴きましょう。

十字架刑は当時の極刑でした。ある炎天下の日、一匹の虫が走っていました。その虫をローマの兵隊が捕まえて、柱にピンで刺し通しました。虫は痙攣しながら死んでいきました。これが、ヒントとなって十字架刑は考案されました。囚人が死刑場に着くと、穴が掘られました。そこに十字架が立てられるのです。囚人の足は、地上から1mほどの高さのところに張りつけられました。これは、その囚人を地上から完全に消し去ることを意味しておりました。両手両足に釘が打ち付けられて、そこに体の全体重がかかり、囚人は暑さと罵声の中を体力を削ぎ取られて、最後には窒息死をするのです。これが、当時一番むごい刑であると言われた十字架刑でした。

その十字架上でイエスは言われました。「父よ、

彼らをお赦しください。自分が何をしているのかわからないのです」(34)。これは、イエスが十字架で語られた7つの御言葉の一つです。この言葉、この祈りは実に実感的な祈りです。恐らく歴史の中で、数えきれないほど多くの人々が、この御言葉でイエスの下に立ち返ったのではないのでしょうか。イエスは、「しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」(マタイ5:44)と山上の説教で言われましたが、正にイエスは十字架において、この御言葉のように生き、この御言葉のように死なれたのです。今日の御言葉の中心テーマは、「イエスによる十字架の救い」ということができるでしょう。

しかし、このような素晴らしいイエスの愛が十字架で表されたにもかかわらず、周りの人々はこのイエスの愛を素直に受け取ろうとはしませんでした。しかしまたある人は信じました。今日はその人々について御言葉に聞きたいと思います。

第一が、まるで他人事のように十字架の救いを見る人です。「民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。『他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。』兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、言った。『お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。』イエスの頭の上には、『これはユダヤ人の王』と書

いたれも掲げてあった」(35-38)。

まるで他人事のような反応です。この中には、一般民衆もいたでしょう。祭司長、律法学者もいたでしょう。ローマの兵隊もいたでしょう。色々な階層の人々がおりました。しかし、人々の中には、どの時代にも傍観している人々がいるものです。キリストの救いが目の前にあらわされているにもかかわらず、それをまるで他人事のように見ている人がいるものです。また権力者達は、プライドの故に、自尊心の故に、イエスの十字架の救いを受け入れることができません。私達もまた、イエスが十字架で表して下さった救いをまるで他人事のように見ていることはないでしょうか。またプライドの故に、今までの生き方を変えるのが嫌で、イエスを信じようとはしない。そのようなことがあるのではないのでしょうか。

第二に、十字架に掛かった犯罪人の反応です。「十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。『お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ』(39)。

彼は犯罪人でした。何か罪を犯したからこそ、十字架刑に処せられてしまったのです。自分の犯した罪を悔い改めてもよかったです。しかし、彼は、『お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ』(39)。と言ったのです。これは、イエスの超自然的な御力を見たいという思いもあったのかもしれませんが。しかし、そこには、自分が救いを必要としている事を認めようとはしない、罪に満ちた姿を映し出しているのです。私達もまた、自分自身が罪人である事が分らない、いえ、それを神の御前に認めようとはしない、そのようなことがあるのではないのでしょうか。

しかし、いつの時代にも第三の人々が必ずおります。十字架の愛が分かりイエスを救い主と信じる人々です。「我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方

は何も悪いことをしていない。そして、『イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください』と言った。するとイエスは、『はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる』と言われた」(41-43)。

この囚人は、十字架のイエスを見て、そのお姿に触れている内に心が変わったのです。聖書の知識はなかったかもしれない、イエスのことをあまりよく分からなかったかもしれない。しかしイエスによって神の御国が到来することを信じて、自分の罪を認めたのです。人々の眼から見るならば、神の御国から一番遠い人であったのかもしれませんが。しかし、イエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」(43)。このように言われて、この犯罪人を救いへと導いたのです。

私が牧会していた教会に一人の青年がいました。非常に伝道熱心な方で、色々な人に伝道していました。ある日、いつも行っている定食屋のおばあちゃんに「今度の日曜日いいところに連れて行ってあげる」と言って、教会につれてきました。そのおばあちゃんは女手一人でお子さんを育て上げた、大変苦勞した方でした。人生の晩年、80歳近くになって初めて福音に触れ、それからというもの、そのおばあちゃんは、求道者クラスに熱心に通われるようになりました。そして、ある年のクリスマスに、イエスの愛が分かり、イエスを救い主と信じて、洗礼をうけられました。

イエスを信じて救われるのに、遅いも早いもありません。傍観者的な態度を捨てて、自分のプライドを捨てて、自分の罪を認めてイエスの下に駆け寄る者をイエスは決して見捨てたもうことなく、救いへと導いて下さるのです。イエスの御前に罪を告白して、罪赦された幸いな人生を送ろうではありませんか。(小堀 昇)

---

[今週の暗唱聖句] ルカによる福音書23章34節前半

そのとき、イエスは言われた。

「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのかわからないのです。」

---

〈ねらい〉

赦される喜び、赦す大切さを教える。

〈展開例〉

幼稚園のお砂場で、ゆうくとまあくんがひとつのバケツを取り合いになりました。お互いにひっぱりっこしてなかなか終わりません。みんなだったらどうする？ ゆうくんは突然まあくんの腕にかみつきました。まあくんは痛くて痛くて泣きながら手を離しました。それでゆうくんはバケツを独り占めして楽しく遊びました。お弁当の時間になりました。むこうの席にいるまあくんがまだ少し泣いているみたいでした。それを見たゆうくんは少し元気がなくなりました。どうしてでしょう……。ゆうくんは、まあくんの側へ行って小さい声で、「ごめんね」と言いました。泣き顔

だったまあくんが少し笑顔になって、「いいよ」と言いました。ゆうくんは、ヤッターと思いました。バケツをひとりで使えた時よりももっと嬉しくなりました。思い切り噛んで腕に歯の跡がいつばいついてるのに、「いいよ」と言ってくれたまあくんの言葉が嬉しくて、やっと安心してお弁当を食べることができました。自分もこれからお友達に、「いいよ」と教えてあげたいなあと思いました。

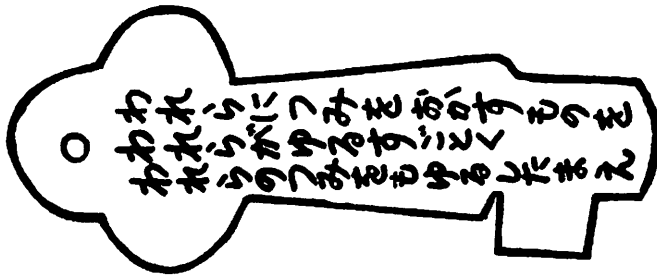
〈おいのり〉

天の父なる神様、何も悪いことをしていないイエスさまが、私達のかわりに神様に「ごめんなさい」と言ってくださいました。だから僕も私もお友達をゆるせるように、力をください。イエス様のお名前によっておねがいます。アーメン。

〈やってみよう〉

127ページを参照して準備しましょう。

祈りの言葉が長いので、ゆっくり繰り返し言ってみましょう。



**〈聖書の内容を確認してみよう〉**

- ① イエスさまと一緒に誰が死刑になった？（→二人の犯罪人）
- ② 何という所で十字架につけられた？（→されこうべ）
- ③ イエスさまは自分を十字架にかけた人たちのことを呪った？（→彼らの罪を赦してくださいと祈られた）
- ④ 人々はどうした？（→あざ笑い、侮辱した）
- ⑤ イエスさまの頭の上には何と書いてあった？（→ユダヤ人の王）

**〈カテキズムの内容を確認してみよう〉**

- ① これは主の祈りの何番目のお願い？（→五番目）
- ② 私たちに必要なのは体のためのパンだけ？（→罪の赦しが必要）
- ③ 誰のおかげで私たちの罪は赦された？（→イエスさま）
- ④ 一度赦されたらもうそのことを思い起こす必要はない？（→祈る度に思い起こす）
- ⑤ 自分が赦されていればそれでいい？（→赦された人は他の人の罪も赦すべき）

**〈考えてみよう〉**

イエスさまが十字架上で祈られた言葉をよく読んで考えてみましょう。イエスさまは何も悪いことをしていないのに、犯罪人と一緒に十字架にかけられたのです。もし自分が同じ状況にいたらどうでしょう。十字架という状況でなくても、何も悪いことをしていないのに誰かから責められたりしたらどうでしょう。文句を言いたくなるのではないのでしょうか。確かに、自分が正しいならば、その正しさを主張することは大切です。しかし、そこで、相手を赦すということも大切です。そのようにできるために、いつも主の祈りのこのお願いを覚えて祈りましょう。すぐにはできなくても、イエスさまと同じように「彼らをお赦しください」と言えるようになるはずです。聖書の中に、このときのイエスさまと同じような言葉を言うことができた人がいるのを知っているでしょうか（使徒言行録7:60、ステファノ）。とても勇気づけられる信仰者の姿です。

**〈一緒に祈ろう〉**

天のお父さま。今日も私たちの罪を赦してください。そして、神さまが私たちを赦してくださいように、私たちもお互いに赦し合うことができますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

「我らに罪を犯す者を我らがゆるすごとく、  
我らの罪をもゆるしたまえ」  
第五の祈りで私たちはどう祈るのか。

## 〈展開例〉

## ①人をゆるせない私たち

何もしていないのにひどいことを言われたり、いじわるをされたりしたらあなたはどうしますか？ その人に苦々しい思いを持たないでいられますか？ いつか私も同じようにしてやる、とひそかに心の中でつぶやいてしまったことはありませんか？ 私たちは自分を傷つけた人のことを、なかなかゆるすことができません。すぐに仕返しすることを考えてしまうのが私たちなのです。

## ②罪をゆるすために

主の祈りは「われらに罪をおかすものを、われらがゆるすごとく」と祈ります。この祈りを本当に祈れる人はいるのでしょうか。

ただ一人、ののしられてもののしり返さず、打たれても憎むことをしなかった人がいます。イエス様です。主はその人たちのために「彼らをおゆるしてください」と祈られました。ただイエス様だけが「われらがゆるすごとく」という祈りを本当に祈ることがおできになります。イエス様は私たちの罪をゆるして下さるために私たちに代わって罪の刑罰を受けてくださいました。ただゆるしを求めてくださっただけでなく、そのためにご自分の血を流されたのです。

## ③ゆるされた罪とゆるせない罪

私たちの罪は神の御子を十字架につけるほど、ゆるしがたいものでした。私の罪はどれほど神様を傷つけてきたことでしょうか。イエス様によってゆるされた罪がどんなに大きなものであったのかがわかってくると、自分がゆるせない罪が小さなものだということがわかってきます。人の罪をゆるせないと言っている人は、他の人の家を壊したのにゆるしてもらった人が、自分のおもちゃの家が壊されたと言ってゆるせずに怒っている人のようです。私たちは比べ物にならないほどの大きな

罪のゆるしを得ているのです。

## ④ゆるさなかつたら、ゆるされないの？

神様は「人をゆるすことができたなら、あなたをゆるしてあげましょう」と言っているのではありません。私たちはゆるされたので、ゆるすことができるのです。自分がゆるされたことを知っている人は、人をゆるさないではいられなくなります。自分がゆるされているしるしは、私たちが他の人をゆるすようになるということです。

## ⑤この祈りをどう祈るべきか

主のあがないによって罪ゆるされ、正しいものと認められた私たちですが、完全に清くなったわけではありません。ですからこう祈りましょう。

あなたが私をゆるしてくださったように私も他の人をゆるします。そのように私の罪をもゆるしてください。

多くの罪をゆるされながら、他人の小さな罪をゆるすことが難しい私たちです。しかし、この祈りを祈り続けるとき、神様はそのように生きるものへと私たちをつくりかえてくださいます。

## 〈クイズ〉

( ) に数字やことばを入れてください。

- (1) 主の祈りはマタイによる福音書6章( )節から13節に書いてあります。
- (2) イエス様はペトロに、兄弟の罪は何回ゆるすべきだとおっしゃいましたか。  
( ) の ( ) 倍→つまり何回でもという意味  
(マタイ18章21～22節)
- (3) 家来が王様にゆるしてもらった借金は、( ) タラントンでしたが、この家来がゆるさなかつた借金は( ) デナリオンでした。1タラントンは6000デナリオンですから、自分の借金の( ) 倍の借金をゆるしてもらったことになりました。  
(マタイ18章23～35節)
- (4) イエス様のことばです。「だれかがあなたの( ) の頬を打つなら( ) の頬をも向けなさい。だれかが( ) ミリオン行くように強いるなら、一緒に( ) ミリオン行きなさい。」(1ミリオンは約1480m) (マタイ5章39～41節)

**【目標】**

十字架によって赦された私たちが、さらに赦していく者となるためにこの祈りが与えられていることを知る。

**①説教を深めるために**

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

**②あらためて御言葉に取り組む**

→主の祈りをあらためて生徒と祈る。

**【ポイント】**

「我らに罪を犯す者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。」この祈りを祈る時に、我らが教す教しが、我等に与えられる教しを左右するという誤った理解をしてしまうのではないか。しかしこの祈りが示す内容は、それとはちょうど逆であり、すなわち我らの教しが神様からの教しの根拠になるのではなく、神様からの教しが先にあり、それが我らを赦す者へと変えるということである。赦された者が、人を赦すことができる。私たちに對する神様の教しと、私たちの隣人への教しには対応関係があり、そこには連鎖があるということが、ここで祈られている事である。この祈りを祈る者は、神様から教しをいただいた者として、その教しの流れを自分のところで堰き止め

てしまってはならない。この祈りを祈りつつ、赦す者としての歩みへと導かれない。イースターに向けて、キリストの十字架の御業に眼差しを向けたい。

**③生徒と一緒に考える**

→まず教師自身にとっての「我らの罪を赦したまえ」を祈ることのできる恵みについて、生徒と分かち合う。

Q. 自分に悪いこと、嫌なことをする人を赦せますか？

Q. 人を赦せるようになるためには、何が必要だと思いますか？ 主イエスが十字架に架かれたのは誰を赦すためですか？

Q. 疑問は解けましたか？

**④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く**

Q. この祈りを祈る時、誰の顔が頭に浮かびますか？ 周りにどうしても赦せないと思うような人がいますか？ ぜひその人のことを心に留めながら、そして主イエスの十字架を思い描きながら、主の祈りを祈って歩んでください。

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト ヨハネによる福音書17章13～19節

**1. 世は彼らを憎みました**

「わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました」(14)。「世」とは、単なる世の中とか、世間という意味ではありません。キリストを認めず、理解することのできないのが「世」です(ヨハネ1:4-5,9-10)。弟子たちも、かつてはそのような不信仰な世に属していました。しかし、伝えられた御言葉を心から受け入れることによって、キリストに属する者となりました。その結果、「世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです」(14)。

**2. 世から取り去ることではなく**

世に憎まれるとは、不信仰な人々から理解されず、時には鋭い反対や迫害を受けることを意味しています。人間の欲望よりも神の御心に従おうとする生き方は、大なり小なり奇妙に見えることでしょう。神に従ってひどい生活をするようになったから理解されないのではなく、「ひどい乱行に加わらなくなったので」、不審に思われ、そしられるのです(ペトロー4:1-4)。世に生きることは、信仰者にとって尽きざる試練の中を歩むようなものです。難しさや苦しさの中で、どこに神の愛と義があるかと尋ね求めて、信仰を試されるからです。

しかし、キリストも、「わたしたちと同様に試練に遭われたのです」(ヘブライ4:15)。そのようにあらゆる試練と人間の弱さをご存知の御方が、次のように祈ってくださいました。「わたしがお願ひするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです」(14)。世の難しさの方にばかり関心をたくましくするならば、心細くなるかもしれません。しかし、「守ってくださる」御方に正しく目を向けるならば、恐れは締め出されるでしょう。この祈りをなされたイエス・キリストと、祈りを聞き上げてくださる父なる神によって、十分な守りが約束されています。

**3. 世に遣わしました**

世がいかに住みにくい場所になったにせよ、世に生きることが弟子たちの使命です。キリストにとって、世に憎まれながらも、世を愛して生きることが使命であったのと同様です。「わたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わしました」(18)。

**4. 聖なる者、ささげられた者として**

信仰に進めば進むほど、不信仰な世に生きることの難しさは増し加わります。しかし、そこで求められているのは、献身的な信仰です。世から憎まれる時、自分で自分の幸いを整えることなどできません。それなのに、「世から取り去られることなく」世に生き続けることは、絶えざる試練です。

イエス様は、弟子たちのために次のように祈ってくださいました。「真理によって、彼らを聖なる者としてください」(17)。「聖なる者」とは何でしょうか。神の御用に用いられるように「自分を清める人」こそ、「聖なるもの」です(テモテニ2:21)。また、礼拝もそのような献身的信仰を求めています(ローマ12:1)。そして、キリストがご自身をささげられたのも、そのためです。「彼らのために、わたしは自分自身をささげます。彼らも真理によってささげられた者となるためです」(19)。このような献身的信仰に生きてこそ、絶えざる試練の中でも、喜んで世を歩むことができるでしょう。たとえ、世から憎まれても、神がその人を大切にしてくださると信じるからです。「わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてください」(ヨハネ12:26)。このような献身的な信仰こそ、苦しみを試練に変え、試練を喜びに変えます。そのような信仰に生きる人々は、試練の中で神の愛を新たに知るでしょう。

(貫洞賢次)

---

## 3月12日 「悪より救い出したまえ」 カテキズム研究

---

カテキズム 子どもカテキズム問84

---

子どもカテキズム

問84 「我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」では、何を祈り願うのですか。

答 罪深い私たちは、神さまの憐れみがなければ、

一瞬でも神さまの子どもとしての祝福に生きることはできませんし、

またサタンも攻撃してくるので、

罪の誘惑から守ってください、罪との戦いに勝てるようにしてください、ということです。

参考教理問答 『ウ小教理』106、『ハイデルベルク』127

### 〈神の守りを願い求める〉

第六の祈りは、自分自身の小ささを知る者の祈りです。

私たちは主イエスを信じる信仰によって歩んでいますが、地上にあってはなお聖化の途上にあり、もろもろの誘惑の中に身を置いています。主のみ霊によって新しくされた人間である一方で、今なお古い罪の人が頭をもたげます。「試み」のうち最も大きなものは、神ではなく自分をあがめる自己中心の思いでしょう。聖書のみ言葉を歪曲し、自分の欲することのために利用しようとするこの誘惑は今なお実に根深く、手ごわいのです。

そのような弱さを自覚する者たちのために、主イエスは第六の祈りを授けてくださったのです。

この祈りは神の恵みの支配のもとにとどまり続けることができるように、信仰によって神にかたく立つことができるように、み言葉に忠実に聞き従うことができるように、神の守りと助けを願い求める祈りです。神の守りと助けがあってはじめて、私たちはこの地上を生きていくことができるのです。

### 〈試練の意味〉

我らを試みにあわせず、と祈りつつ、現実には私たちの歩みにはさまざまな試練があります。では、試練にはどのような意味があるのでしょうか。

神は私たちに試練を与えたもうことによって、私たちが救いの確信へと導き、私たちの信仰を練りきよめ、さらに堅固なものとしてくださいます。試練は聖化のために用いられます。私たちは試練や苦難を通して神のみわざを覚え、神をほめたたえるのです。

そのために第六の祈りがあります。試練によって私たちは自分が神なしでも生きていけるかのように思う思い上がりを砕かれ、み前にへりくだらされます。こうして神は私たちがみもとから離れ去っていかないよう、つなぎとめてくださいます。

そして私たちは自力で試練に立ち向かうのではありません。神に働いていただかなければなりません。第六の祈りは試練の中で神に場所を明け渡すための祈りです。み言葉とみ霊によって神は私たちを守り支えてくださいます。この祈りを祈るとなみの中で、私たちは神こそが私たちの人生の土台であることを確かめるのです。(木下裕也)



テキスト ヨハネによる福音書17章13～19節

カテキズム 子どもカテキズム問84

### 〔単元のねらい〕

子供たちの周りにも罪の誘惑や試練があります。それらを通し、神様の御顔を仰ぎ見ることから子供たちを遠ざけさせようとする悪魔の力が、子供たちの中にある罪と共に働くことがあります。子供たちが、自分の力ではなく神様の力に信頼し、どんな時でも神様を見上げ、神様に救いを求めていくことの大切さを伝えたい。

## 「悪より救い出したまえ」

今日は主の祈りの「我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」です。今日の聖書には、イエスさまが天におられる父なる神さまにお祈りをしている様子が書かれています。その中の15節に「わたしをお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです」とあります。このお祈りは、イエスさまを信じるお弟子さんたちが、世の中の悪いことから守られるようにと祈っている言葉です。ですから、主の祈りにある「我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」と同じお祈りです。イエスさまは、ご自分を信じるお弟子さんたち、そして今、イエスさまを信じている私たちのために、いつもこのようにお祈りして下さっているのです。とっても心強いですね。

でも、なぜイエスさまは、みんながこころみにあうことなく、悪から救われるようにとお祈りされるのでしょうか。なぜイエスさまは、私たちに「こころみにあわせず、悪より救い出したまえ」と祈るよう教えて下さったのでしょうか。そもそも、主の祈りで教えられている「悪より救い出したまえ」というのは、何から救い出してもらおうことなのでしょう。

みなさんは、イエスさまが大人になって伝道を始められる時にどんなことを経験されたか知っていますか。イエスさまは、悪魔から誘惑を受けるという経験をされました。「誘惑」というのは、悪い方に誘うこと、神さまが悲しまれる道に誘うこ

とです。この時イエスさまは、悪魔から「お前が神の子なら、石ころがパンになるように命令してみろ」、「お前が神の子なら、神殿の屋根から飛び降りても死なないだろう、だから飛び降りてみる」、「もし、悪魔であるわたしを拜むなら、世の中の全てのものをお前に与えよう」と誘われました。どの言葉も、天の父なる神さまを忘れさせるように誘う言葉、神さまよりも悪魔のことを信頼するように誘う言葉でした。正しく、愛に満ちている神さまに頼り、神さまが望んでおられる愛と喜びに満ちた人生から悪に満ちた人生に誘う言葉でした。悪魔はこのような言葉を使って、イエスさまを悪の道へと誘おうとしたのです。

なぜ悪魔は、このような言葉を語ったのでしょうか。それは、悪魔の目的が神さまに逆らうことだからです。神さまを信じる者たちを、神さまから引き離そうとする目的を持っているからです。だから、神のみ子であるイエスさまを何とかして誘惑して罪を犯させ、悪に満ちた人生へと導き、天の父なる神さまに信頼して生きることをやめさせようとしたのです。

でもイエスさまは、悪魔の誘惑に負けませんでした。イエスさまは、悪魔に対して「天の父なる神さまの御言葉に従って生きることが大切なんだ」、「神さまに信頼して生きることが大切なんだ」、「神さまだけを拜むことが大切なんだ」と言って、罪を犯すことなくサタンの誘惑に勝利されました。イエスさまも、「悪より救い出したま

え」と熱心に祈りながら、御言葉をしっかりと握りしめて、神さまに信頼する道を歩んだのです。「神さまを信頼せず、神さまを悲しませるような罪に満ちた状況から私たちを助けて下さい」とお願いすることが、「悪より救い出したまえ」というお祈りなのです。

では、私たちはどうでしょう。イエスさまの時と同じように、私たちの周りにも悪魔の誘惑と思えるようなことはありませんか。神さまがお喜びになることよりも神さまが悲しまれる方へ、神さまを信頼して生きるよりも神さまに頼らないで生きる方へ誘う出来事はありますか。神さまのみ言葉である聖書は、私たちに罪があると教えてくれています。私たちはもともと罪人であり、神様に背を向けて生きてしまう心を持っています。私たちは、ちょっとしたことでイライラしたり、お家の人やお友だちとケンカをして傷付けてしまうことがあると思います。神さまは、周りの人たちを心から愛するようにと、素晴らしい人生を教えてください。けれども、神さまが教えてくださいのように、周りの人たちを愛することがなかなか出来ないのが私たちです。

また神さまは、私たちが神さまを心から愛していく人生がとても素晴らしいことだということも教えてください。私たちは、日曜日の礼拝に出席して神さまを賛美し、お祈りし、聖書のみ言葉に聞くことを通して、イエスさまとの愛の交わりをたくさんいただきます。そのような日曜日の礼拝に出席してイエスさまと愛の交わりを持つことが、神さまを愛することになります。でも、日曜日の礼拝に出席すること以上に他のことが大切になってきて、いつの間にか神さまのこと、イエスさまのことを大切に思わなくなってしまうことがないでしょうか。私たちは、自分の力だけで

こうしたことから抜け出すことが出来ません。なぜかと言うと、私たちは罪人だからです。神さまに背を向けて、神様を信頼せず、神さまを愛さない心を持っているからです。

でも、そのような私たちにも希望があります。その希望は、イエスさまが私たちに「悪より救い出したまえ」という主の祈りを教えて下さったことです。更に、悪魔の誘惑に勝利されたイエスさまご自身が、私たち一人一人のために、今もなお天の父なる神さまの隣で、「父なる神さま、教会学校に来ているお友だちみんなを悪から守ってください」とお祈りして下さっていることです。イエスさまは、私たちのことを決して見放したりはしません。悪魔の誘惑を経験され、その全てに勝利されたイエスさまは、私たちの罪を全て赦して下さいのために、救い主として十字架にかかって下さいました。それほど私たちが罪と悲惨から救い出したい、助け出したいと願っておられます。そのイエスさまが、私たちのために「悪から救い出したまえ」というお祈りをして下さり、また私たちにも「神さま、私たちが悪から救い出して下さい」とお祈りするように励まして下さっているのです。

悪魔の誘惑に全て勝利され、罪を犯すことなく救い主としてのお働きを成し遂げ、私たちに生きる希望と喜びを与えて下さったイエスさまの力に信頼し、また期待しながら、イエスさまが教えてくださいました主の祈り、「我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」をイエスさまと一緒に祈りましょう。その時私たちは、いつも神さまのもとに留まることが出来ます。そして、愛の交わりをたくさん頂いて、神さまの祝福の中を生きることが出来るのです。そのために、熱心に祈りましょう。(千ヶ崎基)

---

[今週の暗唱聖句]

マタイによる福音書26章41節

誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていないさい。

心は燃えても、肉体は弱い。

---

## 〈ねらい〉

闇の勢力が確かにあること、自分の力では勝てないことを教える。

## 〈展開例〉

今日も教会学校に来ることが出来てよかったですね。サタンはみんなが教会学校に来ないほうがいいな、と思ってます。神様のことなんか忘れて自分勝手に遊んでいればいいな、と考えています。だからいろいろ作戦をたてます。日曜日の朝、「面白いテレビがあるよ」、「お友達とあそぼうよ」、「もっと寝ていたっていいよ」と心に言って教会学校へ行かせないようにすることがあります。その他にも、「誰も見ていないから」、「すこしくらい」といって悪いことをさせようとするこ

ります。サタンは弱くはありません。私達がんばれば勝てると思うのは間違いです。いつも神様に、サタンに負けないように守ってください、と心から祈りましょう。神様はサタンより強い方ですし、みんなのことを大切に思っていて下さいますから、きっと守ってくださいます。神様に頼ってれば、サタンなんかへいちゃらです。

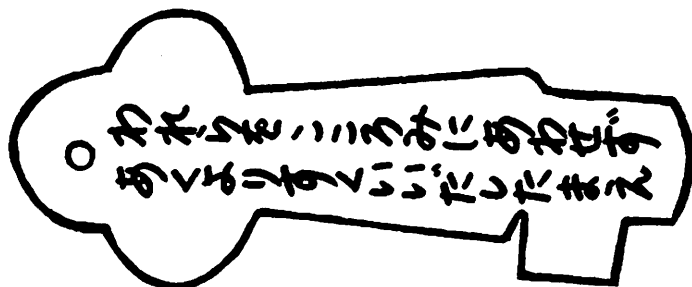
## 〈おいのり〉

天の父なるかみさま、僕達私達は弱くても神様が強いので安心です。いつも側にいてサタンから今週も守ってください。休んでいるお友達も同じようにお守りください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

## 〈やってみよう〉

127ページを参照して準備しましょう。

頌栄に移る前の後半最後の祈りです。「日用の糧……」から今日のところまでの復唱、暗唱をやってみましょう。契約の子とそうでない子がまじっている場合は、主の祈りの覚え方にも差があるでしょうから、どちらにも励ましになるような配慮が必要でしょう。



## 〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ① イエスさまはどこに行こうとしている？（→天の神さまのみもと）
- ② 世が憎む彼らとは？（→イエスさまを信じている人たち）
- ③ イエスさまを信じている人たちは世から出て行くべき？（→出て行くのではなく、悪い者から守られる）
- ④ イエスさまを信じる者は御言葉の真理によってどうされる？（→聖なる者とされ、世に違わされる）
- ⑤ 何のために違わされる？（→イエスさまの真理を伝えるため）

## 〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

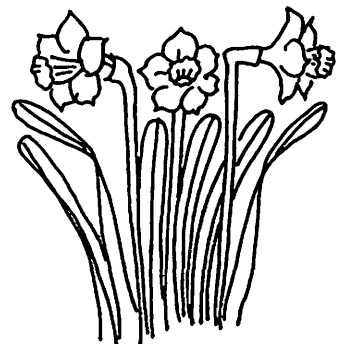
- ① これは主の祈りの何番目のお願い？（→五番目）
- ② 罪を赦された者はもう罪を犯さない？（→犯すことがある）
- ③ 試みとは何？（→罪への誘惑）
- ④ 誰が誘惑する？（→サタン）
- ⑤ サタンと神さまはどっちが強い？（→神さま）

## 〈考えてみよう〉

サタンはとても上手に攻撃してきます。いきなり、「神さまを信じるな」とは言ってきません。「神さまを信じるのもいいけど、他にも楽しいことがあるんじゃないの」というような仕方です。近づいてきます。そのようなささやきに思い当たることはないでしょうか。教会学校よりも楽しいことがあるよと誘ってくる声が身近なところからも聞こえてくることはないでしょうか。そのような声から身を守るために、この主の祈りの第五の願いが大切です。そして、もう一つ大切なのは、御言葉の真理をしっかりと守るということです。蛇がエバを誘惑したときも、「神さまはそんなことを言ったの」（創世記3：1）と言って近づいてきました。聖書をよく読み、御言葉の真理をしっかりと守ることこそ、自分自身を悪い者から守るための大切な手段です。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。弱い私たちをお守りください。御言葉をしっかりと学んで、神さまに心から従うことができますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

「我らを試みにあわせず悪より救い出されたまえ」  
第六の祈りで私たちはどう祈るのか。

## 〈展開例〉

## ①「悪より救い出されたまえ」の悪とは？

悪しきものとは悪魔とその働きのことです。サタンとも呼ばれています。悪魔の仕事は人間に罪を犯させ、神様から離れさせることです。悪魔は獲物をねらうオオカミのようにいつも私たちを狙っています。

## ②試みとは？

試みには神様からくる「試練」と、悪魔からくる「誘惑」の2つの種類があります。試練は信仰を訓練し、成長させるものです。しかし誘惑は罪を犯させ、神様との交わりを失わせます。神様が試練をお与えになるのは、私たちに謙遜を学ばせるためです。キリストにだけ頼むものとさせるためです。しかし悪魔は、神を信じる者に罪を犯させるためにこっそりと近づいてきます。

主の祈りの「試み」とは悪魔からくる誘惑のことです。私たちはこの誘惑にあうことがないようにと祈り求めるのです。

## ③どうしたら誘惑に勝つことができるでしょうか

悪魔は甘い言葉で私たちにささやきかけます。「いらっしゃい、悪いことをしましょう」ではなく、「いらっしゃい、おもしろいこと、素晴らしいことを教えてあげましょう」と近づいてきます。激しい誘惑もあれば、甘い生ぬるい誘惑もあります。突然やってくる誘惑もあれば、知らないうちにゆっくりとやってくる誘惑もあります。悪魔の賢さと力は人間以上のものです。もし自分の力だけで戦おうとするなら、簡単に倒れてしまいます。

イエス様が私たちの代わりに戦ってくださらなければ、私たちに勝ち目はありません。悪魔に勝たれたイエス様にしっかりとつながっていること、これより大きな武器はありません。

## ④誘惑をさけるには

誘惑されるようなところに近づかないことです。「誘惑からお守りください」と祈りながら、すぐ

後で、誘惑されそうな場所や物に喜んで近づいたら、この祈りはかなえられないでしょう。

自分を神様から離すものが何なのか、自分はどんなものに弱いのかを考えてみましょう。そしてどうしたらそれを楽しむことから離れられるかを考えましょう。

## ⑤誘惑に負けそうになったら……

誘惑を完全にさけることは難しいことです。しかし、私たちには、世と悪の力に打ち勝たれたイエス様がいてくださいます。

イエス様はおっしゃいました。「あなたがたはこの世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ福音書16章33節)

このイエス様により頼んで、「悪より救い出されたまえ」と祈りましょう。

## 〈ビンゴゲーム〉

		悪		

- (1) 紙に5行×5列のます目を書く。一人に1枚ずつ紙を配って、各自が表をつくる。
- (2) 真中に悪の漢字を書く。
- (3) 生徒に、残りのます目に「われらをこころみにあわせずよりすくいだしたまえ」の24文字をひらがなで書いてもらう。文字がばらばらになるように書く。
- (4) これらの文字(悪を含む25文字)を1枚に1文字ずつ書いた紙(25枚)を用意する。
- (5) その紙を折り曲げてくじのようにして、箱などに入れる。
- (6) 教師がその箱から1枚ずつ取り出して読む。
- (7) 生徒が自分の表の読まれた中の文字を○で囲む。縦か横か斜めに5文字そろってビンゴ。

**【目標】**

勝利者であられる神様が、私たちと共に悪と戦ってくださることの恵みを知る。

**①説教を深めるために**

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

**②あらためて御言葉に取り組む**

→主の祈りをあらためて生徒と祈る。

**【ポイント】**

主イエスは既に、私たちのために悪に勝利された。この祈りは悪への勝利者主イエスが、私たちに与えてくださった祈りである。悪を滅ぼされ、死の力に打ち勝たれたキリストにあって、私たちを囲む悪は克服可能である。悪は最終的にはキリストの救いに勝利し得ないという事実を支えられて、私たちは勝利者の側に立ってこの祈りを祈るのである。たとえ誘惑に抵抗できずに、それに陥ってしまった時にも、主イエスが、罪に落ちた私たち人間を、罪から救い出すために来られた故に、私たちは諦めてはならない。私たちはキリス

トによって救っていただける。キリストの勝利に属する者として、わたしたちは主の御霊の助けの中を歩むのである。

**③生徒と一緒に考える**

→まず教師自身にとっての「悪より救い出したまえ」を祈ることのできる恵みについて、生徒と分かち合う。

Q. なぜ悪から救われる必要があるのでしょうか？

Q. 私たちの力で悪に勝てるでしょうか？

Q. 私たちではなく神様が、「悪より救い出してください」ことが、恵みであり力強いのはなぜでしょう？

Q. 疑問は解けましたか？

**④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く**

Q. この祈りを祈る時、どんな試み、試練、自分に対する悪が頭に浮かびますか？

Q. これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト ヨハネの黙示録5章11～14節

### (1) 宇宙的礼拝における小羊の即位

ヨハネが幻のなかで天に引き上げられて、そこで見た壮大な宇宙的礼拝の場面が4章から5章へと続きます。ここで起こっているのは十字架におかかりになったキリストが、父なる神の王座に進み出て、その右の手から巻物を受けとるといふ、いわば王子の即位式です。これは教会の教理では「着座」といい、使徒信条は「全能の神の右に座したまえり」と告白しています。「神の右に座す」というのは古代の王の振る舞いに似せた比喩的な表現で、王が自分の権威を委ねて王子や大臣に国の政治を任せるときに、王の右の座に着かせたことに由来します。イエス・キリストもそのように、全能の神の右の座に着かれて、神の救いの計画を行うために、神に代わって世界を治めます。今や、世界を裁く権威がキリストに委ねられたのです。この天上の礼拝の幻は、これから始まる「最後の審判」の導入にあたります。また終わりに至って20章以下で、神と小羊がともに玉座についている様子が、天上の礼拝の光景と一緒に記されます(エフェソ1章20節以下も参照)。

私たちが知らされているのは、まったく知らない天の権力者ではありません。福音書を通して語られて来た、いつも弟子たちや貧しい者と共におられた、あのイエスを思い起こしてよいのです。御自分から命を棄てるほどに世を愛されて、私たちを友とよび、兄弟姉妹といただく方が、神の支配を行われます。ここでのイエス・キリストは、その名でもって呼ばれずに、「小羊」と言われます。この表現はヨハネ福音書に親しいものですが、神殿での礼拝でささげられた犠牲の小羊を表します。特に、逾越祭のときに命の犠牲として捧げられる小羊を指します。獅子と呼ばれる方(5)が、同時に「小羊」なのです。しかも「屠られた小羊」です。イエスが受けておられる栄光は、全能者の右に座しておられる「高い状態」にある栄光ですが、それはあくまで「屠られた小羊」の栄光、神の愛が輝き出でた十字架のキリストの栄

光です。十字架は人の目からすれば決定的な敗北ですが、神の基準は他にあります。罪深い人間を愛し抜くことによって、自分を身代わりに差し出すことで、神の心と一致したキリストが、地上で唯一の勝利者となられたのです。

### (2) イエスの栄光と万物の礼拝

小羊・イエス・キリストの即位を受けて、天上の生き物たちはこぞって賛歌を捧げます。この新しい歌は、新しい民の救いを歌います。もはや民族の壁は打ち破られて、あらゆる言葉を話す人々が小羊によって贖われて神に仕え、神の国の実現を歌います。ヨハネがここで見たのは、イエスが権威をもって終わりの時を始められたという歴史の転換点です。終末はイエスが十字架と復活を通して受けられた栄光とともに、既に始まっています。それは、人には知ることでできなかった神の御旨が明らかにされて、神の言葉が人の心に働きかけ、信仰を生み出すという事態によって、神の国が実現していく過程です。11節以下に続く天使の軍勢と全被造物による頌詠は、その行く末を先取りした礼拝の姿です。キリストにおいて御自身を顕された神が、その救いの御業ゆえに、あらゆる賞賛の言葉をもってほめたたえられます。人間の力による支配が終わりを告げ、屠られた小羊が真の正義と愛をもって地を裁かれる。正義が見失われた時代にあって、この終わりの幻は、キリストの勝利という結末を明らかにします。キリストを標榜する地上の権力が支配権を握ることはありません。キリストの言葉が、人の心の罪、或いは悪を滅ぼして、終わりをもたらすことが終わりの始まりです。それは「悔い改め」として起こり、「回心」を導きます。そして私たちの生活を通して、また礼拝を通して、終わりの頌詠を歌い続けることが私たちにおいて今起こっている終末です。ヨハネが見た、天上の礼拝の内に私たちの居場所が用意されていること信じるならば、私たちはその終わりを基準にして、罪と闘い、今を生き抜くことができるのです。(牧野信成)

## カテキズム 子どもカテキズム問85

## 子どもカテキズム

問85 「国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン」という結びの言葉は、何を意味していますか。

答 私たちの神さまが、必ず勝利し、このお祈りをかなえてくださる力ある神さまであることを、喜びと感謝、信仰をもって言い表すのです。(一部分)

参考教理問答 『ウ小教理』107、『ハイデルベルク』128

## 〈神の頌栄を祈る祈り〉

主の祈りの最後は、頌栄、神をほめたたえる賛美でしめくられます。主の祈りが賛美をもって閉じられ、祈り終えられることは、私たちの祈りを再考させます。主の祈りは礼拝で始まり、執り成しが続き、賛美に終わります。その間には、私たちの生活を浮き彫りにし、ドロドロとした罪の現実を浮かび上がらせる祈りが祈られました。日毎の糧、罪の赦し、試みからの救い、どれをとっても私たちの生の現実、ありのままの姿をかいま見させる生々しい祈りでした。しかしそういった信仰の戦いを直視しながら、最後に賛美で終わるとは、一体どういうことでしょうか。厳しい現実の中で、どうして神に賛美など捧げられることができるのでしょうか。その鍵はこの賛美自身の中にあります。

新改訳では「国と力と栄えはとこしえにあなたのものだからです」となっています。この「だからです」という言葉が大切です。それは理由、根拠を表します。ここに主の祈り全体の根拠が示されています。この賛美は主の祈り、いや祈りそのものの土台、根拠なのです。私たちはそれぞれに信仰の戦いの中で、神に祈ります。時として疑い、時としてつまずき、時として悲しみの中で、絶望に捕らわれながら、神に祈るのです。私たちを取り巻いているのは、主の祈りとはまるで別の世界です。祈りを否定し、祈ったって何になるのかと問いかけられる世界であり、私たちはその中でしばしば祈りから引き離されてしまうのです。神の国も神の力も神の栄えも、少しも見えない世界で

す。しかしそのただ中で祈るのです。何故祈るのか、それはみ国も力も栄えも、実はみな神のものだからです。悪の支配がすべてを牛耳っているように見えるこの世界が、実は神ご自身のものだからです。そして神はご自身のものとして、この世界をみ国とするために、み心を行っておられ、神はご自身のものとして、この世界を支配しておられる。それを信じて告白するのです。賛美とは、まさに神への信仰の告白にほかなりません。

同時に、この賛美をもって私たちは、自分の無力さをも自覚し告白します。今祈っている私たちは、この問題を乗り越えていく力がない、だから祈ります。私たちは無力だが、この方にはすべてがあるからです。神よ、あなたにはみ国もみ力もみ栄えもある、この祈りに応えてくださる力を持っておられる、だから信じて祈ります。お与えください。私たちは無力です。だから祈っています。満たしてください。私たちが主の祈りを祈れるのは、神がこのような神だからです。その神に依り頼んで、私たちは祈ります。自分自身に依り頼むのではなく、神にです。こうして主の祈りは、この賛美にいたって、祈りを終えるのではなく、祈りを始めるのです。ここから私たちは祈り始め、祈り直していくのです。国と力と栄光とを豊かにもちたもう全能の神を仰ぎながら、祈るのです。この結びがわたしたちに教えている事は、「わたしたちが祈禱における励ましを神だけから受けるということ、また祈禱において、神に国と力と栄光とを帰して神を賛美すること」です。

(三川栄二)



テキスト ヨハネの黙示録5章11～14節  
カテキズム 子どもカテキズム問85

### 〔単元のねらい〕

私たちが祈りをささげる御方がその祈りを聞き届ける力を持った御方であり、また私たちがささげる賛美を受けるのにふさわしい御方であることをあらためて確かめる。と同時に、この御方の栄光が完全に実現する日を私たちが待ち望む者であることを確かめる。「小羊」と「玉座に座られる方」を意図的に区別していない点に注意して下さい。理解力が伴うのであれば、丁寧に区別して話した方がより望ましいです。

## 「全ての上に立つお方」

### 〈導入〉ヨハネの黙示録の背景説明

皆さんおはようございます。今日は、ヨハネの黙示録のお話をします。ヨハネという名前の人は、聖書に幾人か出てその中でも特に有名なのは、十二弟子の一人、ゼベダイの子ヨハネだろうと思います。その十二弟子のヨハネが、この「ヨハネによる黙示録」も書いたと言う人も居るのですが、ヨハネという名前はそんなに変わった名前ではありませんので、違う人であるかもしれません。どちらにしても、イエス様のことを良く知っていて、イエス様についてあちこちの教会に教えて歩いていた人であったと思われます。そのヨハネは、イエス様のことを色んな人にお話しているうちに、捕まえられてしまいました。そして、地中海にあるパトモスという島に流されてしまいました。その頃は、イエス様のことを信じているというだけで捕まって牢屋に入れられたり、殺されてしまったりした時代だったんです。

あちらこちらの町に教会は出来ていたのですが、どこの教会もみな、王様や支配者たちによって苦しめられてまいりました。あまりにも苦しいので、せっかくイエス様を信じるようになった人たちがイエス様を信じるのを止めてしまうようなこともあったようです。

そこで神様は、苦しんでいる教会を助けて励ますために、大切な教をパトモス島にいるヨハネに教えてくださいました。それは幻として、つま

りまるで実際にそのまま目の前にあるかのようにヨハネに教えられたのです。ヨハネはその様子を手紙にまとめ、苦しんでいる教会に宛てて送りました。それがこのヨハネの黙示録なのです。

### 〈展開1〉私たちの世界のすべての秩序の上に主が立つ事を確認する

ヨハネは、色々な幻を見たのですが、今日のところでは、小羊の幻を見ております。その小羊は、ただの羊ではなく「屠られたような小羊」、つまり血を流し肉を切られた羊でした。またその羊は「七つの角と七つの目があつた(5:6)」と言われております。これは一体誰でしょう。まるでクイズのようですが、聖書をよく読んでいる人たちは、すぐ判ると思います。これは、私たちのイエス様のことです。(参考：イザヤ書53:7、使徒言行録8:32～35)

イエス様がいらっしゃると、何千何万という天使たちが賛美の声を挙げます「屠られた小羊は、／力、富、知恵、威力、／誉れ、栄光、そして賛美を／受けるにふさわしい方です」。そして、すべての生き物が父なる神様とイエス様を誉め称えます「玉座に座っておられる方と小羊とに、／賛美、誉れ、栄光、そして権力が、／世々限りなくありますように」。「天と地と地の下と海にいるすべての被造物」ですから、とにかくこの世界のすべての生き物が神様を称えるのです。

今、教会を苦しめている王様の力も、その富も、知恵も、威力も、誉れや栄光や権力も、それらはそもそも全てイエス様のものである。イエス様こそ、本当にそれらを受けるのにふさわしい御方であるのです。

王様に苦しめられていた教会は、自分たちの教会が小さくて弱くて、王様の大きな力の前では何も出来ない者であるかのように感じたかもしれません。けれども実は、そんな力も権威も栄光も、みんなみんな本当はイエス様のものであるのです。そして、私たちは皆そのイエス様を信じて、イエス様によって、イエス様と一緒に、父なる神様の子となっているのです。

## 〈展開2〉すべてを越える御方であるからこそ私たちは祈る

このようにイエス様が、今まさに天の父なる神様の右に座して下されることを、私たちは使徒信条でいつも告白しております。「天に昇り、父なる神の右に座したまえり」という個所です。イエス様は、十字架から復活して、天に帰られて、今はまさに父なる神の右に座しておられます。しかしそれはただ座しているだけでそれでおしまいではありません。父の右に座しているということはつまり、ここで言われておりますような賛美を受けるお方として、与えられている力と威力と栄光と権力をもって、私たちを支配して下さることなのです。

そして、実はこのような権威と力と栄光を持ったお方であるからこそ、私たちはその神様にお祈りすることが出来るのです。考えてみればそうでしょう。もし私たちが、誰かからいじめられて助けを求める時、弱い人に助けを求めても助けてもらえません。もっと強い方に助けを求めてはじ

めて助けてもらえます。何かお願いをする時、そのお願いを実現できる方をお願いするのでなければ意味がありません。

私たちが父なる神様にお祈りをし、色々なお願いをしたり、特に助けてくれるように求めたりするのは、そうすることが出来るのは、神様が、他の誰よりも高い権威を持ち、誰よりも強い力を持ち、誰よりも輝く栄光を持っておられる。というよりも、どんな権威も力も栄光も、すべて元々は神様のものであるのだからなのです。

## 〈展開3〉その御国がなるように祈るのが私たちの務め

そういうわけですから、私たちはお祈りをするたびに、ヨハネが見た幻の中で全ての生き物が賛美していたように、神様の権威と力と栄光を賛美するのです。この賛美は、私たちがお祈りをささげる神様がまさにその私たちのお祈りをお聞きあげ下さるお方であることの証拠となるのです。

それと同時に、私たちは、今本当に神様の権威と力と栄光を信じ、告白しているとしても、今の世の中では、ヨハネが見た幻のように「天と地と地の下の海にいる全ての被造物」が神様を賛美するということまでなっていないことは事実です。ですから私たちは、祈るたびに、いつも祈るたびに、毎回毎回、このヨハネの幻のように、全てのものが神様の栄光を認めて、神様の素晴らしさを認めて、神様を賛美することが出来るようにと祈るのです。

毎日毎日、毎回毎回、私たちがお祈りするたびに、私たちがお祈りするお方が全ての力の源、全てを治めるお方であることを確かめ、ますますその栄光が高められますように、お祈りして参りましょう。  
(長田詠喜)

〔今週の暗唱聖句〕 ヨハネの黙示録5章13節

玉座に座っておられる方と小羊とに、

賛美、誉れ、栄光、そして権力が、世々限りなくありますように。

〈ねらい〉

祈りが力を帯びるのは、力と栄光の源であるこのお方への祈りだから。否定的な言葉に取り囲まれているかも知れない子供達が、力と確信を持って祈れるように導こう。

〈展開例〉

お祈りしている時、なんだか独り言を言ってるように思ったことはありませんか。「お祈りしてもしなくても同じじゃないかなあ」、と思ったことは？「私なんかあまりいい子じゃないから神様はお祈り聞いてくれないかもしれない」とか。「神様だってこんなことは出来ないだろうなあ」とか。今日のお祈りを聞くと、そんな気持ちが全部

間違いだとわかります。僕達私達がお祈りしている方は、ただ優しい親切なだけのお方ではありません。全宇宙で一番力と素晴らしさを持っているお方です。宇宙を造り、私達の命を造り、私達を誰よりも大切に思っていてくださるお方にお祈りしているんです。安心して、心を込めて、力強くお祈りしましょう。

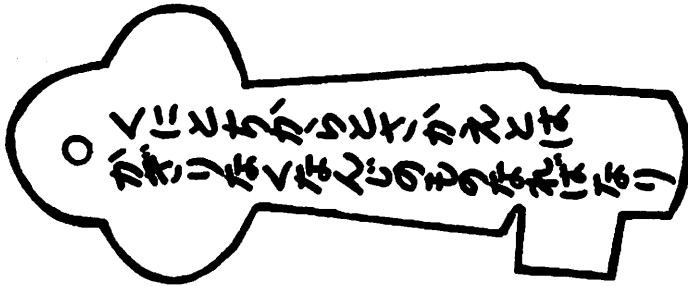
〈おいのり〉

天の父なるかみさま、神様が誰よりも強く、誰よりも素晴らしいお方だと知って嬉しくなりました。今週もずっと一緒にいてお守りください。イエスさまのお名前によって、アーメン。

〈やってみよう〉

127ページを参照して準備しましょう。

今週分が完成したら、カードを始めからめくり、主の祈りの教えを簡単におさらいします。一枚を一言くらいで説明できるよう、準備をしておきましょう。



## 〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ①玉座の周りには多くの何があった？(→天使)
- ②天使は何をしていた？(→屠られた小羊を賛美していた)
- ③屠られた小羊とは誰のこと？(→イエスさま)
- ④屠られたとはどういうこと？(→十字架にかけられたということ)
- ⑤天使だけが賛美していた？(→すべての被造物が賛美していた)

## 〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

- ①主の祈りにはいくつの願いがあった？(→六つ)
- ②前の三つで何を願った？(→神さまの栄光)
- ③後の三つで何を願った？(→私たちの必要)
- ④神さまはいくつの願いをかなえてくださる？  
(→すべての願い)
- ⑤私たちは疑いながら祈る？(→喜びと感謝をもって祈る)

## 〈考えてみよう〉

これまでお祈りについて学んできました。実際にお祈りの仕方が変わってきたでしょうか。何を、どのようにお願いしたらいいか、少しずつ分かってきたと思います。ただ自分の必要なものばかりを祈るのではなく、神さまの栄光が表されることを求めて祈らなければいけません。また、食べる物のことだけでなく、罪の赦しを求めて祈らなければなりません。主の祈りの内容を思い出しながら、今どんなふうにお祈っているか考えてみましょう。そして、祈りは、ただお願いをするばかりではありません。最後に頌栄と呼ばれる神さまをほめたたえる言葉があります。これは、私たちの願いをかなえてくださる力ある神さまをほめたたえる祈りの言葉です。必要を求めるとお祈りのお祈りに加えて、最後に神さまをほめたたえる祈りをしましょう。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。私たちの祈りをいつも聞いてくださってありがとうございます。すばらしい神さまのお名前が、いつまでもほめたたえられますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



イエスさまは、ほんとに、私の事が  
好きなのね。●

## 〈学びのポイント〉

「国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり」

主の祈りは賛美で終わる。

## 〈展開例〉

## ①主の祈りは賛美で始まり、賛美で終わる

御名があがめられますようにという賛美から始まった主の祈りは、「国と力と栄えとは、限りなく、なんじのものなればなり」という賛美で終わります。賛美は祈りになくてはならないもの、最もふさわしいものだからです。

## ②すべては神様のもの

この世の中には正しくないこと、悲しいことがたくさんあります。まるで悪がこの世を支配しているかのような出来事が続いています。しかし、主の祈りの最後で私たちがもう一度確認しなければならぬことは、すべては神様のものだという事です。そしてやがて来る御国においては、イエス様が王としてすべてのものからあがめられ、完全に神様の支配が与えられます。そのとき本当の意味で、国と力と栄えが神様だけのものとなります。今、立っている場所からではなく、世の終わりに与えられる神の国からこの世界を見るのです。するとすべてのものは限りなく神様のものであることがはっきりとわかってきます。

## ③すべては神のもの……自分のものではない

すべての栄光は神様のものです。しかし、私たちの心の中には、まず自分の栄光を求める思いがあります。自分の才能、能力が認められること、自分がほめられることが大好きです。しかし、私の才能、私の健康、私の家族……どれもみな神様が私に与えてくださったものです。神様の栄光をあらわすために与えられたものです。私たちの祈りがかなえられないのは、それを自分のために求めているからです。

すべてはあなたのものですよと、神様にひざまずきましょう。そのとき、あなたの祈りは聞かれ、

神様に用いられる人となることができます。

## ④礼拝にふさわしい祈り

「国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり」は神様の栄光を求める祈りです。

この祈りは、神様の栄光をあらわして生きるようにと、私たちを押し出します。神様の栄光をあらわすとは神様を礼拝して生きるということです。

主の日の礼拝で、教会学校で、学びの会で主の祈りがささげられます。一人で主の祈りを祈ることも大切ですが、みんなで声を合わせて共に祈ることは、主の祈りにふさわしい祈り方です。

一つ一つの意味を考えながら、味わいながら共に祈りましょう。

## 〈賛美の豊かさを味わおう〉

神様を賛美する方法はどんなものがあるでしょうか。歌によって、写真によって、絵を描くことによって、詩を書くことによって……いろいろな方法があります。

音楽……バッハ、ヘンデル、ゴスペル、クリスチャンシンガー、アーティストの歌や演奏など  
リビングブレイズ、ブレイズワールドなど  
絵画と詩……星野富弘さんの本、絵葉書など  
絵……浅井力也君の絵など  
詩……八木重吉、水野源三さんの詩集など  
写真集……大地の讃美（松浦忠孝写真集）など  
その他……ブレイズダンス、手話讃美、合唱、パイプオルガンなど

いっしょに聞いたり、見たり、感想を発表したりしてみてください。

自分で歌ったり、踊ったりしてもいいですね。讃美する人たちの信仰がわかるものがあれば、一緒に味わいましょう。

あなたはどんな方法で主を賛美しますか？  
この祈りを祈りながら賛美できるとすばらしいですね。

**【目標】**

神様をたたえて感謝することが祈りの結論であり本質であることを知る。

**①説教を深めるために**

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

**②あらためて御言葉に取り組む**

→主の祈りをあらためて生徒と祈る。

**【ポイント】**

この祈りは、全てのことを実現させてくださるのは、ただ神様のみだという教会の告白である。私たちは、これまで学んできた主の祈りを神様に祈りながらそれぞれの歩みを進めていくが、けれどもそこにどんなに大きな自分の頑張りがあったとしても、「最後にそれを実現されるのは神である」。「神の力こそが、全てのことを為したもう」ということを知っている。私たちは神様からどんどん遠ざかっていくかのようなこの日本の国の中で、しかし「この国は究極的には神様のものなのだ」と確信して、この力のない自分が、時に何か素晴らしいことを為すことができた時にも、その

力は自分の力ではなく神様が、神様の力によって自分を用いて、為してくださったことなのだと思われながら、そして自分の栄光を私たちは追いかける者から、神様の栄光のために生きる者に変えられて、この祈りを歩むのである。

**③生徒と一緒に考える**

→まず教師自身にとっての「国と力と栄えとは、かぎりなく、なんじのものなればなり」を祈ることのできる恵みについて、生徒と分かち合う。

Q. 主の祈りは、最後に何を願っているのでしょうか？

Q. ここに示されている神様の力は、どんなお力ですか？

Q. 神様の素晴らしい栄光を願うことと、自分の必要を願うことは矛盾するのでしょうか？

Q. 疑問は解けましたか？

**④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く**

Q. 日常のどんな事柄も、神様の国と力と栄光の中にあります。これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

テキスト ヨハネの黙示録3章14節

小アジアに展開する七つの教会に向けて、主イエスが言葉を語られます。ヨハネはイエスの言葉を幻を通して受け取り、それぞれの教会に書き送るよう命じられました。「ラオディキア教会」はその最後の一つで、「天使」とは、その教会の守護天使もしくは教会の監督を指すものと思われます。天におられる勝利の小羊キリストが、間もなく権威を帯びてやって来られる。終末の時に必要な備えをするように、イエスはヨハネを通じて教会を励ましておられます。「七つ」は完全を表しますから、それぞれに具体的な名前が挙げられていますが、教会の全体を指しています。時代を越えて、今の私たちにも呼びかける神の言葉です。

### (1) キリストの御名

教会へ送られる手紙には、ある一定の形式が与えられていて、冒頭に主イエスの御名が掲げられます(1章17,18節、2章1,8,12,18節、3章1,7節参照)。神の本当の名は一つですが(「主 YHWH」、出エジプト記3章14節参照)、旧約聖書の神には他にも多くの称号が捧げられていて、それぞれが神の尊い御性質(属性)を表します。ですから、多くの名をもつ神には豊かな働きがあり、それを私たちは「全能」と呼びます。神の全能は決して「なんでもできる」という単純なことではなく、神の力を知った民がその時々の特徴の救いの中からほめたたえることばを見出したときに、神の全能は一つずつ適当な表現を増やしてゆくのです。

黙示録で幾つものキリストの御名が啓示されるのは、それを通して万物を支配しておられるキリストの主権が現れるためです。神の右にある王座に着かれたキリストは、父なる神のもっておられた称号をも受け継いで、豊かな言葉でご自身を表現されます。

### (2) 「アーメン」であるキリスト

ラオディキアの兄弟姉妹たちに示されたキリストの名は三つ、ないし四つです。「アーメン」「誠

実で真実な証人」「神の創造の根源」。二番目のものを二つに分けて、「証人」「誠実と真実」とすることも可能です。そして、「アーメン」「証人」「誠実と真実」のどれにも共通するのは、「確かである」ということです。後の二つは、「アーメン」というヘブライ語の翻訳とみなすこともできます。

「アーメン」という言葉は、旧約聖書が記されたヘブライ語(もしくはアラム語)の表現で、「まさしく、その通り!」と相手に対する同意を表します。それが、詩編の例が示すように礼拝用語になり、祈りの言葉に対する会衆の同意を表し、その祈りを聞き上げてくださる神への信頼を表す言葉となりました。「アーメン」という語が本来担っている意味は、まさに「信頼」です。旧約聖書の時代から、信仰者たちは祈りの終りに「アーメン」と唱えて、神に信頼して、すべての願いを託したのです。古いヘブライ語のかたちを残したまま、異邦人教会がこの古い言葉を受け継いだのは、彼らが信仰をもった初めから「アーメン」と祈ってきたからでしょう。つまり、神の民のアーメンは、旧約のイスラエルから私たちに至るまで途絶えたことのない祈りの言葉なのです。イザヤ書65章16節では、この「アーメン」が神の名として記されています。「この地で祝福される人は、真実の神によって祝福され、この地で誓う人は真実の神によって誓う。」「真実の」と翻訳されていますが、これは「アーメンの神」とあるところです。神はご自身の約束に対して「真実」であって嘘は言わない。約束を「誠実」に果たし、ご自身から「証人」となられる。イエス・キリストが世に来られた時、人はそこに救いの約束を果たされた神の真実を見ます。キリストは、神の私たちに対するアーメンであり、私たちの神に対するアーメンとなってくださった方です。私たちは祈るたびにアーメンと唱えて、実にキリストの名を呼んでいるのです。そして、その名において、キリストは私たちの祈りを執り成し続けて下さいます。

(牧野信成)

## カテキズム 子どもカテキズム問85

## 子どもカテキズム

問85 「国とカと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン」という結びの言葉は、何を意味していますか。

答 「アーメン」とは、ただイエスさまの真実に支えられて、私も真実にお祈りすることができる、ということです。

ですから、私たちは、お祈りの最後に、

「主イエスさまの御名によって、アーメン」と申し上げます。(一部分)

参考教理問答 『ウ小教理』104、『ハイデルベルク』129

## 〈アーメンと祈る意味〉

私たちは、いつも祈りの最後にアーメンと祈ります。それは一体どういう意味でしょうか。それは「真実です。確かです。そのとおりです」という意味です。祈りの終わりにそう唱えるのは、今の祈りは祈ったとおりです。私たちも同じ思いで祈りましたということです。それはいわば自分たちの祈りにハンコを押すようなものです。自分で自分の祈りにお墨付きを与える。しかしそこで問われることは、私たちははたしてそれが本当にそう言えるか、そうできるかということです。自分で自分の祈りを確かとすることができるのか、そう問われたら、口をつぐまざるをえないのです。私たちは、自分で自分の祈りを確かなものにするなどできないからです。私たちはいつも自分の不確かさのうちに立っています。あるいは、少なくとも今の私の祈りは真実な祈りだ、私の心からの思いだということかもしれません。しかし私たちに本当に真実な祈りなどあるでしょうか。本当に純粋に汚れない思いで真実に、真剣に祈っているかと問われたら、必ずしもそうではないことを自覚せざるを得ません。私たちの祈りは、祈っている最中でもあれこれ思い迷い、別のことに心を向けており、また不純な動機、自己中心な思いからする祈りが多いのです。とてもその祈りを、確かです、真実ですということはできない。そして私たちはいつも祈りにおいて、自分の不確かさのうちに立ちすくんでしまうのです。

ハイデルベルク問答はこう語ります。「私がか

の中で感じているよりもはるかに確実に、私の祈りはこの方に聞かれている」。そうです。たしかに私たちの祈り自体はあやふやで不確かなものに過ぎません。とても確かです、真実ですと、自分で太鼓判を押すことなどできません。ですからその自分の祈りが本当に神に聞かれているのか心もとなくなってきました。しかしそこで問答は言うのです。私がお祈りするようなあやふやに不安に駆られながら祈る祈りを、しかし神は確かに聞いてくださっている、私が思う以上の、考える以上の、いや信じている以上の確かさで聞いてくださっているのだと。アーメンとはそういう意味なのです。それは自分で自分の祈りを確かにするものではない、そうではなくそれを確かなものに、アーメンとしてくださる方がおられるのです。私たちのアーメンは、いわばその方のアーメンに包まれている、支えられている。そしてその方のアーメンによって、アーメンとされるのです。私たちが自分の祈りをアーメンと閉じるとき、この祈りはあやふやで不純で、不確かな祈りに過ぎないけれど、それを確かなものとしてくださる方がおられ、それは確かに神に聞き届けられている、そしてこの祈りはこの方によってアーメンとされていることを信じるのです。そう信じて祈ることができる、それがアーメンということなのです。私たちは不真実でも、ご自分を否むことができないこの方は真実であり、この方によって神の約束はアーメンとなる(コリント二1:18-21、テモテ二2:13)。それがアーメンと祈る意味なのです。(三川栄二)



テキスト ヨハネの黙示録3章14節  
カテキズム 子どもカテキズム問85

### (単元のねらい)

祈りに必ず付けられる言葉である「アーメン」の意味を知り、私たちが私たちの心の底からの真実をもって祈るべきこと、祈りを通して神様に全てを委ねる姿勢について学ぶ。また、主の祈り全体のまどめとして、私たちが常に祈りを離すことなく歩むべきことを確かめる。「アーメンである方」＝「主イエス・キリスト」と「祈りの対象」＝「父なる神」を意図的に区別していない点に注意すること。

## 「アーメンである方」

### 〈導入〉教会といえば「アーメン」

皆さんおはようございます。今日は、先週と同じ、ヨハネの黙示録のお話をします。

今日読んでいただいた箇所は、とても短い箇所でした。この箇所は、ヨハネが、この黙示録を送った七つの教会に、まず最初の挨拶をしている箇所ですが、ちょっと面白い言葉が出てきたのに気がつきませんでしたか？

教会に書き送る言葉の最初に「アーメンである方」というのが出てきました。アーメンという言葉は、教会ではいつもいつも口にされる言葉です。教会といえば、クリスチャンといえば、「アーメンだ」と言われるくらい、アーメンというのは教会の言葉としてよく知られた言葉です。特に、お祈りをささげる時、その一番最後に、みんなで声をあわせて「アーメン」と言います。この言葉は、教会で本当にみんなに使われ、大切にされてきた言葉なのです。でも、普通私たちは、お祈りの最後や讃美歌の最後に「アーメン」と言うことがあっても「アーメンである」という言い方はしません。ところが、この呼び方には大切な意味が込められているのです。そこで今日は、この「アーメンである方」とは一体何のことなのか、考えてみたいと思います。

### 〈展開1〉「アーメン」は「真実」という意味

「アーメン」という言葉の意味について聞いたことがありますか？ もしかすると、教会で昔

勉強したのを覚えている子が居るかもしれません。みんな、何かお祈りの最後の合図のように、「あー長いお祈りがようやく終わった」とほっとしながら、「アーメン、アーメン」と言っているのではないですか？

実は、「アーメン」というのは、イエス様の国の言葉です。その意味は「本当」とか「真実」とか「その通り」という意味です。

ですから、みんながお祈りをする時に、最後に「アーメン」というのは、「今お祈りしたことは本当のことで、その通りです」と言っているんです。例えば「今日はみんなでお祈りが出来てありがとうございます」とお祈りすると、みんなが「本当にその通り」と「アーメン」という。「よい天気を与えられて（恵みの雨が与えられて）ありがとうございます」「本当にその通り」「春休みが守られますように」「本当にその通り」とみんなで、一緒に祈りをするんですね。

さあ、そういうわけですから、それでは先程の黙示録の「アーメンである方」というのはどういう意味でしょうか。それは「本当のお方」「真実のお方」という意味です。これは誰のことか判りますか？ こんなふうに言い換えると、もう判ったかもしれません。それは本当に本当のお方、決して嘘や間違いの無いお方、つまり私たちの主イエス様、主なる神様なのです。

## 〈展開2〉祈りは、私たちの真実と神様の真実の結びつきである

私たちがお祈りをささげるお方は、「本当の方、真実の方」です。決して嘘をついたり、誤魔化したりする方ではありません。そして、私たちは、そのお方に、お祈りをささげて、みんなで声を揃えて「アーメン」「本当にその通り」とお祈りするのです。

神様が本当のお方なのに、私たちの方が本当でなかったら、これは良くないですね。全然感謝していないのに「ありがとうございました」「アーメン」なんて言って、心の中では「何だ全然ありがたいじゃないよ」なんて思っていたら困りますね。そんな時は、心からありがとうございますと言えるように、本当に神様に心を込めて「ありがとうございます」って言うんですね。

友達と喧嘩しているのに、「今日も友達と仲良く出来てありがとうございました」「アーメン」なんて言ってたらおかしいですね。それならば、まず本当に友達と仲直りして、心から「友達と仲良く出来て本当にありがとうございました」ってお祈りして、それで本当に「本当にその通り」「アーメン」なんですよ。

私たちが神様にお祈りする時には、嘘をついてはいけませんね。神様は本当のお方なんですから私たちも本当の心で、神様と向かい合って、心からお祈りして、心から「アーメン」って言うことが大切なんですね。

## 〈展開3〉祈ることの大切さ

そんなに大変じゃあ、お祈りなんてしたくない。と思うかもしれません。誰かが「神様ありがとうございます」ってお祈りしても「僕はありがたくないから『アーメン』って言わない」、誰かが「みんな仲良く出来ますように」ってお祈りしても、「わたしは〇〇さんが嫌いだから『アーメン』って言わない」、それでは困りますね。これまでも教会学校でずっと学んできましたように、私たちは、神様にお祈りして、神様に色々なことをお願いして、神様に助けていただいて生きています。だから私たちはいつでもお祈りをしないではいけないのです。

心にも思っていないことを嘘をついてお祈りをしてはいけませんけれど、お祈りしなければいけないような大切なことまでお祈りしないのも、これもまた、いけないことです。

私たちはたくさんのを神様からいただき、たくさんのお願いを神様に聞いていただき、毎日毎日を過ごしています。神様は本当に心から私たちの事を大切に、私たちに救って、私たちの願いを聞いて下さいます。ですから、私たちも、本当に心から感謝して、「神様ありがとうございます」と祈り、「神様お願いします」と祈り、そして、「本当にその通り」「アーメン」とお祈りをささげるのです。一緒に心をあわせて、心から祈って参りましょう。（長田詠喜）

---

### 〔今週の暗唱聖句〕 コリントの信徒への手紙二 1章20節

神の約束は、ことごとくこのお方において『然り』となったからです。

それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して『アーメン』と唱えます。

---

## 〈ねらい〉

祈りについて多くを学んできたが、ひょっとして幼児にお祈りが難しいもの、自分には正しく祈れないという思いを持たせていないだろうか？ 真実なる主が思いも言葉も真実に聞き上げてくださることを確信できるように導こう。

## 〈展開例〉

アーメンという言葉がどういう言葉か、礼拝で聞きましたね。1歳の赤ちゃんでもアーメンといえます。どんなお祈りをしているかわからない赤ちゃんがアーメンなんて言っても神様は喜ばれないんじゃないかしら、と思いますか？ いいえ、神様はきっと喜んで聞いていてくださいます。誰かのお祈りの最後にみんなで心を合わせてアーメンという時、みんな神様の家族なんだなあ、と嬉しくなります。たくさんの言葉で祈れなくても、

間違えても、ちょっと心がざわざわしていても、神様はちゃんと聴いていてくださいます。安心して、どんな時でも・いつでもお祈りしましょう。自分のことだけでなく家族やお友達、世界中のお友達のため、お祈りすることはいっぱいあります。さあ、今日は何をお祈りしましょうか？ お祈りして欲しいことがある人は言ってください。今は恥ずかしくて言えないお友達は、後から内緒で教えてください。みんなのことをお家でもお祈りします。

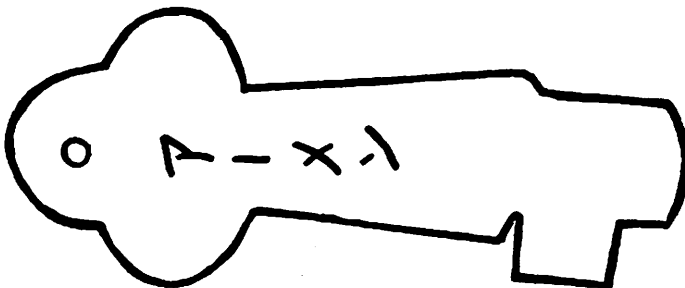
## 〈おいのり〉

天の父なる神様、お祈りを教えてください、お祈りを聞いていてくださり、本当に有難うございます。お祈りが大好きな子供にしてください。イエスさまによって、アーメン。(とりなしの祈りを加えよう)

## 〈やってみよう〉

129ページを参照して準備しましょう。

今日は暗唱する必要のないところです。作業を早めに切り上げ、お祈りについて対話をしてみましょう。家では、どんな時・どんなことを祈っているか、実際の話を書き添えてください。教師自身も、祈りについての証しをぜひ加えてください。



## 〈聖書の内容を確認してみよう〉

- ①どこの教会に宛てられた言葉？（→ラオディキア）
- ②私たちの教会には関係ない言葉？（→すべての教会にも宛てられた言葉）
- ③アーメンである方とは誰？（→イエスさま）
- ④アーメンとはどういう意味？（→確かである）
- ⑤イエスさまがアーメンである方とは、何が確かということ？（→私たちの救い、祝福）

## 〈カテキズムの内容を確認してみよう〉

- ①お祈りは誰のお名前によって祈る？（→イエスさま）
- ②お祈りは最後に何と言う？（→アーメン）
- ③アーメンとはどういう意味？（→確かである、真実）
- ④お祈りが聞かれるのは私たちのお祈りが正しいから？（→真実なイエスさまがとりなしてくださるから）
- ⑤私たちはどんなときでも神さまが聞いてくださることを信じてお祈りし、アーメンと言うことができる？（→できる）

## 〈考えてみよう〉

教会ではいつもお祈りのときにアーメンと言います。初めて教会に来たお友達に「アーメンってどういう意味？」と聞かれたら答えられるでしょうか。「確かです」とか「真実」とか「そのとおりです」という意味であると言えるようにしましょう。そして、いつもお祈りのときには神さまを信じて元気よく「アーメン」と言えるようにしましょう。自分がお祈りするときだけではなくありません。誰か他のお友達が祈りしたときにも「アーメン」と元気よく言います。だから、他の人のお祈りもよく聞いていなければいけません。誰かのお祈り中、違うことを考えていたり、おしゃべりしたりしていることはないでしょうか。よく聞いていなければ、「そのとおりです」とは言えないでしょう。これからも、みんなと一緒に祈りし、アーメンと声を合わせて神さまに呼びかけましょう。

## 〈一緒に祈ろう〉

天のお父さま。イエスさまを私たちに与えてくださってありがとうございます。イエスさまがいつも私たちと一緒にいてくださり、お祈りのときも助けてくださいます。イエスさまを信じて、これからもいつもお祈りをすることができますように。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



## 〈学びのポイント〉

アーメンをどう祈るのか

## 〈展開例〉

## ①アーメンは、お祈りが終わる合図？

主の祈りはアーメンという言葉で終わります。主の祈りだけでなく、いつもお祈りはアーメンとあって終わります。アーメンとは、お祈りがこれで終わりますよという合図なのでしょうか。アーメンとはどういう意味なのでしょう。

## ②アーメンの意味

アーメンは「本当にそのとおりです」という意味です。今、祈ったことは真実なことです。確かなことですよという意味です。

では、何が確かなのでしょうか。私はこの祈りを熱心に祈りました。確かに一生懸命願いましたという意味でしょうか。

そうではありません。私が真実に祈ったという意味ではなく、祈りを聞いてくださる神様が真実な方であるということです。また、この祈りが確かに聞き入れられるという意味です。それはこの主の祈りを教えてくださった主イエス様が「アーメンである方」「常に真実な方」であるからです。

「わたしたちが誠実でなくても、キリストは常に真実であられる。」(テモテニ2:13)

## ③アーメンは信仰のしるし

手紙を書くとき、自分の書いたしるしとして最後に名前を書きます。

アーメンも、私たちの信仰をあらわすしるしです。神様はこの祈りを確かに聞いてくださる方であるという信仰です。またアーメンは神様をほめたたえる言葉でもあります。神様は真実な方であることを告白する言葉なのです。

「神の約束は、ことごとくこの方において、『然り』となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して『アーメン』と唱えます。」(コリント二1:20)

## ④アーメンと祈ったあと……

神は確かに真実を持ってこの祈りにこたえてくださるとの確信を持ってアーメンと祈ったあと、私たちはどうすべきでしょうか。あとは神様におまかせして、何にもしなくてよいのでしょうか。

アーメンと祈ったあと、私たちは自分のできること、なすべきことを力をつくして行います。神様の真実が私たちを真実なものへと作り変えてくださるからです。

## 〈パーティーをして楽しみましょう〉

主の祈りの学び、そして学校の年度内の学びも今日で最後となります。4月から中学生になるお友達もいることでしょう。そこで、これまでの学びと交わりを感謝して、楽しくパーティーをしてみたいかですか？ 今までの学びの中で印象に残ったことや、楽しかったことなどを話しながら、おいしくいただきましょう。

## ○アイデア1……お抹茶と和菓子のパーティー

それらしいお茶碗を用意して、茶筌と抹茶とお湯を用意します。かるく泡立てて、さあ、おいしいお菓子とお抹茶を召し上げ。ちょっとかしまって、作法も一緒に勉強してみるのもいいでしょう。

## ○アイデア2……クレープパーティー

まずクレープの生地を作って焼いておきます。中に入れるフルーツやチョコや生クリームを用意します。子供たちに自由にトッピングしてもらってオリジナルクレープを作ります。

## ○アイデア3……フルーツパフェパーティー

透明なグラス、アイスクリーム、生クリーム、フルーツ、チョコ、フルーツソース、コーンフレーク、カステラなどを用意します。自由にトッピングして楽しいパフェを作ってください。

できあがったら記念写真を撮ることもよいでしょう。

飲み物も用意するのを忘れなく。

## 【目標】

「アーメン」と祈りを結べる恵みを知る。

祈りを閉じることさえも許してくださった。これは大きな恵みである。

## ①説教を深めるために

Q. 説教を聞いて新しく発見したことは？

Q. わからなかったことは？（分級では教師が一方的に教えるのではなく、ここで出された生徒の疑問を大切にしながら進めてゆけるならば理想的である）

## ③生徒と一緒に考える

→まず教師自身にとっての「アーメン」を祈ることのできる恵みについて、生徒と分かち合う。

Q. 「アーメン」の意味を知っていましたか？

Q. 逆に「アーメン」で閉じられない祈りがあったとしたら、その祈りを祈る時、どんな気持ちになりますか？

## ②あらためて御言葉に取り組む

→主の祈りをあらためて生徒と祈る。

Q. 安心して「アーメン」と言えることの嬉しさは何ですか？

Q. 疑問は解けましたか？

## 【ポイント】

「アーメン」という言葉は、神様に対する信頼の表明である。私たちは主の祈りを「アーメン」で閉じることができる。「真実である。確かである。」というこの言葉は、普通なら祈りが捧げられる、祈りの対象者の側が祈りの内容を確認して下さる際に発せられる言葉のように思えるが、私たちが自ら祈りを祈っているその最中において、私たちはそこで既に、「アーメン」と祈ってそれが神様に聞かれ、答えられることを確信することができるのである。主イエスは主の祈りというこの大きな祈りの最後に、私たちが「アーメン」と

## ④御言葉を生徒が自ら自分の日常に適用できるように導く

Q. 安心して「アーメン」と祈りを結ぶことができる時に、あなたの言葉は神様との関係の中で確かな祈りとして成立しています。これからの一週をどんな一週間にしたいですか？

## 幼稚科展開例〈やってみよう〉 「折りのカギカード」

### ○教師が準備すること

用意するもの

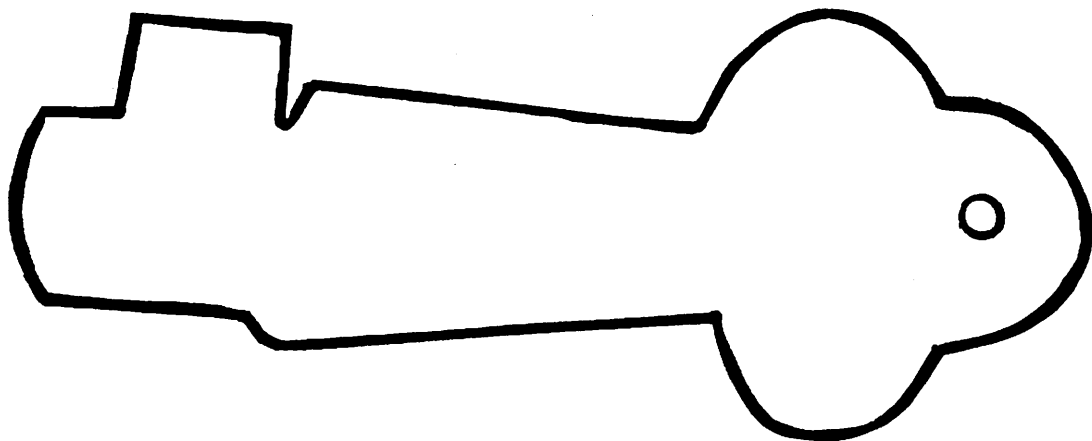
ボール紙、色画用紙、一穴パンチ（二穴でも可）、リング（単語カード用のようなもの）またはリボン、カッターまたははさみ、折り紙、サインペン、色鉛筆、そのほか飾りになるもの（シールなど）

- ①「いのりのかぎカード」（下の図、原寸大）型紙を作ります。固めのボール紙が適当です。
- ②型紙を使い、色画用紙にカギを書き写し、人数分切り抜きます。きれいに切り抜きましょう。得意な方にまとめて手伝っていただいてもいいでしょう。毎週ちがう色にすると楽しい。
- ③穴はパンチであけますが、出来そうな子供がいるときはあけないでおきましょう。
- ④「かぎカード」にその週に学ぶ主の折りの言葉をバランスよく書いておきます。文字が書ける子がいれば白紙のまま。
- ⑤人数分のリングを用意します。毎週新しいカギカードをリングに入れていきます。穴にリボンを結べばしおりにもなります。暗唱聖句作りなどで将来にも使えます。カギの形にしたのは、「み言葉は私達の心の扉を開けるカギ」というほどの意味。
- ⑥欠席した子の分も作っておけば、主の折りを学び終えた時クラス全員の子が完成した「いのりのかぎカード」を持つことができます。

### ○各週に子供がすること

- ①パンチで穴をあける。
- ②文字が書ける子は、その日の折りの言葉を記入する。文字のまわり、裏などを色鉛筆などで飾る。折り紙を小さく切ったものなどを貼って飾る。
- ③その日の折りの言葉を繰り返し読む。一人一人で読む。みんなで読む。余裕があれば、前週までの分を復習する。

※毎週小さなスペースに絵などを描くだけでは単調になるかも知れません。また、取り組めない幼児のためにも折り紙やお絵かき等の用意をしたり、簡単な手遊びなども随時加えてください。



## 第10課 昭和のキリスト教会（その二）

## 3. 原則なき教会合同へ

日本基督教連盟による教会合同運動がなされていたとはいえ、宗教団体が成立した当初は、各教派教会とも全教派の合同などということは考えもせず、宗教団体の認可を受けるための準備をおのおの独自にすすめていました。

しかし、そこに重大な出来事が続けておこります。ひとつは、1940（昭和15）年6月に文部省が宗教団体の管理と統制のために、各教団を設立するための条件として教会数50、信徒数5000という基準をもうけたことです。これに満たない教派教団は宗教結社とされ、官憲の直接の監督下に置かれることとなったのです。

当時日本基督教連盟に属していた23の教派のうち、この条件を満たしていたのはわずか七つにすぎませんでした。そこで以後は比較的関係の近い教派同士の合同があいついでなされました。

もうひとつは、その翌月に起こった救世軍スパイ事件です。戦時色が強まるとともにキリスト教は敵性国家米英の宗教であるとの偏見や圧力も増していましたが、とくに軍隊にならう組織を持ち、イギリスのロンドンに本営を持つ救世軍は国体に反するものとして白眼視され、ついに4人の幹部がスパイの疑いをかけられて検挙されるという事態にいたります。

この事件が当時の教会に与えた衝撃はきわめて大きなものでした。指導者たちは各教派が外国ミッションとの関係を絶たなければ同じような事態にあうのではないかと恐れ、小さな教派は団結して身を守り、国家の保護を受けなければどのような危険が迫ってくるかわからないと危機意識をつのらせました。結果として教会や神学の議論はおきざりにされたまま、ただ国家情勢にながされての教会合同運動が急速に進展をみることになるのです。

## 4. 日本基督教団の創立

その年の10月には皇紀二千六百年奉祝全国基督教信徒大会と銘打たれた集会在東京で開かれ、全国から二万人ものキリスト者たちが集まりました。この集会は宣言を採択しましたが、その内容は「神武天皇以来の皇統をことほぎ、現人神天皇をたたえ、戦時下にあつて大東亜新秩序の建設に邁（まい）進しつつある祖国にならつて、われらキリスト者も教派教会をこえ、合同一致して大政を翼賛し、尽忠報国の誠をいたさん」というもので、もはやそこにはキリスト教的な要素はみじんも見られません。この奉祝大会が全教派合同、すなわち日本基督教団創立の背中を押したということも、日本基督教団がどのような団体であったのかということを示していると思います。

奉祝大会の翌日には各教派から委員たちが集まって教会合同のための準備委員会がもたれ、以後会合がかさねられます。しかしよいよ具体的な問題にはいると、やはり各派ごとの信条や教会政治の違いが合同協議をさまたげることにもなります。

最初は、教会合同をなす以上はひとつの信条とひとつの組織をもつ教会であるべきだとして、信条の制定が検討されました。このことを強く主張したのは日本基督教会の人々です。やはり日本基督教会は、信条のないままの教会合同には反対だったのです。けれども信条草案の協議において日本基督教会と他の教派との間でどうしてもおりあいがつかず、結局当面は部制（いくつかのブロックに分けて、おのおのの信仰の伝統や活動を温存する）を採用することとなりました。当時の日本のプロテスタントの全教派の合同によって日本基督教団が創立されたのは1941（昭和16）年6月のことでした。（木下裕也）



## 第11課 昭和のキリスト教会（その三）

## 5. 部制とその廃止

先に見たように、日本基督教団は当初部制を採用していました。創立時には34の教派教会が11の部に分けられていました。

しかし、この教会も宗教団体法下にある以上、統理者を通して政府当局の絶大な権限のもとに置かれていました。教団の統制ということからして、部制ほどじやまなものはありません。政府の圧力や第6部、第9部に属していたホーリネス教会の弾圧などもあって、ほどなくして部制も廃止されてしまいます。このように日本基督教団が信条ももたず、各派の信仰的伝統も捨てて、宗教団体法のもとに統理者制をとる教会となっていくプロセスは、まさに日本の教会があげて現人神天皇の前にひざまづき、天皇の名において遂行される侵略戦争に忠実に加担する団体となるための準備にほかならなかったのです。

## 6. 戦時下のキリスト教会

戦時中の教会は、明治以来の神社非宗教論に無残にもからめとられてしまっていたと言わなければなりません。日本基督教団の統理者富田満はみずからも伊勢神宮に参拝しましたが、1938年には植民地朝鮮の教会を訪れ（当時は日本基督教大会議長）、朝鮮のキリスト者たちにも神社参拝を強要しました（このとき朝鮮のキリスト教会は多くの殉教者を出しました）。その説得の論法は、神社参拝は国家の儀礼にすぎないし、私たちはキリスト教信仰を捨てよと命じられているわけではない、もしもキリスト教を捨てよと言われたなら、そのときにこそ身をもって抵抗すべきであるというものでした。十戒の第一戒を守りぬく信仰がもっとも鋭く問われたのは、まさしくこの時代であったのです。

この時期の日本基督教団のありようを示すふたつの文書があります。ひとつは「日本基督教団戦時布教指針」です。文部省の官僚にうながされて

作った文書とされるものです。日本基督教団は国體の本義に徹し、忠君愛國の精神にたつて大東亜戦争の目的完遂に邁進し、必勝を祈願すると述べるもので、もはや教会の自律性は見るかげもありません。この教会がいかに戦争に奉仕する団体となっていたかが証明されていると思います。

もうひとつは「日本基督教団より大東亜共栄圏にある基督教徒に送る書簡」です。大東亜共栄圏とは日本による中国、さらに東南アジア侵略を正当化するために考え出された理論で、この書簡も日本基督教団統理者の名で中国、朝鮮、台湾などに送られました。教会が置かれた状況によっては聖書のみ言葉やキリスト教的な言葉をいかに巧妙に、また悲惨きわまりないしかたですりかえるのかということを実にあらわしている文書といえます。

この時代は日本の教会にとって最大の試練の時代でした。教会やキリスト者たちにも神社や神棚の参拝、戦勝祈願、君が代をうたうことなどが強制され、礼拝堂には天皇の肖像がかかげられ、説教においても滅私奉公の精神が説かれました。教会は決してみずから戦争をしかけたわけではなかったでしょう。良心的な牧師たちは牧会的な配慮に苦しんででしょうし、日本基督教団の指導者たちも教団を維持するために、しばしば苦渋の選択をせまられたにちがいません。そもそも全教派の合同ということそのものが、日本の教会がこの厳しい時代を生きのびるための窮余の手だてであったとも言い得るのです。

けれども、やはりそれらのことを含み込んだうえで、私たちは戦時中の教会の罪と弱さをあいまいにせず、正面から見据えるまなざしを持たなければならないと思います。教会の戦争協力がたんに政府や軍部の圧力によるものであったという考えをしりぞけ、教会自身にどのような問題があったのかということを実に検証することが必要です。ことは神学的問題であると考え、明治以来の教会の体質を問い直さなければならないでしょう。（木下裕也）

## 第12課 昭和のキリスト教会 (その四)

## 7. 敗戦とキリスト教会

1945 (昭和20)年8月、戦争は日本の無条件降伏をもって終結しました。ただちに日本を占領下においた連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)は、政治のみならず経済、教育、文化など広い範囲におよぶ民主化政策を実行します。特高の廃止、治安維持法の廃止、婦人の解放と参政権の付与、教育の自由主義化、経済の民主化などです。この年の12月には神道指令によって国家神道が廃止され、神社は宗教法人となり、宗教団体法も廃止されてあらたに宗教法人法が制定されました。

翌年1月に天皇はみづから神格を否定する詔書を出し、翌47年5月には大日本帝国憲法にかわって信教の自由と政教分離を明記した日本国憲法が施行されました。敗戦は明治維新以後存続した近代天皇制の崩壊をも意味する出来事でした。そしてキリスト教会にとっては、それまで長くのしかかっていた重荷からようやく解かれることをも意味したのです。

では日本基督教団は敗戦という出来事にどのように応じたのでしょうか。実は45年8月に入っても戦争の終結を予想だにせず、戦時下の活動を続けていました。8月16日にも戦意高揚音楽礼拝なる行事を予定していたと伝えられます。敗戦当日まで必勝態勢にあった日本基督教団には、戦後への備えはまったくありませんでした。8月28日に戦後対策のためにもたれた会合のうちに作られた文書にも、敗戦は教会の天皇への忠誠が足りなかった結果であると記されています。戦争責任への自覚はきわめて不十分であったと言わなければなりません。このように日本基督教団は、戦時下におけるみづからのありようへの悔い改めを決定的に欠いたままで戦後の歩みを歩み出しました。

GHQは物心両面で教会の戦後復興の力となり、

敗戦後数年の間にはいわゆるキリスト教ブームも起こり、多くの人々が教会を訪れました。しかし間もなく日本の占領が解かれ、政治的反動期に入るとともにブームは去り、教勢は停滞しました。ブームに終わらない土台のすわった伝道と教会形成をいかにしていくのかということが、現在にいたるまで日本の教会の重要な課題であることは確かでしょう。

宗教団体法の廃止は、この法律とのかかわりのなかで成立した日本基督教団にとっては重大な転機を意味する出来事でした。戦後日本基督教団がどうあるべきかについては、見解と立場は分されました。この教会が教会的な動機から生まれたのではないにせよ、戦後もそこにとどまって再建のために労苦することが悔い改めであるとする人々もありました。

しかし、宗教団体法の廃止を契機にこの教会を解散すべきであり、かりに存続するとしてもそこからの離脱は自由であるとする人々もありました。

敗戦から数年のうちに諸教派があいついで日本基督教団から離脱し、もとの教派に復しておのの活動を再開します。福音ルーテル、バプテスト連盟、救世軍、ホーリネス、ナザレン、アッセンブリーなどです。明確な信条と教会政治に立つ教派ほど日本基督教団にとどまることができなかったということはあったと思われます。

1946年4月の日本基督改革派教会の創立は、創立者たちが属していた日本基督教会のありようのみならず、明治以来の日本のプロテスタント教会の路線そのものへの根本的問いかけたり得ています。この教会が信条と教会政治とにおいて厳密であろうとし、強固なカルヴィニズムに立つ教会を日本にうちたてることをこころざした点においてです。

(木下裕也)

## 2006年4～6月カリキュラム (第21号)

—救済史に基づく二年サイクルカリキュラムの一年目—

月 日	主 題	聖 書 箇 所	暗 唱 聖 句
教会暦・行事	単 元 の 目 標		
4月2日 レント・進級	十字架のキリスト	マルコ15:21-32	詩編22:30-32
	キリストを侮辱する者の姿を見て、キリストの十字架の意味を考える		
4月9日 受難週	葬られるキリスト	マルコ15:42-47	ヘブライ12:2
	キリストの死を確認することにより、神の贖いの御業に感謝するよう招く		
4月16日 イースター	キリストの復活	マルコ16:1-8	ヨハネ11:25
	死から復活されたキリストを仰ぎ、死からの復活の希望を持たせる		
4月23日	天地の創造	創世記1:1-31	ヨハネ1:3
	神がすべてを創造された方であり、世界の主権者であられることを覚える		
4月30日	人間の創造	創世記2:4-25	創世記2:7
	人は神に造られて生きているのであり、神があって人が生きていることを知る		
5月7日	人間の墮落と救いの約束	創世記3:1-15	ローマ6:23
	人の罪を知り、自分の罪を知り、悔い改めと主の信仰に招く		
5月14日 母の日	ノアの箱舟	創世記6:1-22	ヘブライ12:7
	人の罪の行く末と神の一方的な恵みを知り、神への感謝へと招く		
5月21日	バベルの塔	創世記11:1-9	コリント二10:17
	自らが神になろうとする人の姿と、それを裁く力を有しておられる神を見る		
5月28日	アブラハムの召命	創世記12:1-9	創世記12:4a
	神の一方的な選びと召しに、自分たちもあずかっていることを悟らせる		
6月4日 ペンテコステ	教会の誕生	使徒言行録2:1-13	使徒言行録2:4
	精霊が働くところに神の教会がある。教会を建てて民を養う神への感謝に招く		
6月11日 花の日	アブラハムへの約束	創世記15:1-21	創世記15:6
	アブラハムの信仰の姿を通して、人の心をとらえる神の御業へと招く		
6月18日 父の日	イサクの誕生と奉獻	創世記21:1-8、22:1-19	創世記22:14b
	アブラハムの信仰を確認し、信仰によって与えられる主の恵みの感謝へと招く		
6月25日	ヤコブとエサウ	創世記27:18-29	ヘブライ12:16
	人の企てを用いて主が成就される御業のすばらしさを知り、主への信仰に招く		

## 2006年度 年間カリキュラム

(2006年4月～2007年3月)

二年サイクルの聖書物語(救済史)と教会暦の併用カリキュラム

年・号	月 日	教会暦・行事	主 題	聖 書 箇 所
2006年 21号	4月2日	進級式・レント	十字架のキリスト	マルコ15:21-32
	4月9日	受難週	葬られるキリスト	マルコ15:42-47
	4月16日	復活祭	キリストの復活	マルコ16:1-8
	4月23日		天地の創造	創世記1:1-31
	4月30日		人間の創造	創世記2:4-25
	5月7日		人間の墮落と救いの約束	創世記3:1-15
	5月14日	母の日	ノアの箱舟	創世記6:1-22
	5月21日		バベルの塔	創世記11:1-9
	5月28日		アブラハムの召命	創世記12:1-9
	6月4日	聖霊降臨祭	教会の誕生	使徒2:1-13
	6月11日	花の日	アブラハムへの約束	創世記15:1-21
	6月18日	父の日	イサクの誕生と奉獻	創世記21:1-8, 22:1-19
	6月25日		ヤコブとエサウ	創世記27:18-29
	22号	7月2日		ヨセフの苦難
7月9日			ヨセフの勝利	創世記50:15-21
7月16日			モーセの誕生	出エジプト1:22-2:10
7月23日			モーセの召命	出エジプト3:1-14
7月30日			主の過ぎ越し	出エジプト12:1-32
8月6日			葦の海を渡る	出エジプト14:1-31
8月13日		平和主日	平和を創り出す	エフェソ2:14-22
8月20日			天からの食べ物	出エジプト16:1-36
8月27日			十戒を与えられる	出エジプト19:20-20:17
9月3日			金の子牛	出エジプト32:1-14
9月10日			幕屋づくりと礼拝	出エジプト40:17-38
9月17日		(18敬老の日)	カナン偵察	民数記14:1-10
9月24日			モーセの死	申命記34:1-12

年・号	月 日	教会暦・行事	主 題 (仮題)	聖 書 箇 所
2006年 23号	10月1日		洗礼をお受けになる主イエス	マタイ3：13-17
	10月8日		荒れ野での誘惑	マタイ4：1-11
	10月15日		弟子の召命	マタイ4：18-22
	10月22日		幸いの説教	マタイ5：1-12
	10月29日	宗教改革記念日	思い煩いからの解放	マタイ6：25-34
	11月5日		人を裁くな	マタイ7：1-6
	11月12日		岩の上に家を建てる	マタイ7：24-29
	11月19日		一羽の雀でさえ	マタイ10：26-31
	11月26日	アドベント	重荷を負う者への招き	マタイ11：25-30
	12月3日	アドベント	平和の主の預言	ゼカリヤ9：9-10
	12月10日	アドベント	真の羊飼いの預言	エゼキエル34：1-16
	12月17日	アドベント	心が新しくされる預言	エゼキエル36：25-28
	12月24日	アドベント	御子の降誕	ルカ2：1-7
	12月31日	年末	少年イエス	ルカ2：41-52
2007年 24号	1月7日	新年	5000人の給食	マタイ14：13-21
	1月14日		嵐を鎮める主	マタイ8：19-22
	1月21日		ペトロの信仰告白	マタイ16：13-20
	1月28日		山上の変貌	マタイ17：1-8
	2月4日		善きサマリア人	ルカ10：25-37
	2月11日	(信仰の自由)	見失った羊のたとえ	マタイ18：12-14
	2月18日		放蕩息子	ルカ15：11-32
	2月25日	レント	マルタとマリア	ルカ10：38-42
	3月4日	レント	幼児の祝福	マタイ19：13-15
	3月11日	レント	金持ちの青年	マタイ19：16-30
	3月18日	レント	ザアカイの救い	ルカ9：1-10
	3月25日	レント	種まきのたとえ	マタイ13：1-9, 18-23

## 〈編集後記〉

●形骸化しやすい主の祈りを幼児が生き生きと祈れることを願って（石川千鶴子）。●二年間のカリキュラムのための執筆が守られて感謝です。子どもたちの成長を祈ります（石原知弘）。●主の祈りを学ぶよい機会となりましたことを感謝いたします（漆崎春美）。●日曜学校の先生方の御奉仕が祝福されますようにお祈りいたします（吉岡契典）。●主の愛に心燃やされて、子ども達の前に立ちたいですね。お互いのために祈りを！（相馬伸郎）。●継続は力なり。されど、主のお求めになる要求は遙かかなたのようです（辻幸宏）。

## 〈あとがき〉

●『子どもカテキズム』を用いた2回目のカリキュラムの締めくくり。心を込めてお届けいたします。正しいカテキズム教育は、信仰告白と教理の生活化、そして伝道の言葉の獲得にもなると信じています。教師の皆様！共に祈りの灯を燃や

し続け、契約の子を養い訓練し、地域の子たちを主に導くこの光栄なる奉仕に、なお励んでまいりましょう。●発行5年目を終えて、次号はリニューアルを予定しています。すでに前号でお知らせしたとおり、聖書物語（救済史）に基づく二年間のカリキュラムでお届けいたします。成人科は石丸新教師（東部中会引退教師）が執筆してくださいます。聖書日課を盛り込むことも計画しています。そのほか、楽しみにお待ちください。

## 〈購読の申し込み〉

『教会学校教案誌』をぜひご購入ください。別冊『子どもカテキズム』（300円）、バックナンバーもあります。第2～12号は一部500円で販売しています。

名古屋岩の上伝道所 相馬伸郎まで

〒458-0021 名古屋市緑区滝の水2-2012

Tel/Fax. 052-895-6701

## ☆ 執筆者一覧 ☆

### まえがき

吉田隆（仙台教会牧師）

### 巻頭説教

村手淳（太田伝道所宣教教師）

### 稲毛海岸教会日曜学校の紹介

三川栄二（稲毛海岸教会牧師）

### 連載「日曜学校教師会のために」

相馬伸郎（名古屋岩の上伝道所宣教教師）

### 聖書研究

春名義行

辻幸宏（大垣伝道所協力牧師）

山下朋彦（平和の君伝道所宣教教師）

杉山昌樹（瑞浪伝道所宣教教師）

貫洞賢次（札幌伝道所宣教教師）

牧野信成（千里山教会牧師）

### カテキズム研究

相馬伸郎（名古屋岩の上伝道所宣教教師）

久保浩文（高知教会牧師）

宮崎彌男（筑波みことば伝道所宣教教師）

木下裕也（名古屋教会牧師）

三川栄二（稲毛海岸教会牧師）

### 説教展開例

辻幸宏（大垣伝道所協力牧師）

望月信（高蔵寺教会牧師）

木下裕也（名古屋教会牧師）

相馬伸郎（名古屋岩の上伝道所宣教教師）

小野田雄二（上野緑ヶ丘教会牧師）

小堀昇（CRC 東洋宣教伝道所協力教師）

千ヶ崎基（草加松原教会牧師）

長田詠喜（高松東教会牧師）

### 分級展開例

幼稚科 石川千鶴子

（横浜教会日曜学校教師）

小学科下級 石原知弘

（北神戸キリスト伝道所宣教教師）

小学科上級 漆崎春美

（金沢伝道所日曜学校教師）

中学科 吉岡契典（仙台カナン教会牧師）

成人科 木下裕也（名古屋教会牧師）

### 表紙イラスト

坂野知子（松戸小金原教会日曜学校教師）

### 本文イラスト

平尾信子（高蔵寺教会教会学校教師）

---

☆ 編集部 ☆

相馬伸郎 (長)	名古屋岩の上伝道所宣教教師
木下裕也	名古屋教会牧師
辻幸宏	大垣伝道所協力牧師
望月信	高蔵寺教会牧師

---

日本キリスト改革派教会 中部中会 『教会学校教案誌』  
2006年1・2・3月号 (季刊)  
第20号  
2005年11月20日発行

発行	日本キリスト改革派教会 中部中会 教育委員会
発行所	日本キリスト改革派教会 中部中会 教会学校教案誌編集部 名古屋岩の上伝道所 宣教教師 相馬伸郎 〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012 Tel/Fax. 052-895-6701
郵便振替口座	00890-2-148183 「伊藤治郎」
編集・印刷	株式会社あるむ 〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田3-1-12 第三記念橋ビル3F
頒価	900円 (本体価格)

---